SONY

3-074-615-**02** (1)

デジタルビデオカメラレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

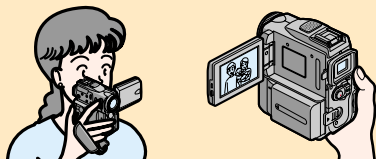
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Digital Handycam

DCR-PC101K

こんなことができます 2ページ
とにかく撮って見る 6ページ
準備 10ページ
撮る 20ページ
見る 32ページ
使いこなす—撮影 38ページ
使いこなす—再生 62ページ
編集する—ダビングなど 73ページ
“メモリースティック”を使う 107ページ
パソコンと接続する 157ページ
設定を変える 182ページ
故障かな？と思ったら 191ページ
その他 202ページ
検索する 213ページ

こんなことができます

動画や静止画を撮影して、再生できます。

テープに

- 動画を撮影する　20ページ
- 静止画を撮影する　40ページ
- 撮影した映像を再生する　32ページ

“ メモリースティック ”に

- 静止画を記録する　38、116ページ
- 動画を記録する　128ページ
- 記録した静止画を見る　139ページ
- 記録した動画を見る　142ページ

画像をパソコンに取り込めます。

- テープに記録した映像を別売りのUSBケーブルを使ってパソコンで見る　169ページ
- “メモリースティック”の画像を別売りのUSBケーブルを使ってパソコンで見る　174、179ページ
- カメラに映っている画像を別売りのUSBケーブルを使ってパソコンに取り込む　171ページ
- 本機を使ってアナログ信号をデジタル変換してパソコンに取り込む　181ページ

お使いになる前に必ずお読みください

カセットメモリー付きのミニDVカセットをおすすめします

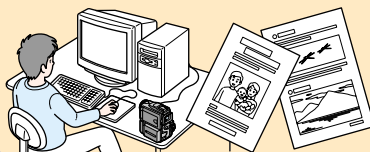
本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。ミニDVカセットでのみご使用になれます。本機ではカセットメモリー付きのミニDVカセットを推奨しています。

カセットメモリーの有無により操作方法の違う機能

エンドサーチ（30ページ）
日付サーチ（68ページ）
フォトサーチ（70ページ）

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能

「タイトル場面を頭出しする－タイトルサーチ」（67ページ）
「タイトルを入れる」（98ページ）
「カセットに名前を付ける－カセットラベル」（104ページ）

詳しくは202ページをご覧ください。

カセットメモリー付きカセットでのみできる機能には、説明の前に左のマークが付いています。

カセットメモリー付きミニDVカセットにはマークが付いています。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません

万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

さらにこんなことができます。

明るさが気になるときの撮影

- 逆光補正 （26ページ）
- NIGHTSHOT/
  SUPER NIGHTSHOT/
  COLOR SLOW SHUTTER （27ページ）
- プログラムAE （49ページ）
- ホワイトバランス （42ページ）
- 明るさ調節 （51ページ）
- フレキシブルスポット測光 （53ページ）

インパクトのある画像を作るための機能

- デジタルズーム （24ページ）
  お買い上げ時の設定は「切」になっています。（10倍を超えるズームを使うにはメニューで「デジタルズーム」の倍率を選択してください。）
- フェーダー （44ページ）
- ピクチャーエフェクト （46ページ）
- デジタルエフェクト （47ページ）
- タイトル （98ページ）
- メモリーミックス （123ページ）

さりげなく自然な画像にするための機能

- スポーツレッスン （49ページ）
- 風景 （49ページ）
- 手動ピント合わせ （54ページ）
- スポットフォーカス （55ページ）

撮影し終わったテープで行う機能

- エンドサーチ/
  エディットサーチ/
  レックレビュー （30ページ）
- データコード （34ページ）
- テープ再生ズーム （64ページ）
- ゼロセットメモリー （66ページ）
- タイトルサーチ （67ページ）
- デジタルプログラムエディット
  （75、132ページ）

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面、ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんのでご安心してお使いください。
- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

本書内の写真について

液晶画面やファインダーの映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

* Modulation（モジュレーション） Transfer（トランスファー） Function（ファンクション）の略。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

目次

こんなことができます 2
とにかく撮って見る ーテープ編 6
とにかく撮って見る ー“ メモリースティック ”編 8

準備

準備1 電源を**準備する** 10
バッテリーを取り付ける 10
バッテリーを充電する 11
コンセントにつないで使う 14
準備2 日付・時刻を合わせる 15
準備3 カセットを入れる 17
準備4 タッチパネルの使い方 18

撮る

撮影する 20
逆光補正をする 26
暗闇で撮るーNIGHTSHOT（ナイトショット）/
SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）/
COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター） 27
セルフタイマー撮影 29
次の撮影開始点を探すーエンドサーチ/
エディットサーチ/レックレビュー 30

見る

再生する 32
テープカウンター、日付データ/カメラデータなどの
表示を出すー画面表示機能 34
テレビで見る 37

使いこなす —撮影

テープ撮影中に“ メモリースティック ”に静止画を撮る 38
テープに静止画を撮る ー テープフォト撮影 40
自然な色あいに調節する ー ホワイトバランス 42
横長の画面にする ー ワイドTVモード 43
効果的な場面転換をする ー フェーダー 44
画像に特殊効果を加える ー ピクチャーエフェクト 46
特殊な演出を加えて撮る ー デジタルエフェクト 47
撮影状況に合わせて撮る ー プログラムAE 49
手動で画像の明るさを調節する 51
撮りたいポイントの明るさを最適にする
ー フレキシブルスポット測光 53
手動でピントを合わせる 54
撮りたいポイントにピントを合わせる
ー スポットフォーカス 55
一定時間おきに撮る ー インターバル録画 56
アニメーションのように撮る ー コマ撮り 59
ファインダーを見ながら操作する 60

使いこなす —再生

画像にピクチャーエフェクトを加えて見る 62
画像にデジタルエフェクトを加えて見る 63
撮影した画像を拡大する ー テープ再生ズーム 64
見たい場面にすばやく戻す ー ゼロセットメモリー 66
タイトル場面を頭出しする ー タイトルサーチ 67
撮影日で頭出しする ー 日付サーチ 68
見たい静止画を探す ー フォトサーチ/フォトスキャン 70

編集する —ダビングなど

他のビデオへ**ダビングする** 73
必要な場面を選びダビングする
ー デジタルプログラムエディット（他機のテープへ） 75

編集する
—ダビングなど

ビデオやテレビから録画する 88
撮影したテープに新しく画像を挿入する 92
記録済みテープに音声を追加する ー アフレコ 94
タイトルを入れる 98
オリジナルタイトルを作る 101
カセットに名前を付ける ー カセットラベル 104

“メモリースティック”を使う

“メモリースティック”を使う ー はじめに 107
“メモリースティック”に静止画を撮る ー メモリーフォト撮影 116
テープの画像を静止画として取りこむ 121
静止画を重ねて撮る ー メモリーミックス 123
“メモリースティック”に動画を撮る ー MPEGムービー撮影 128
テープの画像を動画として取りこむ 130
テープの画像を編集して取りこむ
ー デジタルプログラムエディット（“メモリースティック”へ） 132
テープの静止画を自動記録する ー オートフォトコピー 137
静止画を見る ー メモリーフォト再生 139
動画を見る ー MPEGムービー再生 142
“メモリースティック”に撮った静止画を拡大する
ー メモリー再生ズーム 145
画像を順番に自動再生する ー スライドショー 147
大事な画像を残す ー プロテクト 149
画像を消す ー 消去 150
プリントマークを付ける ー プリントマーク 154
別売りのプリンターを使う 155

パソコンと接続する

画像をパソコンで見る ー はじめに 157
USB端子でパソコンに接続する
ー Windowsをお使いの方へ 160
パソコンでテープの画像を見る
ー Windowsをお使いの方へ 169
パソコンで“メモリースティック”の画像を見る
ー Windowsをお使いの方へ 174
USB端子でパソコンに接続する
ー Macintoshをお使いの方へ 177
パソコンで“メモリースティック”の画像を見る
ー Macintoshをお使いの方へ 179
アナログ機器とパソコンをつなげて使う ー デジタル変換機能 181

設定を変える

メニューでお買い上げ時の設定を変える 182

故障かな？と思ったら

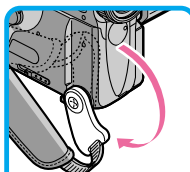
故障かな？と思ったら 191
自己診断表示 ー アルファベットで始まる表示が出たら 199
警告表示とお知らせメッセージ 200

その他

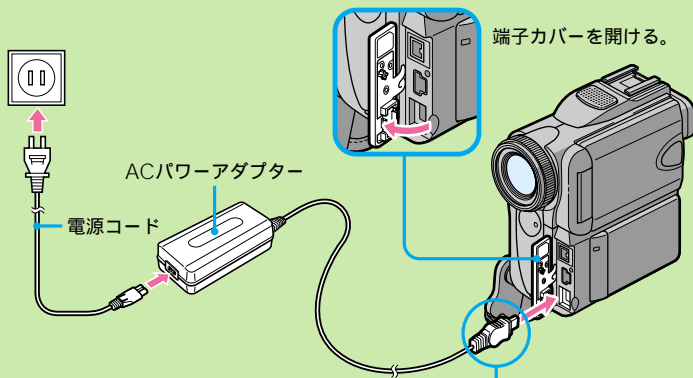
ビデオカセットについて 202
InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて 204
i.LINK（アイリンク）について 205
海外で使う 206
お手入れ 207
主な仕様 210
保証書とアフターサービス 212

検索する

各部の名前 213
索引 218

とにかく撮って見る –テープ編

ここでは本機の使い方を簡単に説明します。詳しくは（　）内のページをご覧ください。
図のようにホールドグリップを下げて、グリップベルトに手を通してお持ちください。

1 電源をつなぐ（14ページ）

屋外ではバッテリーを使います → 10ページ

2 カセットを入れる（17ページ）

❶ 開く/▲カセット取出しつまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。

❷ カセットの背の中央部を押して、テープ窓を上にして入れる。

❸ PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。

3 撮影する（20ページ）

❶ **レンズキャップをはずす。**

❷ **緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

❸ **OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。**
液晶画面に画像が映る。

ファインダー
液晶画面を閉じているときは、ここをのばしてから目を当てて画像を見ます。ご自分の視力に合わせて、視度を調節してください。（23ページ）

❹ **スタート/ストップボタンを押す。**
撮影が始まる。

もう一度押すと止まる。

お買い上げ時には日付・時刻の設定はされていません。
撮影する前に日付・時刻を合わせてください。（15ページ）

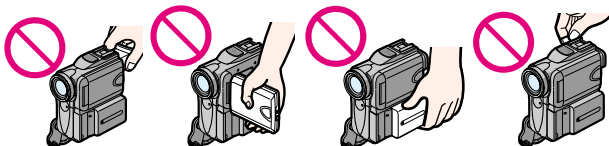
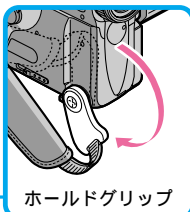
4 液晶画面で見る（32ページ）

❶ **緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。**

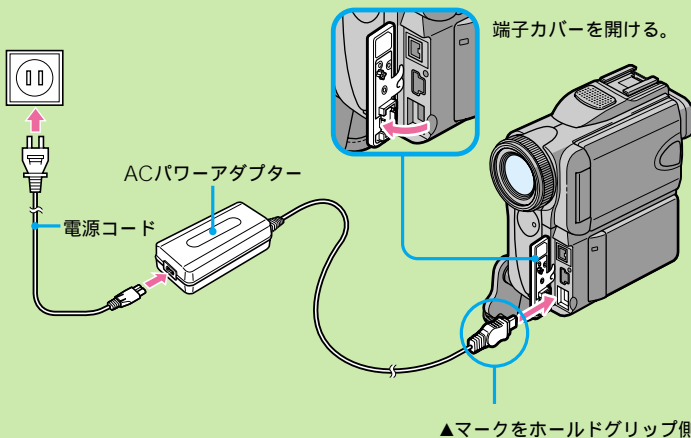
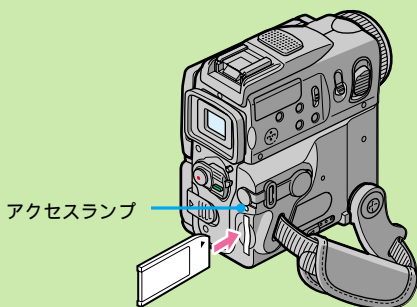
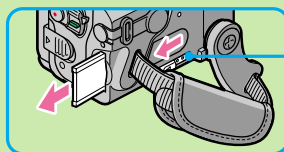
❷ **タッチパネルの ◀◀ （巻戻しボタン）を押してテープを巻き戻す。** ◀◀

❸ **▶ ‖ （再生ボタン）を押すとテープが再生される。** ▶ ‖

ご注意
タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で軽く押してください。ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。

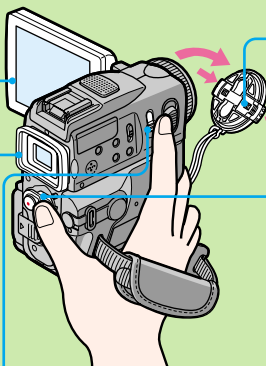
ご注意
ファインダーや液晶画面、バッテリー、端子カバーをつかんで、本機を持ち上げないでください。

とにかく撮って見る –“ メモリースティック ”編

**ここでは本機の“ メモリースティック ”での使い方を簡単に説明します。詳しくは（　）内のページをご覧ください。
図のようにホールドグリップを下げて、グリップベルトに手を通してお持ちください。**

1 電源をつなぐ（14ページ）

屋外ではバッテリーを使います → 10ページ

2 “ メモリースティック ”を入れる（108ページ）

▶マークを左図のようにして奥まで押しこむ。
取り出すときは、メモリー取出しつまみを下図の矢印の方向へずらす。

3 “メモリースティック”に静止画を撮る（116ページ）

❸ OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。
液晶画面に画像が映る。

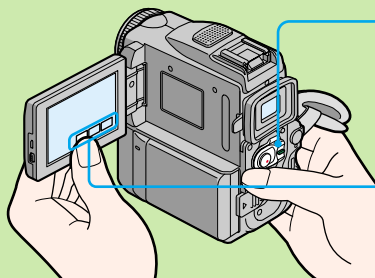
ファインダー
液晶画面を閉じているときは、ここをのばしてから目を当てて画像を見ます。
ご自分の視力に合わせて、視度を調節してください。（23ページ）

お買い上げ時には日付・時刻の設定はされていません。撮影する前に日付・時刻を合わせてください。（15ページ）

❶ レンズキャップをはずす。

❷ 緑のボタンを押しながら「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❹ フォトボタンを軽く押す。
緑の●が点滅から点灯に変わり撮影可能となる。

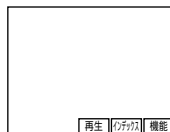
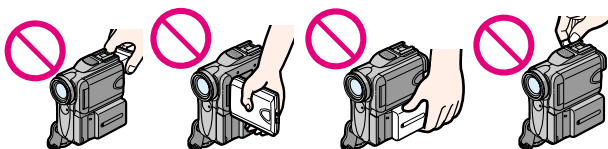
❺ フォトボタンを深く押す。
ボタンを深く押したときの画像が“メモリースティック”に記録される。

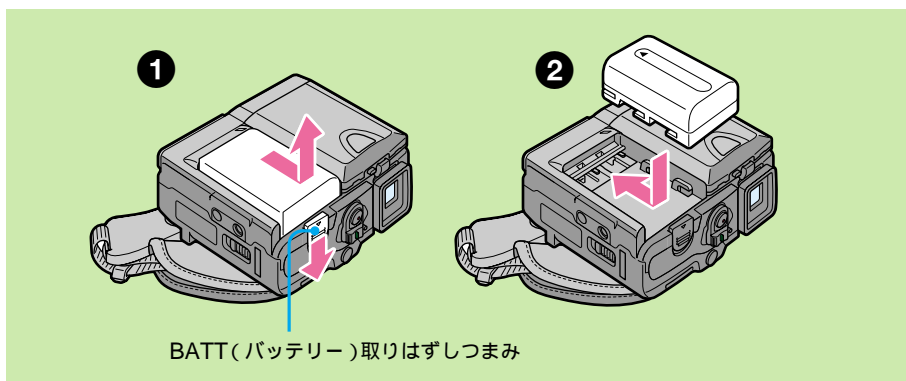
4 液晶画面で静止画を見る（139ページ）

❶ 緑のボタンを押しながら「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ 「再生」を押す。
最後に撮影した画像が出る。

ご注意

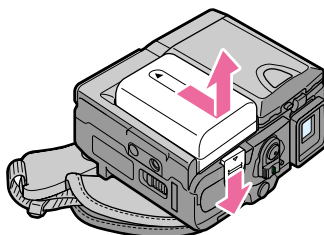
ファインダーや液晶画面、バッテリー、端子カバーをつかんで、本機を持ち上げないでください。

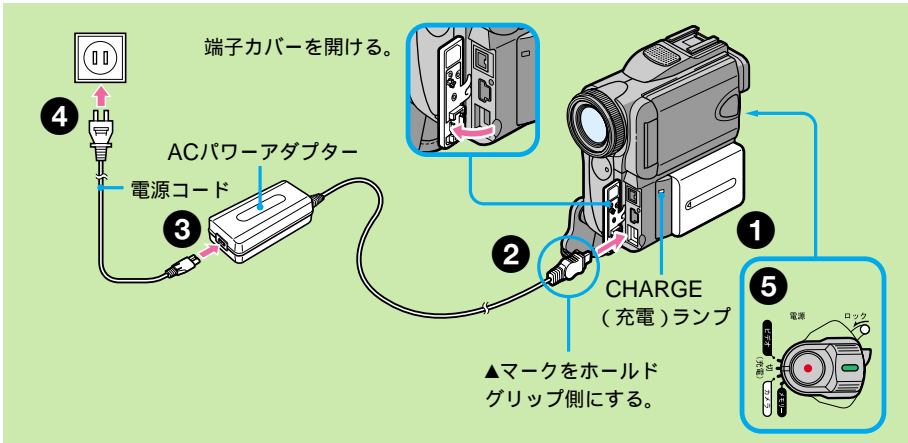
とにかく撮って見る

準備1　電源を準備する

バッテリーを取り付ける

本機を保管するときは
バッテリー端子カバーを取りつけてください。これはバッテリー端子を保護するためです。

1. **BATT（バッテリー）取りはずしつまみをずらしながら、バッテリー端子カバーを取りはずす。**
2. **バッテリーを押しながら、カチッとロックするまで矢印の方向へずらす。**

本体から取りはずす

手順1のようにして取りはずす。

バッテリーを充電する

バッテリーは充電してからお使いください。
本機の電源には、**“インフォリチウム”バッテリー（Mシリーズ）**を使用します。
それ以外のバッテリーはお使いになれません。
“インフォリチウム”バッテリーについて、詳しくは204ページをご覧ください。

ご注意

ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

ACパワーアダプターは
コンセントの近くでお使いください。
本機をご使用中に不具合が生じた時はすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

充電中のCHARGE（充電）ランプについて
以下の場合、点滅することがあります。
- バッテリーが正しく取り付けられていない。
- バッテリーが故障している。

❶ 本機にバッテリーを取り付ける。

❷ ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。

端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークをホールドグリップ側にしてつなぐ。

❸ 電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。

❹ 電源コードをコンセントにつなぐ。

❺ 本機の電源スイッチを「切（充電）」にする。

充電が始まると、CHARGE（充電）ランプが点灯し、終わるとランプは消える**（満充電）**。

バッテリー残量の表示時間が充分なのに電源がすぐに切れるときは
満充電をすると正しく表示されます。

バッテリーは
室温10℃〜30℃で充電することをおすすめします。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは
“インフォリチウム”バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持ったリチウムイオンバッテリーです。本機は“インフォリチウム”バッテリー（Mシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム”バッテリーMシリーズには InfoLITHIUM M マークがついています。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

海外でも充電できます
詳しくは206ページをご覧ください。

バッテリーの充電が終わったら

ACパワーアダプターをDC IN端子から抜く。

充電時間

バッテリー	満充電時間
NP-FM50（付属）	150
NP-FM70/QM70	240
NP-QM71	260
NP-FM90	330
NP-FM91/QM91	360

使い切ったバッテリーを25℃で充電したときの時間（約　分）。

まわりの温度によりバッテリーの温度が極端に高いまたは低いと、充電時間が長くなることがあります。

ご注意

25℃で撮影、再生したときの時間の目安です。低温では使用時間が短くなります。

撮影時間

バッテリー	ファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時	実撮影時*	連続撮影時	実撮影時*
NP-FM50（付属）	150	85	120	70
NP-FM70/QM70	310	180	255	150
NP-QM71	365	215	300	175
NP-FM90	475	280	390	230
NP-FM91/QM91	550	325	455	265

満充電してからの時間（約　分）。

* 録画、スタンバイ、電源入/切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。

再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-FM50（付属）	150	195
NP-FM70/QM70	310	400
NP-QM71	365	465
NP-FM90	475	600
NP-FM91/QM91	550	695

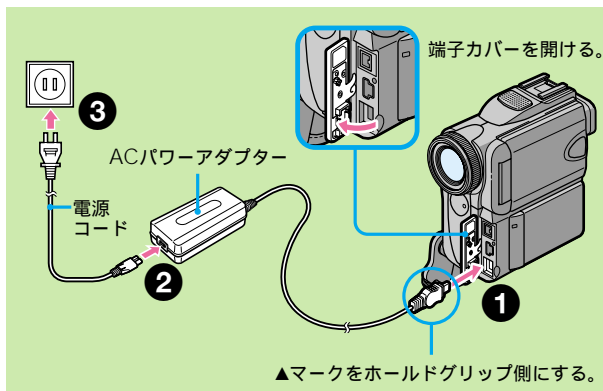
満充電してからの時間（約　分）。
実用充電での撮影時間と再生時間は満充電のおよそ90%です。

コンセントにつないで使う

ご注意

- バッテリーをつけたままでもお使いいただけます。
- 電源供給はDC IN端子が優先されます。バッテリーで使用するとき、コンセントから電源コードを抜いても、DC IN端子にコードが差し込まれているとバッテリーから電源は供給されません。
- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

自動車の電源では
別売りのカーバッテリーアダプターでお使いになれます。詳しくは、カーバッテリーアダプターの取扱説明書をご覧ください。

テープを再生するときなど長時間使用するときは、家庭用のコンセントを使うとバッテリー切れの心配なく使えます。

❶ **ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。**

端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークをホールドグリップ側にしてつなぐ。

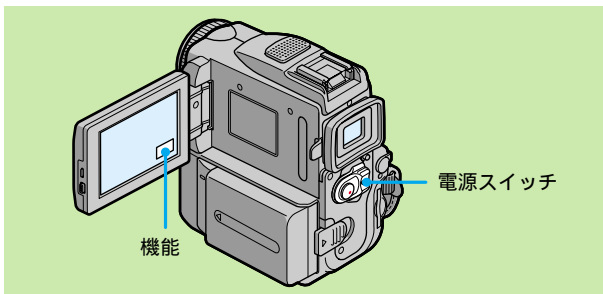
❷ **電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。**

❸ **電源コードをコンセントにつなぐ。**

準備2 日付・時刻を合わせる

本機をはじめて使うときは、日付・時刻を設定してください。設定しないと電源を入れ、撮影状態にするたびにお知らせメッセージが出ます。

3ヶ月近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（208ページ）

日時を設定しないと
テープと“メモリースティック”のデータコードには「−−−− −− −−」と「−−:−−:−−」が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

❶ **電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にする。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。****（18ページ）**

❸ **「メニュー」を押して、メニュー画面を出す。**

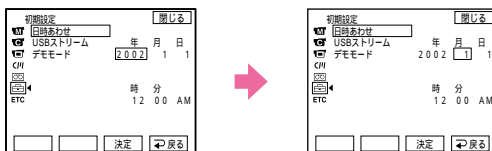
❹ **「↓」/「↑」を押して🧰を選び、「決定」を押す。**

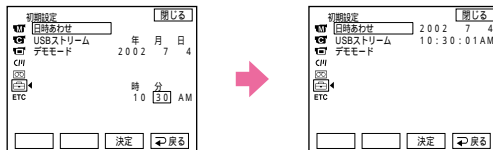
❺ **「↓」/「↑」を押して「日時あわせ」を選び、「決定」を押す。**

次のページへつづく

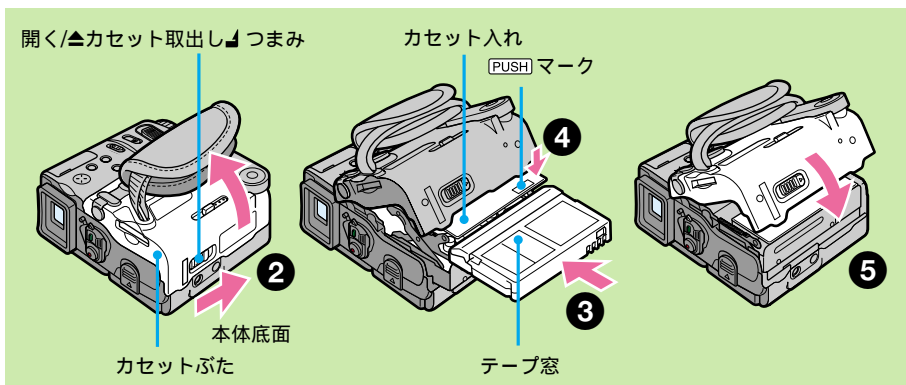
真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

❻ 「↓」/「↑」を押して「年」を合わせ、「決定」を押す。

年表示は次のように変わる。

❼ 手順6と同様に「月」、「日」、「時」、「分」を合わせる。

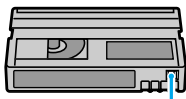
「↓」/「↑」を押して「分」を合わせて時報と同時に「決定」を押す。時計が動き始める。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

準備3　カセットを入れる

ご注意

- カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。
- PUSH マーク以外を押しているとカセット入れが閉まらないことがあります。

カセットメモリー付きミニDVカセットをご使用のとき
カセットメモリー機能を正しくお使いいただくために202ページをご覧ください。

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミを横にずらし「赤」にします。

❶ 電源を準備する。

❷ 開く/⏏カセット取出し⏏つまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。
カセット入れが自動的に出て開く。

❸ カセットの背の中央部を押して、カセットを入れる。
テープ窓を上にして、まっすぐ奥まで押し込む。

❹ PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。
カセット入れが自動的に引き込まれる。

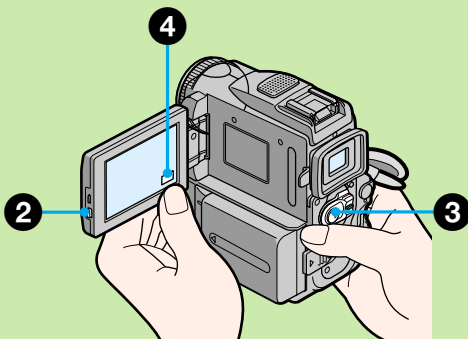
❺ カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。

カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順3で取り出す。

準備

準備4 タッチパネルの使い方

本機では、操作に必要なボタンが液晶画面に表示されます。指で直接押して操作します（タッチパネル操作）。ここでは、テープを使った撮影/再生時のタッチパネルの操作のしかたを説明します。

ご注意

- タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で押すか、人差し指で軽く押してください。
- ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。
- 液晶画面を必要以上に強く押さないでください。
- ぬれた手で液晶画面に触れないでください。
- 「機能」が表示されていないときは、液晶画面を軽く押すと表示されます。液晶画面の表示は、本体の画面表示/タッチパネルボタンを押して出したり消したりすることができます。
- 押したボタンが動作しないときは調節（キャリブレーション）が必要です。（209ページ）
- 液晶画面が汚れたときは付属のクリーニングクロスをお使いください。

各々の項目が設定されているときは
緑色のバー表示が項目の上に出ます。

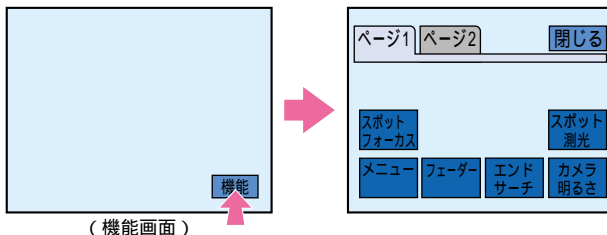
選択できないボタンは
グレー表示になります。

❶ 電源を準備する。

❷ OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

❸ 緑のボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」（撮影時）または「ビデオ」（再生時）にする。

❹ 「機能」を押す。

操作に必要なボタンが出る。（ページ1画面）

（機能画面）

電源スイッチが「カメラ」のとき

タッチパネルは
ファインダーを見ながら操作することもできます。
（60ページ）

「機能」を押すと
液晶画面に操作画面が現れます。
［カメラ］ページ1画面のとき
- 「スポットフォーカス」
- 「メニュー」
- 「フェーダー」
- 「エンドサーチ」
- 「カメラ明るさ」
- 「スポット測光」

［カメラ］ページ2画面のとき
- 「セルフタイマー」
- 「デジタルエフェクト」
- 「パネル明るさ」
- 「音量」
- 「メモリーミックス」

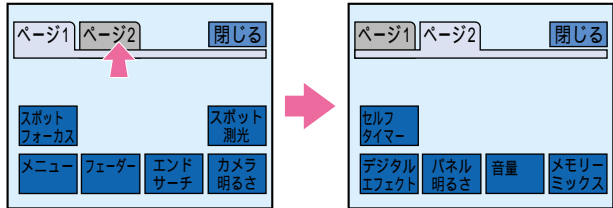
［ビデオ］ページ1画面のとき
- 「メニュー」
- 「パネル明るさ」
- 「音量」
- 「エンドサーチ」

［ビデオ］ページ2画面のとき
- 「再生ズーム」
- 「デジタルエフェクト」
- 「データコード」

［ビデオ］ページ3画面のとき
- 「変速再生」
- 「アフレコそうさ」
- 「録画そうさ」

電源スイッチを「メモリー」にしたときは
109ページをご覧ください。

❺ 「ページ2」を押す。

操作に必要なボタンが出る。（ページ2画面）

❻ 希望の項目を押す。

詳しくは各機能の説明をご覧ください。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

設定を決定する

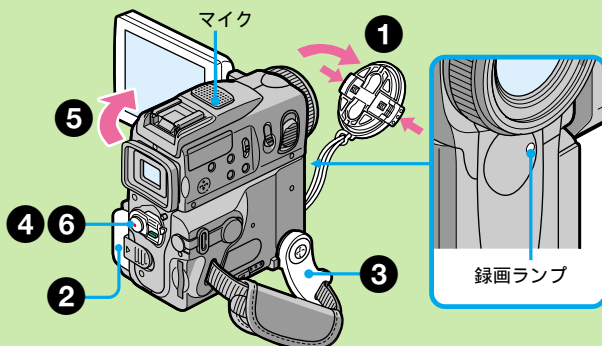
「⮐決定」を押す。ページ1/ページ2/ページ3画面に戻る。

設定を解除する

「⮐切」を押す。ページ1/ページ2/ページ3画面に戻る。

準備

撮影する

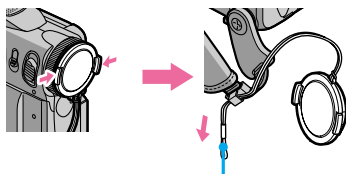
ピント合わせも自動で、簡単に撮影できます。

ご注意

- グリップベルトをしっかりしめてください。
- マイクに手が触れないようにしてください。

長時間録画したいときは
メニューの「録画モード」を「LP」にします（189ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生することをおすすめします。

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した映像はきれいにつながります。また、以下の点にご注意ください。

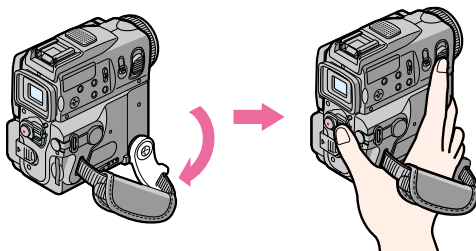
- 同じテープにSPモードで撮影した映像とLPモードで撮影した映像を混在させない。
- バッテリーの交換は電源スイッチを「切（充電）」にしてから行う。
- カセットメモリー付きのカセットでは、カセットを取り出した後でもエンドサーチ（30ページ）を使うと、きれいにつながります。

❶ レンズキャップの両側をつまんで取りはずす。

このひもを引っ張ってレンズキャップを固定します。

❷ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。

「準備1~3」（10〜17ページ）をご覧ください。

❸ ホールドグリップを下げる。

グリップベルトに手を通して本機を握る。

ご注意

撮影日時/カメラデータは画面には出ません。自動でテープ上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。リモコンも使えます。（34ページ）

撮影スタンバイが5分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影を始めるには電源スイッチを一度「切（充電）」にしてから、「カメラ」に戻して撮影スタンバイにするか、電源スイッチはそのままで、もう一度スタート/ストップボタンを押すと撮影が始まります。ただし、カセットが入っていなければ、撮影スタンバイが5分以上続いても電源は切れません。

次のようなときは
つなぎ撮りの部分で再生画像や音声が乱れたりタイムコードが正しくつながらないことがあります。
- テープの途中で録画モード（SP/LP）を変える。
- LPモードでつなぎ撮りをする。

液晶画面を使って撮影するときのバッテリーの使用時間は
ファインダーを使った撮影時間より若干短くなります。

❹ 緑のボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。

撮影スタンバイになる。

撮影スタンバイ

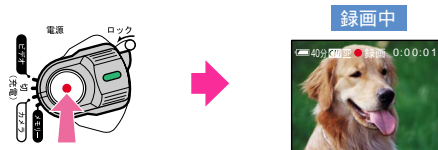
ロックつまみについて
ロックつまみを左側（ロック）にすると、気付かないうちに電源スイッチが「メモリー」になるのを防ぎます。（お買い上げ時は右側（解除）になっています。）

❺ OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。

液晶画面に画像が映る。

❻ スタート/ストップボタンを押す。

撮影が始まり、「● 録画」の表示が出る。録画ランプが点灯する。もう一度押すと止まる。

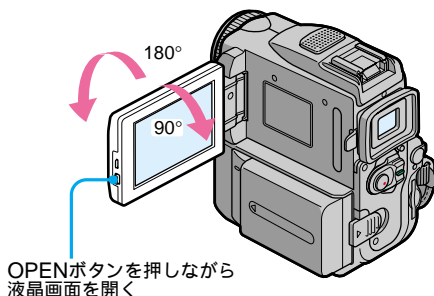
録画中

撮影が終わったら

1　**電源スイッチを「切（充電）」にする。**
2　**液晶画面を閉じて、ホールドグリップを元の位置に戻す。**
3　**カセットを取り出す。**
4　**バッテリーなどの電源を取りはずす。**

ご注意

対面撮影時を除いて、液晶画面を開いているときは、ファインダーには画像が映りません。

液晶画面は
- 屋外では日差しの加減で見えにくい場合があります。ファインダーでの撮影をおすすめします。
- 角度を調節する場合は必ず90°まで開いた状態で行ってください。

液晶画面を調整する

液晶画面は90°まで開きます。また、レンズの方向に180°まで、ファインダーの方向に90°まで回転し、角度を調節できます。

液晶画面を閉じるときは、液晶画面を垂直にしてから本体に向かって閉じます。

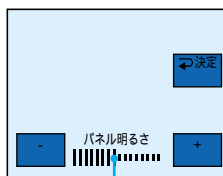
パネルバックライトの明るさは
バッテリーを取り付けている場合、メニューの「パネルバックライト」で変えることができます（186ページ）。

「パネル明るさ」「パネルバックライト」は
調節してもテープ上に記録される画像に変化はありません。

液晶画面の明るさを調節する

❶ 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。
電源スイッチを「ビデオ」にしたとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
電源スイッチを「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。
（18ページ）

❷ **「パネル明るさ」を押す。**
パネル明るさ画面が出る。

❸ 「－」/「＋」を押して明るさを調節する。

－：暗くするとき
＋：明るくするとき

❹ 「決定」を押す。

ページ1/ページ2/ページ3画面に戻る。

機能画面に戻す

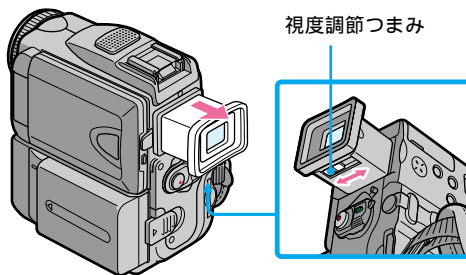
「閉じる」を押す。

ファインダーのバックライトの明るさは
バッテリーを取り付けている場合、メニューの「VFバックライト」で明るさを変えることができます。(186ページ)

VFバックライトは
調節してもテープ上に記録される画像に変化はありません。

ファインダーの視度を調節する

液晶画面を閉じて撮影するときは、ファインダーで画像を見ます。ご自分の視力に合わせてファインダー内の文字がはっきり見えるように調節してください。

ファインダーをのばして、視度調節つまみを動かす。

電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたときは、液晶画面を外側に向けて閉じると、ファインダーを見ながら液晶画面を押して画面上のボタンを操作することができます。(60ページ)

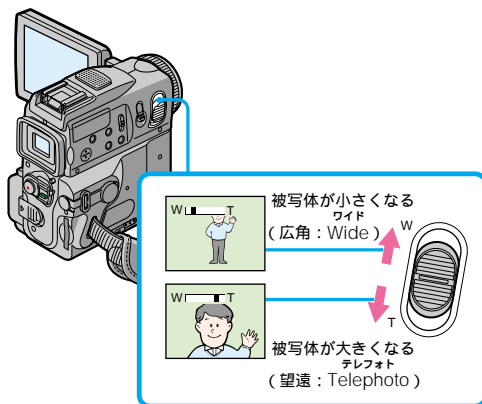
近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にします。ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

デジタルズームを使うと
- ズーム倍率は20倍または120倍までになります。
- 画像をデジタル処理するため画質が低下します。

電源スイッチを「メモリー」にすると
デジタルズームは使えません。

ズームする

ズームレバーを動かす。

軽く動かすとゆっくりズームし、さらに動かすと速くズームする。
使いすぎると見づらい作品になります。

10倍を超えるズームはデジタルズームになります。

デジタルズームを使うには、メニューで[C]の項目の「デジタルズーム」の倍率を選択してください。（184ページ）

このラインよりT側がデジタルズームになります。メニューで「デジタルズーム」の倍率を選ぶと表示されます。

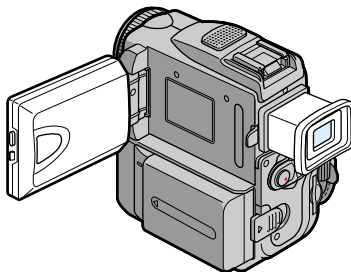
対面撮影では
液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影中は
- リモコンのゼロセットメモリーボタンは働きません。
- ファインダー内の「機能」は反転して見えます。

「機能」を押したときは
ファインダー内と液晶画面に☺は出ません。

対面撮影する

ファインダーと液晶画面で画像が確認できます。

被写体が画像を自分で確認したいときなどに使用してください。

電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき

ファインダーをのばして、液晶画面を180°**回転させる。**

ファインダーと液晶画面に☺が出ます。

電源スイッチを「カメラ」にしたとき、撮影スタンバイ中には❚❚●、撮影中には●が表示されます。

その他の表示では左右が反転するものもあります。また、表示が出ないものもあります。

撮る

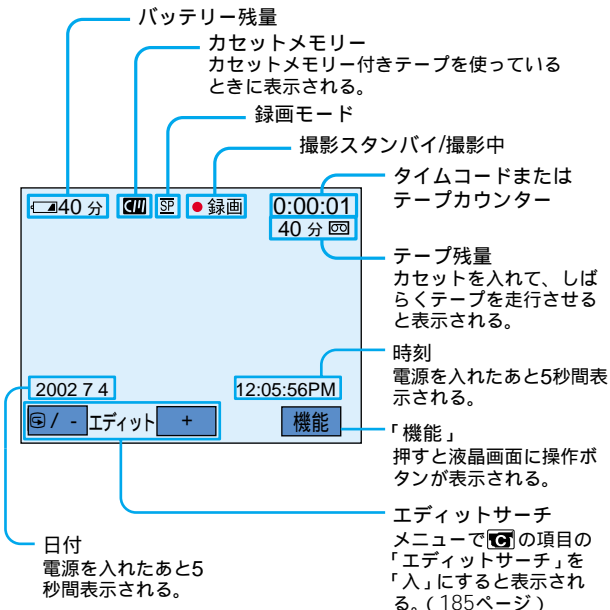
撮影中のバッテリー残量表示について
連続撮影時間の目安を表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

タイムコードについて
テープ走行時間が撮影中のときには「0:00:00」(時:分:秒)、再生中のときには「0:00:00:00」(時:分:秒:フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書きなおすことはできません。

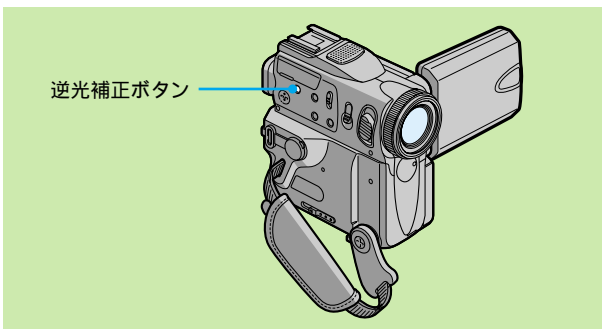
テープの残量表示について
テープの種類によっては正しく表示されないことがあります。

撮影日時/カメラデータは
画面には出ません。自動でテープ上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。リモコンも使えます。（34ページ）

撮影中の表示

これらの表示はテープには記録されません。

逆光補正をする

逆光補正中に
「カメラ明るさ」の「マニュアル」(51ページ)または「スポット測光」(53ページ)を押すと逆光補正は解除されます。

被写体のうしろに光源があり、被写体が暗く映る時などに明るさの補正をします。

電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき

逆光補正ボタンを押す。

逆光補正表示が出ます。逆光補正ボタンをもう一度押すと解除されます。

暗闇で撮る－NIGHTSHOT（ナイトショット）/ SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）/ COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター）

ご注意

- 昼間の屋外の明るいところではお使いにならないでください。故障の原因になります。
- NIGHTSHOTで撮影中の画像は、正しい色が表現されません。
- NIGHTSHOTで撮影中、フォーカスが合いにくい時は、手動でピントを合わせてください。
- NIGHTSHOTで撮影中は、指などで赤外線発光部をかくさないでください。

NIGHTSHOT中は以下の操作ができません

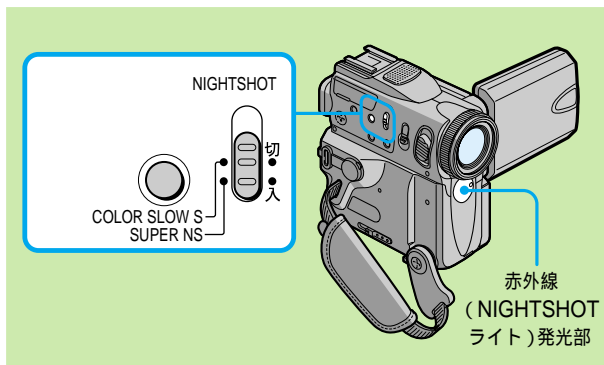
- カメラ明るさ
- フレキシブルスポット測光
- プログラムAE（表示が点滅します）
- ホワイトバランス

SUPER NIGHTSHOT時のシャッタースピードは
明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

SUPER NIGHTSHOT中は以下の操作ができません

- フェーダー
- カメラ明るさ
- デジタルエフェクト
- プログラムAE
- テープ撮影中、撮影スタンバイ中の“メモリースティック”記録
- ホワイトバランス
- フレキシブルスポット測光

電源スイッチを「メモリー」にすると
SUPER NIGHTSHOTは使えません。

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所で撮影できます。

NIGHTSHOT（ナイトショット）を使う

電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき

NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

◉表示と“NIGHTSHOT”が点滅します。
NIGHTSHOTスイッチを「切」にすると解除されます。

SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）を使う

SUPER NSボタンを使うと、NIGHTSHOTの最大16倍の感度で被写体を明るく撮影できます。

1 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。
◉表示と“NIGHTSHOT”が点滅します。

2 **SUPER NSボタンを押す。**
S◉表示と“SUPER NIGHTSHOT”が点滅します。
SUPER NSボタンをもう一度押すと解除されます。

撮る

NIGHTSHOTライトは
赤外線のため、目には見えません。ライトの届く範囲は約3mです。

NIGHTSHOTライトを使う

NIGHTSHOTライトを使うと画像がよりはっきりします。
メニューで[M]の項目の「N.S.ライト」を「入」にします。
（184ページ）
（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

COLOR SLOW SHUTTER時のシャッタースピードは
明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

電源スイッチを「メモリー」にすると
COLOR SLOW SHUTTERは使えません。

COLOR SLOW SHUTTER中は以下の操作ができません
- フェーダー
- カメラ明るさ
- デジタルエフェクト
- テープ撮影中、撮影スタンバイ中の“メモリースティック”記録
- プログラムAE
- フレキシブルスポット測光

全く光のない場所では
COLOR SLOW SHUTTERが正しく働かない場合があります。

COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター）を使う

暗い場所でも被写体を明るく撮影することができます。

1. 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
   NIGHTSHOTスイッチを「切」にする。

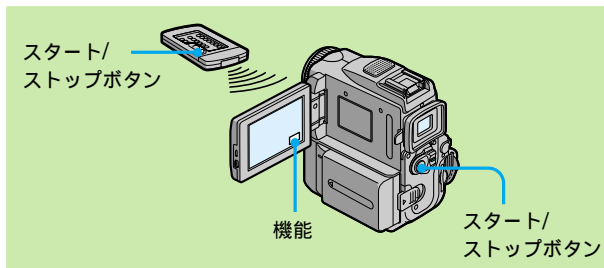
2. **COLOR SLOW Sボタンを押す。**
   表示とCOLOR SLOW SHUTTERが点滅します。
   COLOR SLOW Sボタンをもう一度押すと解除されます。

セルフタイマー撮影

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」または「ビデオ」にしたとき。

電源スイッチを「メモリー」にしたときでも
セルフタイマー撮影ができます。（120、129ページ）

セルフタイマーを使用すると、10秒後に自動的に撮影が始まります。リモコンも使えます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。**（18ページ）**

❷ **「セルフタイマー」を押す。**

セルフタイマー表示⏲が出る。

❸ **スタート/ストップボタンを押す。**

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影が始まる。

秒読みを停止する

スタート/ストップボタンを押す。再開するにはもう一度押す。

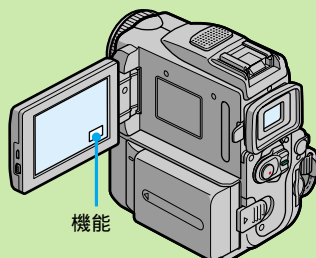
セルフタイマーを止める

撮影スタンバイ中にもう1度「セルフタイマー」を押して、セルフタイマー表示⏲を消す。リモコンを使ってセルフタイマーを解除することはできません。

撮る

次の撮影開始点を探す

−エンドサーチ/エディットサーチ/レックレビュー

撮影した画面が気になるときや、最後に撮影した画面からつなぎ撮りしたいときに使います。

エンドサーチは
カセットメモリーの付いていないカセットでは、一度取り出すと働きません。カセットメモリー付きのカセットを使えば、カセットを一度取り出してもエンドサーチは働きます。

テープの途中に無記録部分があると
エンドサーチが正しく働かない場合があります。

エンドサーチ

最後に撮影した終わりの部分に戻ります。

❶ [撮影スタンバイ中]に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
(18ページ)

❷ **「エンドサーチ」を押す。**
最後に撮影した終わりの約5秒間が再生され、撮影スタンバイに戻る。
スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

サーチを止める

もう一度「エンドサーチ」を押す。

エディットサーチ

次の撮影開始点を探します。

❶ [撮影スタンバイ中]に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
(18ページ)

❷ **メニューで の項目の「エディットサーチ」を「入」にする。(185ページ)**

❸ **「/ー」/「＋」を押し続ける。**

画像が再生される。

＋：場面を進める

/ー：場面を戻す

指を離したところが、次の撮影開始点になる。
音は出ない。

レックレビュー

最後の場面を確認します。

❶ [撮影スタンバイ中]に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。
(18ページ)

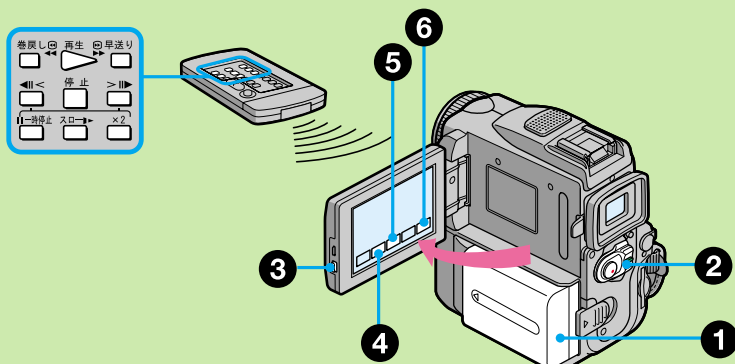
❷ **メニューで の項目の「エディットサーチ」を「入」にする。(185ページ)**

❸ **「/ー」をポンと1回押す。**

最後にテープを停止させた部分が数秒間再生され、撮影スタンバイに戻る。スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

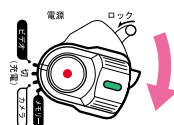
撮る

再生する

撮影したテープなどを液晶画面で見ます。液晶画面を閉じるとファインダーでも見られます。
リモコンでも操作できます。

長時間電源を入れたままにしておくと
本体があたたかくなりますが故障ではありません。

液晶画面を開けたり閉じたりするときは
液晶画面を必ず垂直にしてから行ってください。

❶ **バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。**

❷ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❸ OPEN**ボタンを押して、液晶画面を開ける。**

❹ **◀◀（巻戻しボタン）を押す。**
巻き戻しが始まる。

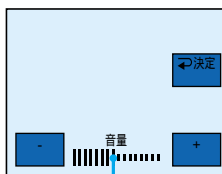
❺ **▶ ‖（再生ボタン）を押す。**
画像が映る。

❻ 音量を調節する。

1「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2「音量」を押す。

音量画面が出る。

3「–」/「+」を押して音量を調節する。

–：小さくするとき

+：大きくするとき

4「決定」を押す。

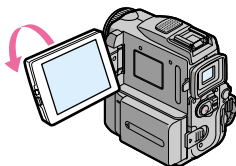
ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

再生を止める

■（停止ボタン）を押す。

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

180°回転させる。　閉じる。

見る

テープカウンター、日付データ/カメラデータなどの表示を出す－画面表示機能

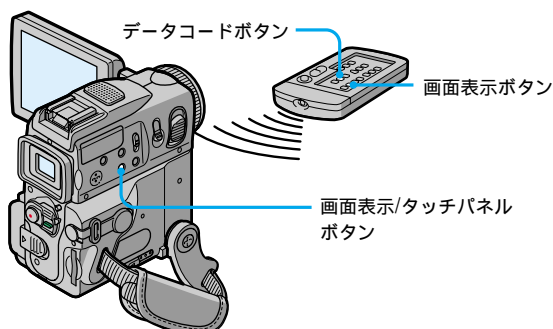
カメラデータとは
撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。撮影中は表示されません。

次のときは、「-- -- --」を表示します。
- 無記録部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を設定しないで撮影したテープ

データコードは
本機をテレビにつなぐと、テレビ画面にも出ます。

再生中のバッテリー残量表示について
連続再生時間の目安を表示します。使用状況や環境によっては正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

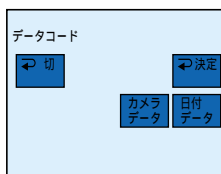
本機の画面表示/タッチパネルボタンまたはリモコンの画面表示ボタンを押す。

液晶画面の表示が消える。
出すときはもう一度押す。

日付データ/カメラデータについて

本機は撮影時の日付・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。
データコードを表示させるにはタッチパネルまたはリモコンを使って以下の操作を行います。

タッチパネルで操作する

① ［再生中］に「機能」を押し、「ページ2」を押す。（18ページ）

②「データコード」を押す。

③「カメラデータ」または「日付データ」を選び、「⮐決定」を押す。

④「閉じる」を押す。

リモコンで操作する

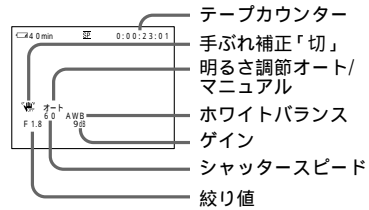
［再生中］にリモコンのデータコードボタンを押す。
押すたびに次のように表示が変わります。
「日付データの表示」→「カメラデータの表示」→（表示なし）

カメラデータを表示させないようにする

メニューの「データコード」で「日付データ」を選ぶ。（190ページ）

リモコンのデータコードボタンを押すたびに次のように表示が変ります。

「日付データの表示」↔（表示なし）

見る

ボタンのマークについて
本体とリモコンではボタンのマークが異なります。
本体のマーク：

[► II]	再生/一時停止
[■]	停止
[◄◄]	巻戻し
[►►]	早送り
[I►]	スロー
[II►>]	コマ送り
[◄II<]	コマ送り（逆方向）
[×2]	倍速再生

リモコンのマーク：

►	再生
II	一時停止
◄◄	巻戻し
►►	早送り
I►	スロー
>II►	コマ送り
◄II<	コマ送り（逆方向）
×2	倍速再生

変速再生中は
- 音声は出ません。
- 前の映像がモザイク状に残ることがあります。

一時停止（静止画）について
5分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、[► II]/►（再生ボタン）を押します。

スロー再生について
本機にはスロー画像もなめらかに再生する機能があります。ただし i DV端子から出力される画像にはこの機能は働きません。

逆方向再生について
画面の上下や、中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

いろいろな再生

電源スイッチが「ビデオ」のときに操作します。

タッチパネルで操作するとき
①「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。
②「変速再生」を押す。

一時停止する（静止画を見る）
[再生中] に [► II]/II（一時停止ボタン）を押す。
もう1度押すとふつうの再生に戻る。

早送りする
[停止中] に [►►]/►►（早送りボタン）を押す。
[► II]/►（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す
[停止中] に [◄◄]/◄◄（巻戻しボタン）を押す。
[► II]/►（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する
[再生中] に [◄II<]/◄II<（コマ送りボタン）を押す。
[► II]/II（一時停止ボタン）を押して一時停止させ、[► II]/►（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り/巻き戻しする（ピクチャーサーチ）
[再生中] に [►►]/►►（早送りボタン）または [◄◄]/◄◄（巻戻しボタン）を押し続ける。離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り/巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）
[早送り中] に [►►]/►►（早送りボタン）または [巻戻し中] に [◄◄]/◄◄（巻戻しボタン）を押し続ける。離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

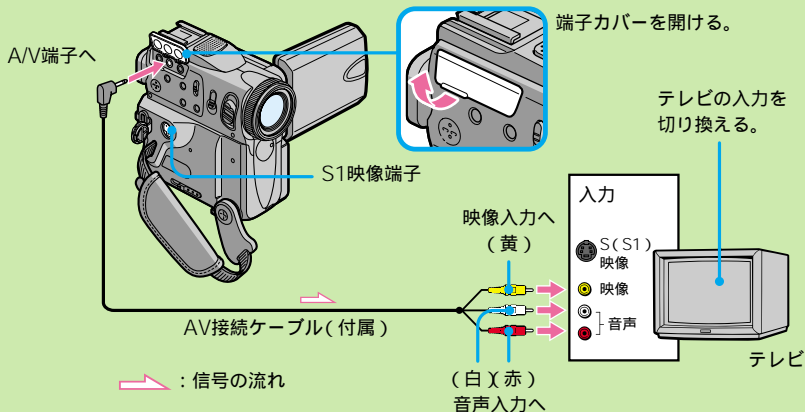
スロー画を見る
[再生中] に [I►]/I►（スローボタン）を押す。
逆方向にスロー再生するときは、[◄II<]/◄II<（コマ送りボタン）を押してから [I►]/I►（スローボタン）を押す。
[► II]/II（一時停止ボタン）を押して一時停止させ、[► II]/►（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で見る（倍速再生）
[再生中] に [×2]/×2（倍速再生ボタン）を押す。
逆方向に倍速再生するときは、[◄II<]/◄II<（コマ送りボタン）を押してから [×2]/×2（倍速再生ボタン）を押す。
[► II]/II（一時停止ボタン）を押して一時停止させ、[► II]/►（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

コマ送りで見る
[再生一時停止中] に [II►>]/>II►（コマ送りボタン）を押す。
逆方向にコマ送りするときは、[◄II<]/◄II<（コマ送りボタン）を押す。
[► II]/►（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）
[停止中] に「エンドサーチ」（ページ1画面）を押す。
最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。
電源は付属のACパワーアダプターを使って、コンセントからとることをおすすめします（14ページ）。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

別売りのS映像ケーブルを使うと
再生画像がより忠実に再現できます。テレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。
DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

テレビ画面にカウンターなどの表示を出すには
メニューで「画面表示」を「ビデオ出力/パネル」にし（190ページ）、画面表示/タッチパネルボタンを押します。
消すときはもう一度押します。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。

モノラル音声でお聞きになりたいときは市販の接続ケーブルをお使いください。

テープ撮影中に“メモリースティック”に静止画を撮る

電源スイッチを「カメラ」にしたとき、“メモリースティック”に静止画を撮影することができます。

本機ではテープにも静止画を記録できます。（40ページ）

“メモリースティック”について
詳しくは107ページをご覧ください。

静止画の画像サイズは
「640×480」になります。違うサイズで静止画を撮影したいときは、「メモリーフォト撮影」を行ってください。（116ページ）

電源スイッチを「カメラ」にすると
画質を変更することができません。画質は電源スイッチを「メモリー」にしたとき設定したモードで撮影されます。（お買い上げ時は「スーパーファイン」に設定されています。）

ご注意

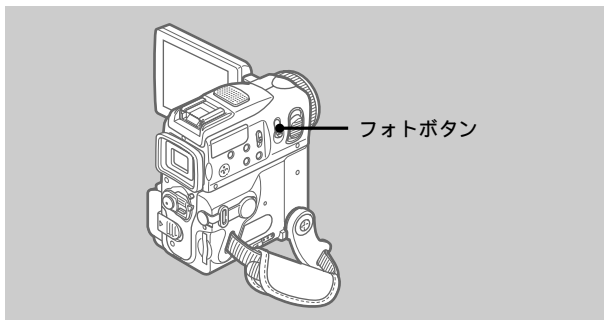
- 静止画を撮影するときは、本機を振らないでください。画像が乱れることがあります。
- 以下の設定中や操作中は、“メモリースティック”に静止画を撮ることができません。
  - ワイドTVモード
  - フェーダー
  - ピクチャーエフェクト
  - デジタルエフェクト
  - SUPER NIGHTSHOT
  - COLOR SLOW SHUTTER
  - エンドサーチ
  - エディットサーチ
  - メモリーミックス

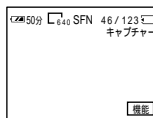
“メモリースティック”への
静止画記録中や、記録終了後も、テープ撮影は続きます。

リモコンのフォトボタンで撮影すると
押したときに映っている画像が記録されます。

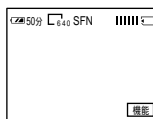
テープ撮影中に“メモリースティック”に静止画を撮影するときは
フォトボタンを軽く押して画像を確認することができません。押したときに映っている画像が記録されます。

より高画質の撮影をするときは
「メモリーフォト撮影」をおすすめします。（116ページ）

タイトルは
記録できません。

- あらかじめ、“メモリースティック”を入れておいてください。
- メニューの「フォト記録」を「メモリースティック」にしてください。（お買い上げ時は「メモリースティック」に設定されています。）

1 ［撮影スタンバイ中］に
フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このとき、録画はされません。

画像を選びなおすときは、フォトボタンを離してからもう一度軽く押す。

2 **フォトボタンを深く押す。**

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

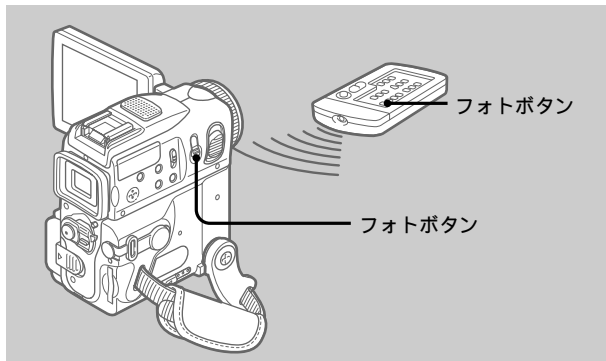
ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“メモリースティック”に記録される。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」または「ビデオ」にしたとき。

テープに撮影中は
セルフタイマー撮影できません。

セルフタイマーメモリーフォト撮影

セルフタイマーを使用して、“ メモリースティック ”に静止画を記録できます。リモコンも使えます。

- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。
- メニューの「フォト記録」を「メモリースティック」にしておいてください。（お買い上げ時は「メモリースティック」に設定されています。）

❶ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。

❷ **「セルフタイマー」を押す。**
セルフタイマー表示 が出る。

❸ **フォトボタンを深く押す。**
セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

セルフタイマーを止める

撮影スタンバイ中にもう一度「セルフタイマー」を押して、セルフタイマー表示 を消す。

リモコンを使ってセルフタイマーを解除することはできません。

テープに静止画を撮る – テープフォト撮影

テープに静止画を記録できます。60分テープならSPモードで約510枚、LPモードで約765枚撮れます。

本機では“ メモリースティック ”にも静止画を記録できます。（38、116ページ）

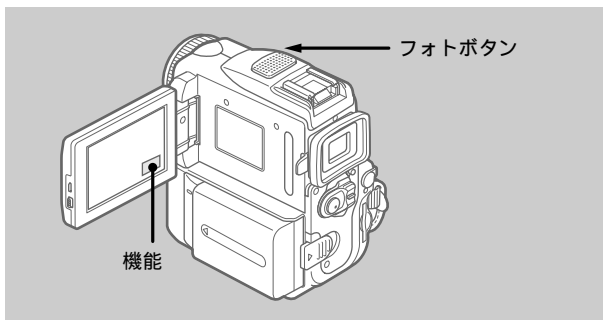
ご注意

- テープフォト撮影中はモードや設定を変更することはできません。
- 静止画を撮影するときは、本機を振らないでください。画像が乱れることがあります。
- 以下の設定中や操作中は、テープフォト撮影できません。
  – フェーダー
  – デジタルエフェクト

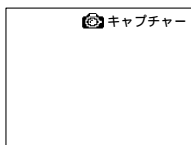
動きのある画像をテープフォト撮影すると
他の機器で再生したときに画像がぶれることがありますが、故障ではありません。

リモコンのフォトボタンで撮影すると
押したときに映っている画像が記録されます。

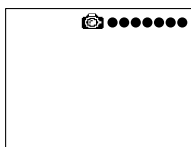
テープ撮影中にテープフォト撮影するときは
フォトボタンを軽く押して画像を確認することはできません。フォトボタンを深く押してください。約7秒間静止画を記録したあと、撮影スタンバイに戻ります。

ブレの少ない、美しい静止画を撮影するには
“ メモリースティック ”を使った「メモリーフォト撮影」をおすすめします。

1 ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 **メニューでの項目の「フォト記録」を「テープ」にする。（184ページ）**

3 **フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。**

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このとき録画はされません。

画像を選びなおすときは、フォトボタンを離してからもう一度軽く押す。

❹ フォトボタンを深く押す。

録画中は1秒ごとに赤い丸が消えていく。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。
記録中に映る画像は静止画となります。

セルフタイマーでテープフォト撮影をするとき

1 **メニューでの項目の「フォト記録」を「テープ」にする。**（184ページ）

2 39**ページの手順**1〜3**を行う。**

自然な色あいに調節する – ホワイトバランス

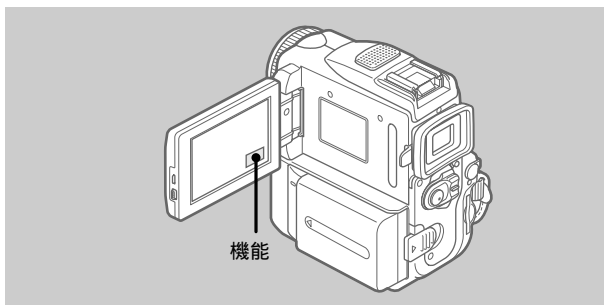
明るさや撮影する状況に合わせて、自然な色あいの画像になるように調節できます。通常は、自動的に色あいの調節が行われています。

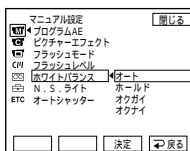
- パーティー会場など照明条件が変化する場所で撮るとき
- 夜景やネオンサインなどを屋外で撮るとき

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は
「オクナイ」に設定して撮影することをおすすめします。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
ホワイトバランスを自動調節にするか、ホールドに設定して撮影することをおすすめします。「オクナイ」に設定して撮影すると、ホワイトバランスが正しく調整されない場合があります。

ホワイトバランスを「オート」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、電源スイッチを「カメラ」にしてから10秒間くらい白っぽい被写体に向けるとよりよい色あいに調節されます。
- バッテリーを交換したとき
- 画像の明るさを固定させたまま屋外と屋内を行き来したとき

ホワイトバランスを「ホールド」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、ホワイトバランスを一度「オート」にしてしばらくしてから「ホールド」に戻してください。
- プログラムAEのモードを変えたとき
- 屋外と屋内を行き来したとき

1 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 **メニューでの項目の「ホワイトバランス」を選び、希望のモードにする。**（184ページ）

HOLD **「ホールド」**
単一色の被写体や背景を撮るとき

「オクガイ」
- 夜景やネオン、花火などを撮るとき
- 日の出、日没などを撮るとき
- 昼光色蛍光灯の下で撮るとき

「オクナイ」
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下で撮るとき
- ナトリウムランプや水銀灯の下で撮るとき

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

自動調節に戻す
メニューの「ホワイトバランス」で「オート」を選ぶ。

横長の画面にする – ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影できます。ID-1/ID-2対応TVに接続した場合は自動的にテレビのワイドモードに切り替わります。

接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドテレビで画面いっぱいに映るようにしたいとき

液晶画面/
ファインダー

通常のテレビで
再生

ワイドテレビで
再生

画像が縦長になります。

テレビをフルモードに
切り換える

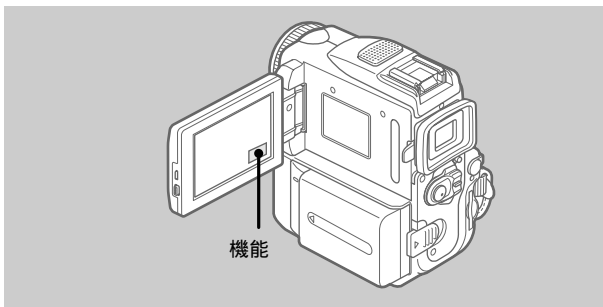
ワイドTVモード中は
以下の操作はできません。
– テープ撮影中、撮影スタンバイ中の“メモリースティック”記録
– オールドムービー
– バウンド

録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。
ワイドTVモードを解除するときは、必ず「撮影スタンバイ」にしてから、メニューの「ワイドTV」を「切」にしてください。

テレビの接続について
下記の接続のとき、ワイドTVモードで記録した画像を再生すると、画像は自動的にフルモードに切り換わります。
- ビデオIDシステム（ID-1/ID-2）方式対応のテレビと接続したとき。
- テレビのS（S1）映像入力端子に接続したとき。

ID-1方式とは
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムです。

ID-2方式とは
ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

S1映像信号とは
通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されています。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **メニューで の項目の「ワイドTV」を「入」にする。（184ページ）**

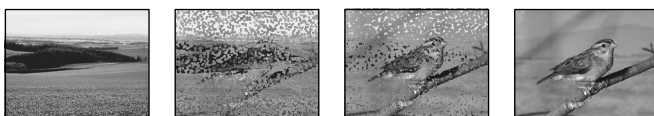
機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

ワイドTVモードを解除する

メニューで「ワイドTV」の「切」を選ぶ。

効果的な場面転換をする – フェーダー

余韻を残して場面を変えたり徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

モノトーンフェーダー　フェードインは白黒からカラーに、フェードアウトはカラーから白黒になります。

1）メニューでデジタルズームが「切」になっているときのみ使えます。
2）フェードインのみ

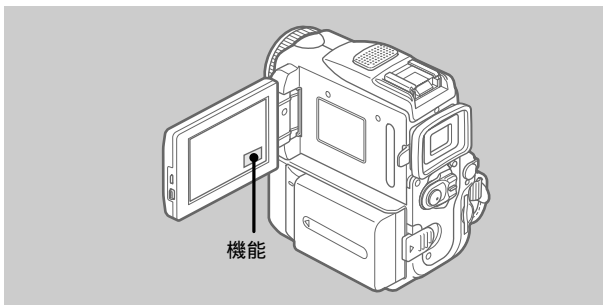
ご注意

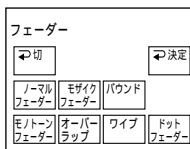
フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
– デジタルエフェクト
– SUPER NIGHTSHOT
– COLOR SLOW SHUTTER
– テープフォト撮影
– テープ撮影中、撮影スタンバイ中の“メモリースティック”記録
– インターバル録画
– コマ撮り

「オーバーラップ」、「ワイプ」または「ドットフェーダー」を選ぶと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中は画面が消えます。
このときテープの状態によっては、きれいな画像が撮影できないことがあります。

バウンド動作中には以下の操作ができません
- カメラ明るさ
- フレキシブルスポット測光
- フォーカス
- ズーム
- ピクチャーエフェクト

以下の操作中にはバウンドが選択できません
- メニューでデジタルズームの「20×」または「120×」を選択しているとき
- ワイドTVモード
- ピクチャーエフェクト
- プログラムAE

MPEG**ムービー撮影で**
フェードイン・フェードアウトはできません。

❶ • フェードインは［撮影スタンバイ中］に
• フェードアウトは［撮影中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **「フェーダー」を押す。**

フェーダー画面が出る。

❸ **希望のモードを選ぶ。**

❹ **「決定」を押し、ページ1画面に戻す。「閉じる」を押し、機能画面に戻す。**
フェーダーモード表示が点滅する。

❺ **スタート/ストップボタンを押す。**
フェーダーモード表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除される。

フェードイン・フェードアウトを解除する

スタート/ストップボタンを押す前に「切」を押す。ページ1画面に戻る。「閉じる」を押すと機能画面に戻る。

画像に特殊効果を加える – ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画の
ような特殊効果を加えられます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

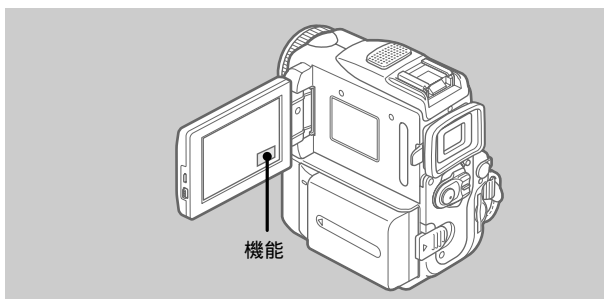
ソラリ
→明暗をはっきりさせたイラストのように

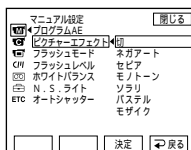
パステル
→淡い色のパステル画のように

モザイク
→タイルを組み合わせたように

セピア→古い写真のような色合いに　**モノトーン**→白黒に

ピクチャーエフェクト中は以下の操作はできません
– オールドムービー
– バウンド
– テープ撮影中、撮影スタンバイ中の“ メモリースティック ”記録

電源スイッチを切り換えると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **メニューでⓂの項目の「ピクチャーエフェクト」を選び、希望のモードにする。**
（184ページ）

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

ピクチャーエフェクトを解除する

メニューの「ピクチャーエフェクト」で「切」を選ぶ。

特殊な演出を加えて撮る – デジタルエフェクト

デジタル機能を使って撮影画像にさまざまな演出を加えることができます。音声はそのまま録音されます。

スチル
あらかじめ取りこんだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取りこんだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように撮影する。

スローシャッター
シャッタースピードを落とす。暗いところで撮影しやすい。

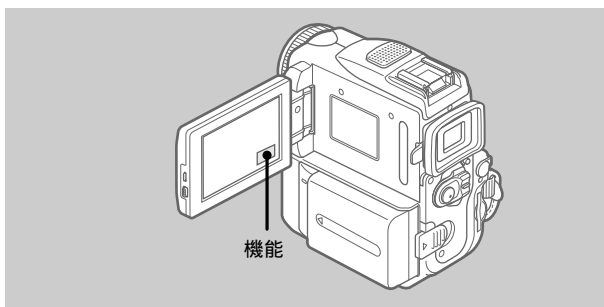
オールドムービー
画面を横長、画像をセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

（スチル）

（ルミキー）

ご注意

- デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
  – フェーダー
  – テープフォト撮影
  – SUPER NIGHTSHOT
  – COLOR SLOW SHUTTER
  – テープ撮影中、撮影スタンバイ中の“ メモリースティック ”記録
- スローシャッターを選ぶとプログラムAEは使えません。
- オールドムービーを選ぶと以下の操作ができません。
  – ワイドTVモード
  – ピクチャーエフェクト
  – プログラムAE

電源スイッチを切り換えると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にしたとき
「機能」を押し、ページ2画面を出す。

❷ **「デジタルエフェクト」を押す。**

デジタルエフェクト画面が出る。

次のページへつづく

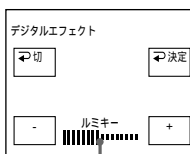
スローシャッターでは
自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

スローシャッターのシャッタースピードは

表示	シャッタースピード
スローシャッター1	1/30
スローシャッター2	1/15
スローシャッター3	1/8
スローシャッター4	1/4

❸ 希望のモードにする。

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ 「ー」/「＋」を押して、効果を調節する。

ー：効果を小さくするとき
＋：効果を大きくするとき

バー表示：スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルのときに表示される。

調節する内容は以下の通り。

スチル	撮影中の動画の背景にある静止画の映り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取りこむ部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。
スローシャッター	シャッタースピード。 数字を大きくするほど遅くなる。
オールドムービー	調節は必要ない。

❺ 「決定」を押す。

ページ2画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

デジタルエフェクトを解除する

「切」を押す。ページ2画面に戻る。

撮影状況に合わせて撮る – プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

スポットライト
結婚式や舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

ソフトポートレート
人物、花などを撮影するときに背景をぼかして被写体を引き立てると同時に、ソフトな印象の映像になるようにします。

スポーツレッスン
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のぶれを少なくします。

ビーチ&スキー
真夏の砂浜や、冬山（スキー場）などの照り返しが強い場所で撮影するときに、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

サンセット&ムーン
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに撮影することができます。

風景
山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせ、風景を窓ガラスや金網越しに撮影する場合、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。

撮影状況に合わせて撮る – プログラムAE（つづき）

ご注意

- 次のモードでは近くのものにピントが合わないようにフォーカスを制御します。
  – スポットライト
  – スポーツレッスン
  – ビーチ＆スキー
- 次のモードでは遠景のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
  – サンセット＆ムーン
  – 風景
- プログラムAE中は以下の操作ができません。
  – COLOR SLOW SHUTTER
  – スローシャッター
  – オールドムービー
  – バウンド
- 次の場合、プログラムAEは使えません。
  （表示が点滅します）
  – NIGHTSHOTを「入」にする。
  – “メモリースティック”にメモリーミックスする。
- 電源スイッチを「メモリー」にしたとき、スポーツレッスンの操作ができません。
  （表示が点滅します）

ホワイトバランスを「オート」にしているときは

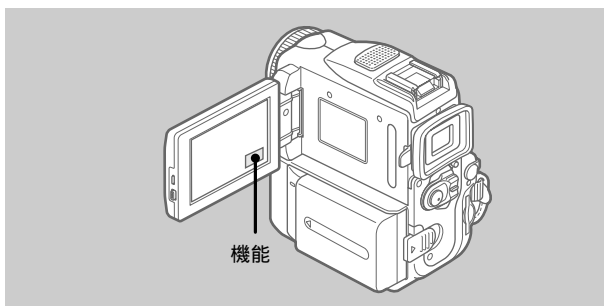
プログラムAEを使うときも自動的にホワイトバランスが調節されます。

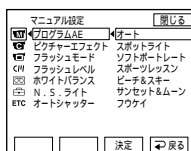
プログラムAEで撮影中でも以下の操作ができます。

– カメラ明るさ
– フレキシブルスポット測光

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると

次のモードでは画面が明るくなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化することがあります。このような場合にはプログラムAEを解除してください。

– ソフトポートレート
– スポーツレッスン

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ メニューで[M]の項目の「プログラムAE」を選び、希望のモードにする。（184ページ）

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

プログラムAEを解除する

メニューの「プログラムAE」で「オート」を選ぶ。

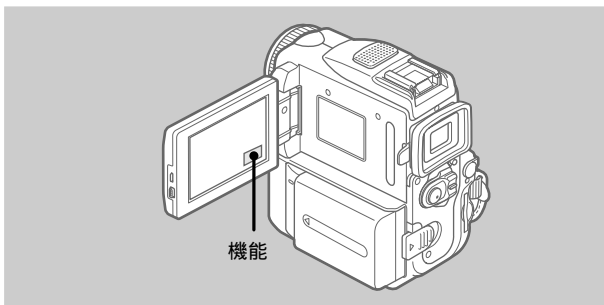
手動で画像の明るさを調節する

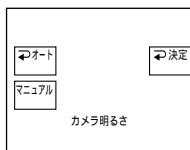
画像をお好みの明るさに調節し、固定することができます。通常は、自動的に明るさの調節が行われています。

- 逆光補正を細かく行いたいとき
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき
- 夜景を撮りたいとき

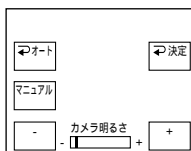
ご注意

「カメラ明るさ」調節中は以下の操作ができません。
– COLOR SLOW SHUTTER
– 逆光補正

以下の場合、明るさ調節は自動に戻ります。
- プログラムAEのモードを変える。
- NIGHTSHOTを「入」にする。

1 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 **「カメラ明るさ」を押す。**

カメラ明るさ画面が出る。

3 **「マニュアル」を押す。**

4 **「–」/「+」を押して、明るさを調節する。**

–：暗くするとき
+：明るくするとき

使いこなす―撮影―

次のページへつづく

❺ 「⮐決定」を押す。

ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

自動調節に戻す

「⮐オート」を押す。ページ1画面に戻る。

撮りたいポイントの明るさを最適にする
– フレキシブルスポット測光

撮りたいポイントを基準にして自動的に画像の明るさを調節し、固定することができます。

• 逆光のとき
• スポットライトで照明されたステージなど、被写体と背景のコントラストが強いとき

ご注意

フレキシブルスポット測光中は以下の操作ができません。
– COLOR SLOW SHUTTER
– 逆光補正
– カメラ明るさ
– スポットフォーカス

次の場合、フレキシブルスポット測光は自動に戻ります。
• プログラムAEのモードを変える。
• NIGHTSHOTを「入」にする。

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、ページ１画面を出す。

❷ **「スポット測光」を押す。**
スポット測光画面が出る。

❸ **画面上の枠内の撮りたいポイントを押す。**

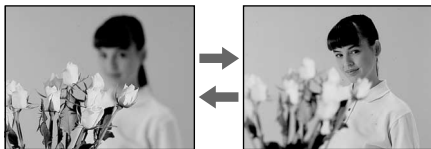
スポット測光の表示が点滅し、押したポイントの明るさが調節されます。

❹ **「決定」を押す。**
ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

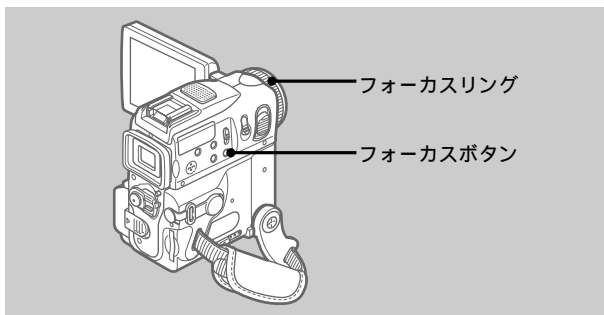
自動調節に戻す
「オート」を押す。ページ1画面に戻る。

手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。通常は自動的にピントの調節が行われています。

- 自動ではピントが合いにくいとき
  - 被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
  - 被写体が横縞だけのもののとき
  - 被写体と背景とのコントラストが弱いとき
- 手前の被写体から後方の被写体へと、意図的にピントの合う位置を変えたいとき
- 三脚を使い、静止した被写体をピントを固定して撮るとき

正確にピントを合わせるには
ズームをT側（望遠）でピントを合わせたあと、なるべくW側（広角）で撮るようにズームを調節するとピントが合いやすくなります。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

手動でピント合わせをするとき、が次のようなマークに変わります。
- 無限遠にあるとき
- それ以上近くにピント合わせをすることができないとき

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
フォーカスボタンを軽く1回押す。
手動ピント合わせ表示が出る。

❷ **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

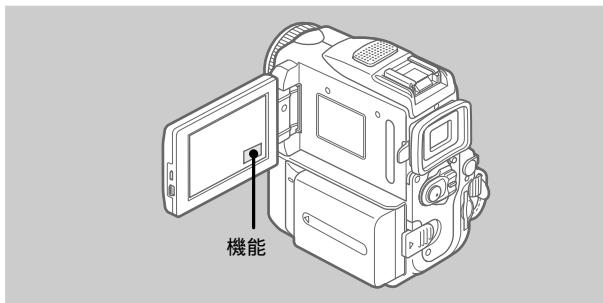
自動調節に戻す
フォーカスボタンを軽く押して、または、表示を消す。

ピントを無限遠にして撮影する
フォーカスボタンを深く押すとピントは無限遠になり、の表示が出る。
指を放すとピント合わせが手動に戻る。
遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

撮りたいポイントにピントを合わせる
ー スポットフォーカス

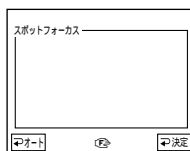
撮りたいポイントを基準にして自動的にピントを調節し、固定することができます。

ご注意

プログラムAE中はスポットフォーカスできません。

1 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、ページ１画面を出す。

2 **「スポットフォーカス」を押す。**

スポットフォーカス画面が出る。

3 **画面上の枠内の撮りたいポイントを押す。**

スポットフォーカスの表示が点滅し、押したポイントのピントが調節されます。

4 **「⮐決定」を押す。**

ページ1画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

自動調節に戻す

「⮐オート」を押す。ページ1画面に戻る。

一定時間おきに撮る – インターバル録画

あらかじめ設定した時間ごとに、録画と録画停止を交互に行います。

例

「ウェイトタイム」10分、「録画タイム」1秒を選んだ場合（約10分ごとに、約1秒録画されます）

1秒　　　　　　　　1秒

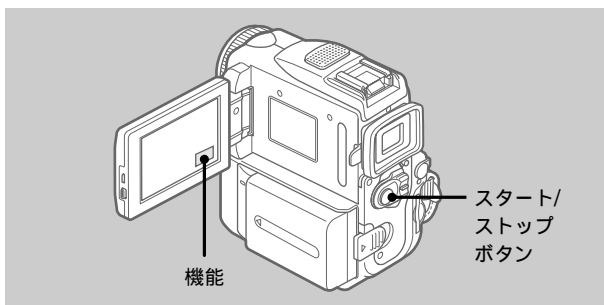
録画タイム　9分59秒　録画タイム　9分59秒

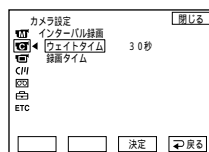
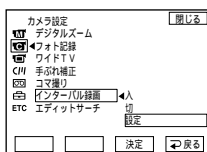
ウェイトタイム　ウェイトタイム

10分　10分

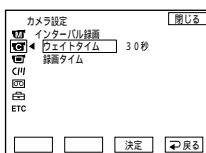
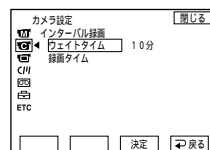
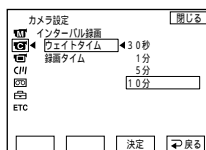
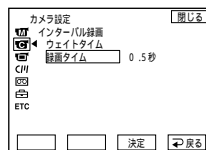
花の開花や、昆虫の羽化などの場面を時間をおいて撮影するとき

ご注意

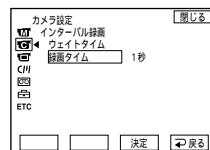
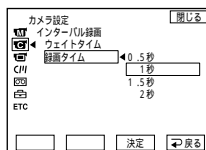
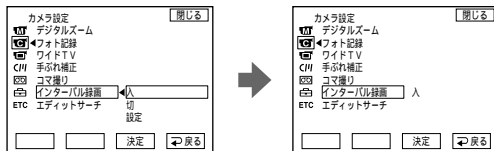
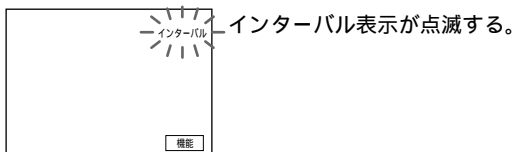
MPEGムービー撮影でインターバル録画することはできません。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **メニューで［C］の項目の「インターバル録画」を「設定」にし、「決定」を押す。**
（185ページ）

録画タイムは
最大±6フレーム程度の誤差が出ることがあります。

❸ 「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。

1 **「↓」/「↑」を押して「ウェイトタイム」を選び、「決定」を押す。**

2 **「↓」/「↑」を押して希望のウェイトタイムを選び、「決定」を押す。**

3 **「↓」/「↑」を押して「録画タイム」を選び、「決定」を押す。**

4 **「↓」/「↑」を押して希望の録画タイムを選び、「決定」を押す。**

5 **「↩戻る」を押す。**

使いこなす―撮影―

❹ 「インターバル録画」を「入」にして、「決定」を押す。

❺ 「閉じる」を押して、機能画面に戻す。

インターバル表示が点滅する。

❻ スタート/ストップボタンを押す。

インターバル録画が始まる。

インターバル録画中は、インターバル表示が点灯する。

インターバル録画を解除する

次のいずれかの操作を行います。

- メニュー画面で「インターバル録画」を「切」にする。
- 電源スイッチを「カメラ」以外にする。

ウェイトタイム中に通常の録画をする

スタート/ストップボタンを押すと、インターバル表示が点滅し、通常の録画が始まる。もう一度スタート/ストップボタンを押すと通常の録画が終了し、手順5の画面に戻る。

アニメーションのように撮る – コマ撮り

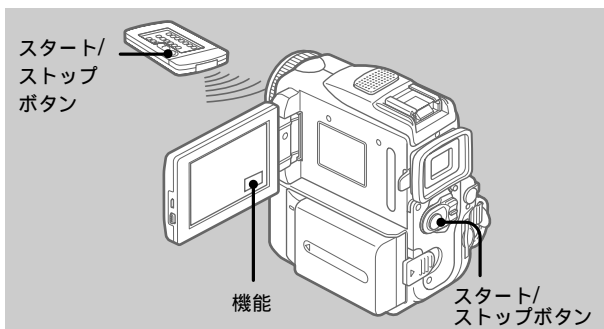
人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。

本機を固定し、手順4以降をリモコンで操作することをおすすめします。

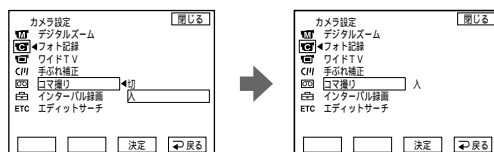
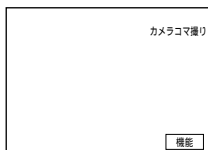
ご注意

- コマ撮りを連続して行うと、テープ残量表示は正しく表示されません。
- MPEGムービー撮影でコマ撮りすることはできません。

コマ撮りをすると

最終カットは通常の1コマよりも長くなります。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **メニューで🄲の項目の「コマ撮り」を「入」にする。（185ページ）**

（185ページ）

❸ **「閉じる」を押して、機能画面に戻す。**

カメラコマ撮り表示が点灯する。

❹ **スタート/ストップボタンを押す。**

1コマ（約6フレーム）分の撮影が行われ、撮影スタンバイに戻る。

❺ **被写体を動かし、手順4を繰り返す。**

コマ撮りを解除するには

次のいずれかの操作を行います。

- メニューの「コマ撮り」を「切」にする。
- 電源スイッチを「カメラ」以外にする。

ファインダーを見ながら操作する

ファインダーをのばし、液晶画面を外側に向けて本体に閉じると、ファインダーを見ながら液晶画面を押して画面上のボタンを操作することができます。

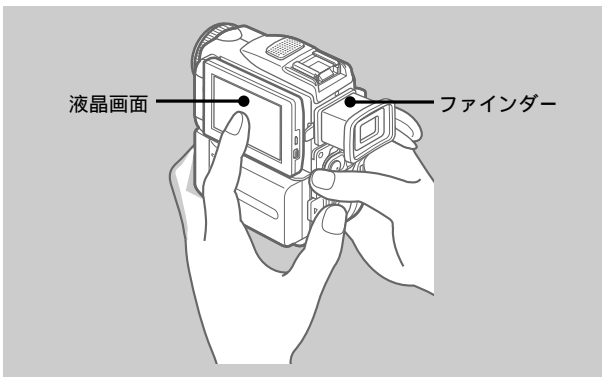
ファインダーで見ながら、カメラ明るさとフェーダーをタッチパネル操作するとき

ご注意

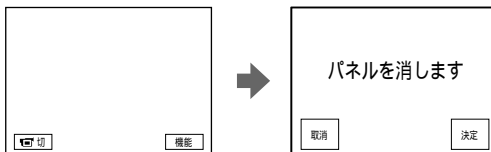
- 液晶画面はぬれた手で触れないでください。
- ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。
- 電源スイッチを「ビデオ」にしたとき、またはメモリー再生中は操作できません。

ファインダーに表示されない項目を操作したいときは
ファインダーと液晶画面を元の位置に戻し、液晶画面を見ながら操作してください。

ファインダー内の「機能」と「切」は
反転して見えます。

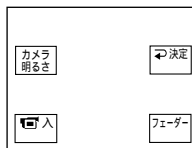
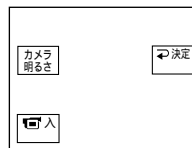
撮影可能時間は
ファインダーで撮影したときの時間になります。
（13ページ）

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にしたとき
ファインダーをのばし、液晶画面を外側に向けて本体に閉じる。

❷ **「切」を押す。**

「パネルを消します」の表示がでる。

❸ **「決定」を押す。**

液晶画面の表示が消える。

❹ ファインダーを見ながら液晶画面を押す。

「カメラ明るさ」、「⮐決定」、「[icon]入」、「フェーダー」（電源スイッチが「カメラ」のときのみ）のボタンが出る。

電源スイッチが「カメラ」のとき

電源スイッチが「メモリー」のとき

❺ 液晶画面を押して希望の項目を選び、「⮐決定」を押す。

カメラ明るさ：「＋」「－」で調節する。

フェーダー　：「フェーダー」を押すごとに次の順で項目が変わる。

フェーダー → モザイクフェーダー → バウンド
↑　↓
（表示なし）　モノトーンフェーダー
↑　↓
ドットフェーダー ← ワイプ ← オーバーラップ

[icon] 入：液晶画面が点灯し、対面撮影状態になる。

画面上のボタンを消すとき

「⮐決定」を押す。

使いこなすー撮影ー

画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

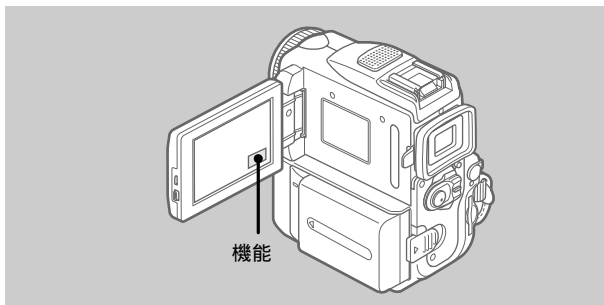
再生しているテープの画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることができます。

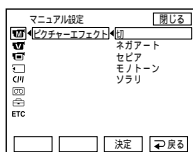
再生中は、ピクチャーエフェクトのうち、ネガアート、セピア、モノトーン、ソラリが使えます。

ご注意

- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- ピクチャーエフェクトを加えた画像は本機のテープに録画できません。
  “メモリースティック”に取りこむか（121、130ページ）、本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は
i DV端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止すると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **メニューでⓂの項目の「ピクチャーエフェクト」を選び､希望のモードにする。（184ページ）**

各ピクチャーエフェクトについて詳しくは46ページをご覧ください。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

ピクチャーエフェクトを解除する

メニューの「ピクチャーエフェクト」で「切」を選ぶ。

画像にデジタルエフェクトを加えて見る

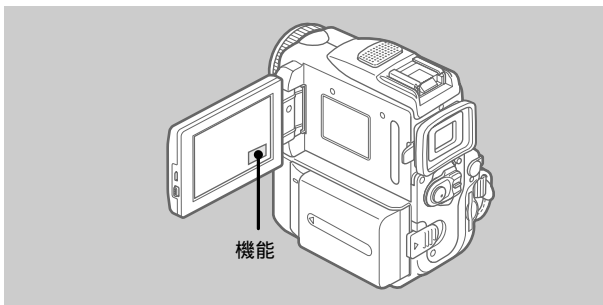
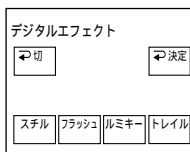
再生しているテープの画像にデジタルエフェクトを加えて見ることができます。

再生中は、デジタルエフェクトのうち、スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルが使えます。

ご注意

- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- デジタルエフェクトを加えた画像は本機のテープに録画できません。
  “メモリースティック”に取りこむか（121、130ページ）、本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。

デジタルエフェクトを加えた画像は
i.DV端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止するとデジタルエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に**「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。**

❷ **「デジタルエフェクト」を押す。**

デジタルエフェクト画面が出る。

❸ **希望のモードにする。**
スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ **「－」/「＋」を押して、効果を調節する。**
詳しくは48ページをご覧ください。

❺ **「決定」を押す。**
ページ2画面に戻る。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

デジタルエフェクトを解除する

「切」を押す。ページ2画面に戻る。

撮影した画像を拡大する – テープ再生ズーム

テープに記録した動画や静止画を拡大できます。

“ メモリースティック ”に記録した静止画も拡大できます。（145ページ）

ご注意

- 外部入力している画像に再生ズームを加えて見ることはできません。
- 再生ズームを加えた画像は本機のテープに録画できません。
  本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。
- 再生ズームを加えた画像は本機の“ メモリースティック ”に動画として取り込むことはできません。

再生ズーム中に以下の操作をすると再生ズームは自動的に解除されます

– 電源スイッチを「切（充電）」にする。
– 再生を停止する。
–“ メモリースティック ”を入れる。

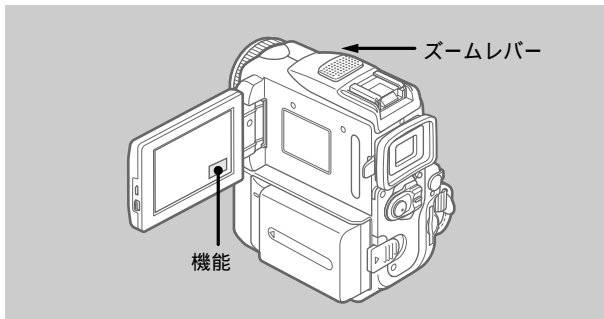
再生ズームを加えた画像は

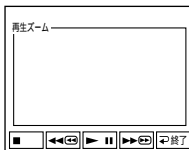
- i DV端子から出力されません。
- ψ（USB）端子から出力されません。

再生ズーム中に

画面表示/タッチパネルボタンを押すと表示枠が消えます。このとき押した部分を画面の中心に移動することはできません。

画像の周辺部分は

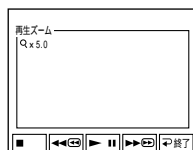
拡大することはできますが、画面の中心には移動しません。

1 ［再生中］または［再生一時停止中］に**「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。**

2 **「再生ズーム」を押す。**

再生ズーム画面が出る。

3 **画面上の枠内の拡大したい部分を押す。**

押した部分を中心に約2倍に拡大された画像が再生されます。さらに枠内の別の場所を押すと、押した部分を画面の中心に移動することができます。

❹ ズームレバーで倍率を変える。

ズームは約1.1倍から5倍までの間で選べます。

W：倍率を低くする。

T：倍率を高くする。

再生ズームを解除する

「⮐終了」を押す。

見たい場面にすばやく戻す – ゼロセットメモリー

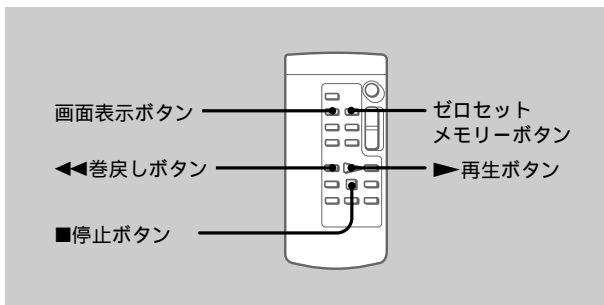
テープカウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。

リモコンも使います。

再生中に、後からもう一度見たいと思う場面があったとき

ご注意

- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう一度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- ゼロセットメモリー表示は、「機能」を押すと表示されません。

テープの途中に無記録部分があると
ゼロセットメモリー機能が正しく働かない場合があります。

❶ ［再生中］に
テープカウンター表示が出ていないときは画面表示ボタンを押す。

❷ **後から見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」になり、カウントを始める。

ゼロセットメモリー表示が点滅する。

❸ **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止する。テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

❺ **▶再生ボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」の場面からもう一度再生が始まる。

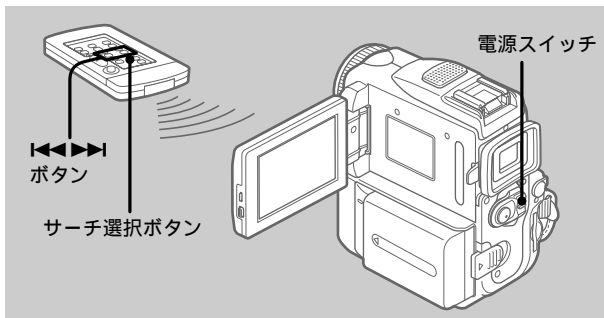
タイトル場面を頭出しする – タイトルサーチ

カセットメモリー付きカセットを使えば、タイトルを入れた場面を探せます。リモコンも使います。

タイトルを入れた場面を探したいとき

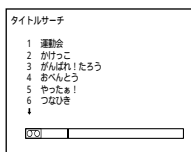
カセットメモリーの付いていないカセットでは
タイトルを入れたり、タイトル場面を頭出ししたりできません。

テープの途中に無記録部分があると
タイトルサーチが正しく働かないことがあります。

タイトルを入れるには
98ページをご覧ください。

メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にしてください。
（お買い上げ時には「入」に設定されています。）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「タイトルサーチ」を選ぶ。

タイトルサーチ画面が出る。

次の順で変わります。
タイトルサーチ → 日付サーチ → フォトサーチ → フォトスキャン → （表示なし） → タイトルサーチ

❸ リモコンの⏮ または⏭ボタンを押して、頭出ししたいタイトルを選ぶ。

選んだタイトルの場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

リモコンの■停止ボタンを押す。

撮影日で頭出しする – 日付サーチ

撮影した日付の変わり目を頭出しできます。
カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。
リモコンも使います。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するとき

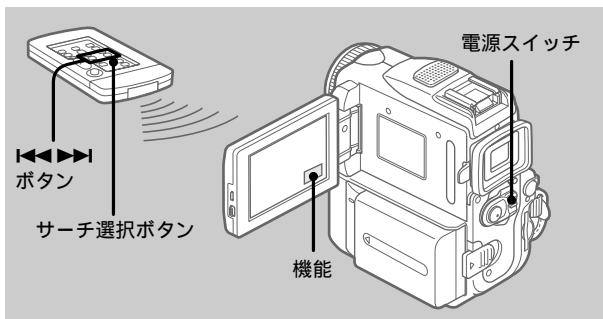
■カセットメモリーを使った日付サーチ ➡ 画面で撮影日を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わない日付サーチ ➡ 撮影した日付の変わり目を頭出し

ご注意

日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

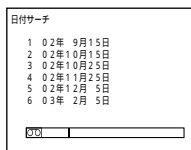
テープの途中に無記録部分があると
日付サーチが正しく働かないことがあります。

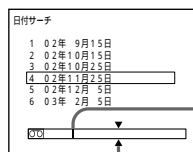
1つのカセットのカセットメモリーに入る日付データは
6つまでです。日付データが7つ以上あるときは、「カセットメモリーを使わずに頭出しする」（69ページ）の手順で検索してください。

カセットメモリーを使って頭出しする

- カセットメモリー付きカセットでのみできます。
- メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にしてください。
（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「日付サーチ」を選ぶ。

日付サーチ画面が出る。

次の順で変わります。
タイトルサーチ → 日付サーチ
↓
フォトサーチ
↓
フォトスキャン → （表示なし） → タイトルサーチ

❸ リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたい日付を選ぶ。

選んだ日付の場面で自動的に再生が始まる。

サーチを止める

リモコンの■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに頭出しする

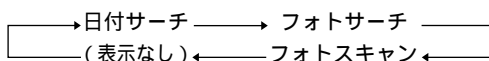
❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューで[CM]の項目の「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（188ページ）

❹ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「日付サーチ」を選ぶ。

次の順で変わります。

日付サーチ → フォトサーチ → フォトスキャン → （表示なし） → 日付サーチ

❺ リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）またはうしろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

リモコンの■または本体の[■]（停止ボタン）を押す。

見たい静止画を探す – フォトサーチ/フォトスキャン

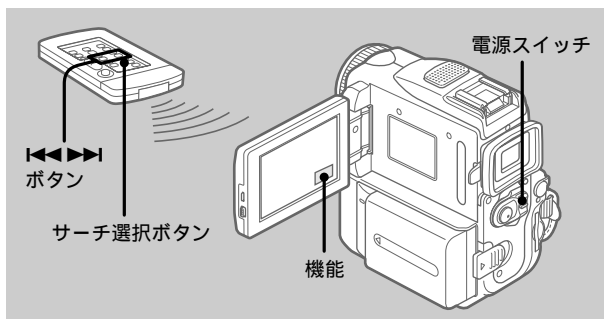
テープに撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。カセットメモリー付きカセットを使うと便利です。
また、カセットメモリーとは関係なく静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます（フォトスキャン）。
リモコンも使います。

静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するとき

■カセットメモリーを使ったフォトサーチ ➡ 画面で静止画の撮影日時を選んで頭出し

■カセットメモリーを使わないフォトサーチ ➡ 撮影日時とは関係なく静止画を探して頭出し

テープの途中に無記録部分があると
フォトサーチ/フォトスキャンが正しく働かないことがあります。

1つのカセットのカセットメモリーに入るフォトデータは
12枚までです。13枚以上ある場合は、フォトスキャンで検索してください。

カセットメモリーを使って静止画を探す –フォトサーチ

- カセットメモリー付きカセットでのみできます。
- メニューの「Cメモリーサーチ」を「入」にしてください。（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトサーチ」を選ぶ。**

フォトサーチ画面が出る。

❸ リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたい静止画の撮影日時を選ぶ。

選んだ撮影日時の静止画が出る。

サーチを止める

リモコンの■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに静止画を探す ーフォトサーチ

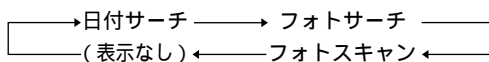
❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューで[CM]の項目の「Cメモリーサーチ」を「切」にする。（188ページ）

❹ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトサーチ」を選ぶ。

次の順で変わります。

→日付サーチ → フォトサーチ → フォトスキャン → （表示なし） →（日付サーチへ戻る）

❺ リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

静止画の場面で、自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）またはうしろ（⏭）の場面が頭出しされる。

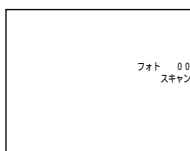
サーチを止める

リモコンの■または本体の[■]（停止ボタン）を押す。

静止画を次々に探すーフォトスキャン

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「フォトスキャン」を選ぶ。**

フォトスキャン画面が出る。

❸ **リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。**

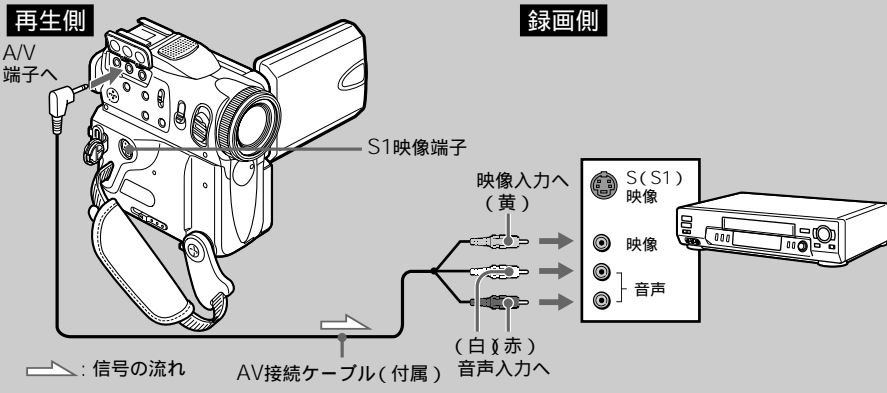
静止画が順に5秒ずつ表示される。

フォトスキャンを止める

リモコンの■または本体の［■］（停止ボタン）を押す。

他のビデオへダビングする

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を再生機として使い、接続したビデオで録画、編集できます。

相手側のビデオは以下のどの方式のビデオでも使えます。

8、Hi8、VHS、VHS C、S VHS、S VHS C、β、ED Beta、Mini DV、DV、D8、MICRO MV

録画側ビデオの音声入力がひとつ(モノラル)の場合

AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと

録画画像をより忠実に再現できます。ビデオにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

- メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）
- 本機の画面表示/タッチパネルボタン、リモコンの画面表示ボタン/データコードボタン/サーチ選択ボタンを押して画面表示を消してください。消さないでダビングするとテープに記録されます。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。

録画機：録画用カセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

ビデオ入力端子にAV接続ケーブルをつなぐ。

入力切り換えスイッチを「外部入力（ライン）」にする。詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画を始める。

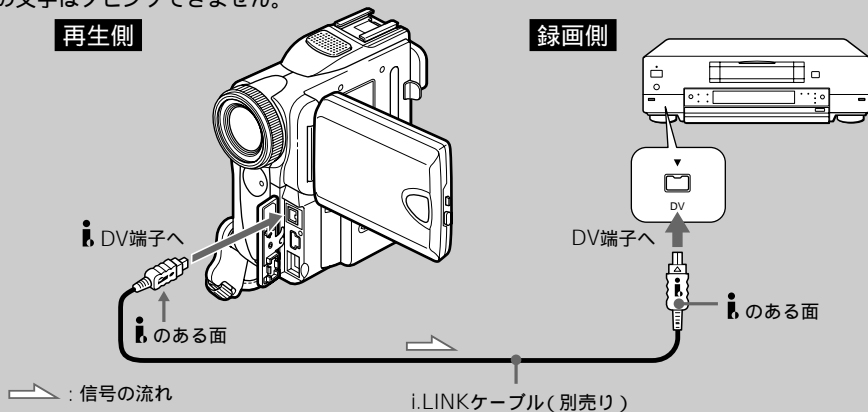
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

i.LINKケーブルでつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。
タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容、“メモリースティック”のインデックス画面の文字はダビングできません。

i.LINKケーブルで本機と接続できるのは1台だけです
i.LINKについて詳しくは205ページをご覧ください。

「ピクチャーエフェクト」「デジタルエフェクト」「再生ズーム」を加えた画像は
DV端子からは出力されません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影済みのカセットを入れる。
録画機：録画用カセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチがある場合は、「DV入力」にする。詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画を始める。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

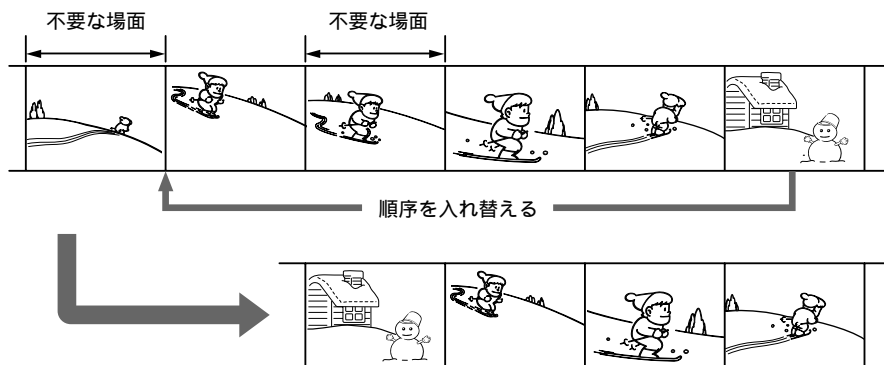
録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

必要な場面を選びダビングする

– デジタルプログラムエディット（他機のテープへ）

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、録画機を操作せずに別のテープに簡単にダビングできます。

場面はフレーム単位で選べます。
最大20プログラムまで設定できます。

本機の“ メモリースティック ”にもダビングできます。詳しくは132ページをご覧ください。

ご注意

他機のテープへのデジタルプログラムエディットの操作信号は、◐ LANC端子では送信できません。

他機のテープへのデジタルプログラムエディットには、次の準備が必要です。

準備1： 録画機をつなぐ。（75ページ）

準備2： 録画機を操作するための設定をする。（76、80ページ）

準備3： 録画機のタイミングを補正する。（82ページ）

上記の準備を一度行った録画機を使用する場合は準備2、3は不要です。

操作は以下の順で行ないます。

操作1： プログラムをつくる。（84ページ）

操作2： プログラムを実行する（ダビングする）。（87ページ）

i.LINKケーブルでつなぐとデジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

準備1 録画機をつなぐ

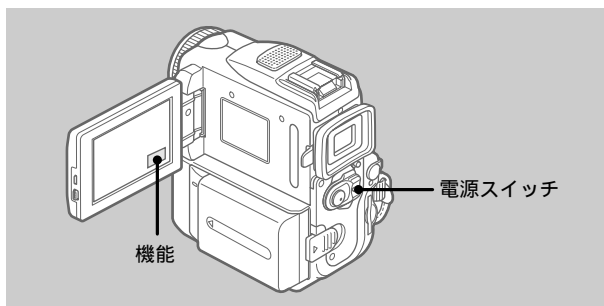
AV接続ケーブル、i.LINKケーブルのどちらでも接続できます。AV接続ケーブルの場合は73ページ、i.LINKケーブルの場合は74ページの図のように接続します。

リモコンコードについて
本機には、下記のリモコンコードが記憶されています。お使いの録画機のリモコンコードを設定してください。お買い上げ時、本機は「3」に設定されています。

メーカー	リモコンコード
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、56、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
ＮＥＣ	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

リモコンコードが対応していない機種は、デジタルプログラムエディットはできません。

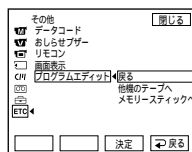
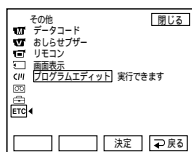
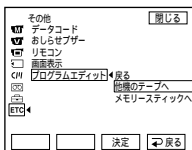
準備2 録画機を操作するための設定をする　ー AV接続ケーブルでつなぐ

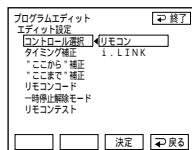
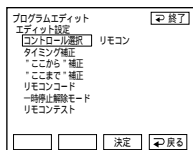
AV接続ケーブルで接続したときは、本機の赤外線発光部から録画機のリモコン受光部に録画機を操作するための信号を送ります。
正しく信号を送るために、以下の設定（❶～❹）を行ってください。

❶ リモコンコードを設定する。

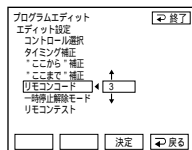
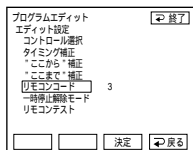
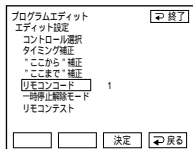
1　本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2　録画機の電源を入れ、入力切換を選ぶ。
録画機がビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

3　「機能」を押し、ページ1画面を出す。

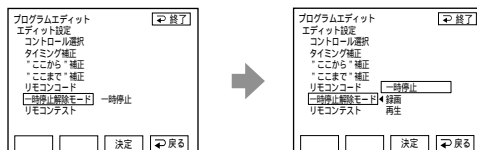
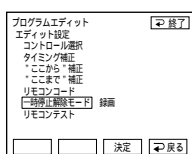
4　メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。（190ページ）

5　「↓」/「↑」で「他機のテープへ」を選び「決定」を押す。

6　「エディット設定」を押す。

7　「↓」/「↑」で「コントロール選択」を選び、「決定」を押す。

8　「↓」/「↑」で「リモコン」を選び、「決定」を押す。

9　「↓」/「↑」で「リモコンコード」を選び、「決定」を押す。

10　「↓」/「↑」で録画機のリモコンコード（番号）を選び、「決定」を押す。

「リモコンコードについて」を参照してください。（76ページ）

次のページへつづく

❷ 録画機の録画一時停止解除モードを設定する。

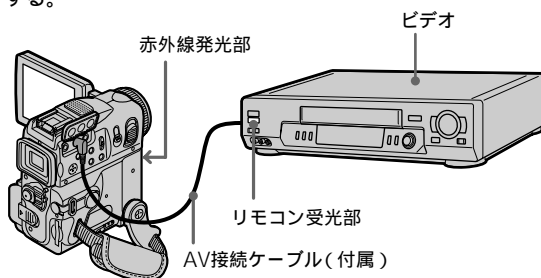
1 「↓」/「↑」で「一時停止解除モード」選び、「決定」を押す。

2 「↓」/「↑」で録画機の録画一時停止解除モードを選び、「決定」を押す。

詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の赤外線発光部と録画機のリモコン受光部を向かい合わせる。

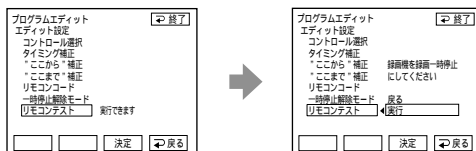
機器の距離は約30cm離し、間に障害物等がない状態にする。

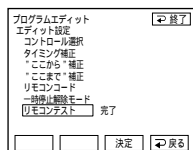
録画一時停止解除モードについて

お使いの録画機で録画一時停止を解除し、録画を始めるときに押すボタンを下記よりお選びください。（ボタンの種類は録画機により異なります。）
それぞれのボタンに合った録画一時停止解除モードを設定してください。

録画機のボタン	録画一時停止解除モード
❚❚（一時停止）	「一時停止」
●（録画）	「録画」
►（再生）	「再生」

❹ 録画機が正しく動作するか確認する。

1　録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

2　「↓」/「↑」で「リモコンテスト」を選び、「決定」を押す。

3　「↓」/「↑」で「実行」を選び、「決定」を押す。

録画機が録画を開始すれば、正しく設定されている。
終了すると本機の表示は「完了」に変わる。

録画機が正しく動作しないとき

- 「リモコンコードについて」のコードをご覧の上、「リモコンコード」または「録画一時停止解除モード」を設定し直す。
- 本機と録画機を約30cmまで離す。
- 録画機の取扱説明書をご確認ください。

ご注意

i.LINKケーブルで接続したとき、録画機の機種により正しく操作できない場合があります。本機の「コントロール選択」を「リモコン」に設定してください。

i.LINKケーブルでつなぐと
タイトル、画面表示はダビングできません。

準備2　録画機を操作するための設定をする ー i.LINKケーブルでつなぐ

i.LINKケーブルで接続したときはこの設定を行ないます。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 録画機の電源を入れ、入力切換を「DV入力」にする。

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❹ メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。（190ページ）

❺ 「↓」/「↑」で「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。

❻ 「エディット設定」を押す。

❼ 「↓」/「↑」で「コントロール選択」を選び、「決定」を押す。

❽ 「↓」/「↑」で「i.LINK」を選び、「決定」を押す。

ご注意

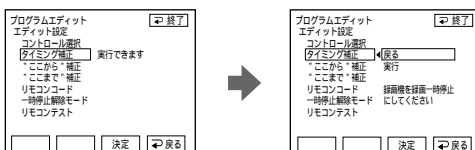
- タイミング補正用の画像が約50秒間録画されます。
- テープの頭から記録すると、はじめの部分が切れることがあります。10秒ほどテープを送ってから記録してください。
- i.LINKケーブル接続で録画機の操作がうまく行えないときは、接続はそのままで、AV接続ケーブルでの設定（76ページ）を行ってください。映像/音声はデジタル信号で送られます。

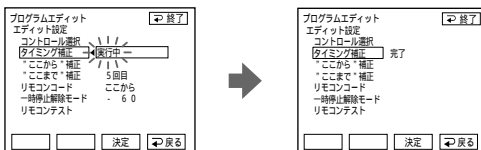
準備3 録画機のタイミングを補正する

筆記具をご用意ください。
本機の動作と録画機の動作のタイミングの誤差を補正します。
本機のテープを取り出しておいてください。

❶ 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

「コントロール選択」で「i.LINK」を選んだときは、録画一時停止にする必要はありません。

❷ 「↓」/「↑」で「タイミング補正」を選び、「決定」を押す。

❸ 「↓」/「↑」で「実行」を選び、「決定」を押す。

録画機にタイミング補正用のカウンターが5回分入った画像が録画される。
終了すると本機の表示は「実行中」の点滅から「完了」の点灯に変わる。

❹ 録画機のカセットを巻き戻し、スロー再生する。

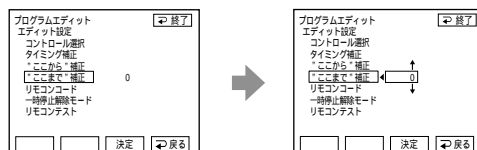
5回分の「ここから」のカウンター数値と「ここまで」のカウンター数値が表示される。これらのカウンター数値の中から、各回ごとに「ここから」の最初に表示される数値と「ここまで」の最後に表示される数値をメモする。

❺ 「ここから」の5回分の数値と「ここまで」の5回分の数値それぞれの平均値を計算する。

❻ 「↓」/「↑」で「”ここから”補正」を選び、「決定」を押す。

❼ 「↓」/「↑」で「ここから」の平均値の数値を選び、「決定」を押す。

録画開始のタイミングが補正される。

❽ 「↓」/「↑」で「”ここまで”補正」を選び、「決定」を押す。

❾ 「↓」/「↑」で「ここまで」の平均値の数値を選び、「決定」を押す。

録画停止のタイミングが補正される。

❿ 「戻る」を押して決定する。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

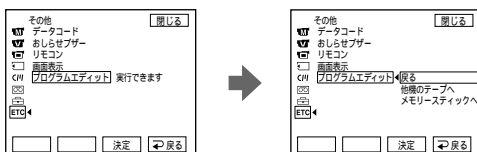
ご注意

デジタルプログラムエディット操作中は録画することはできません。

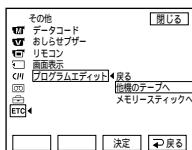
テープの無記録部分には
「ここから」「ここまで」の設定はできません。

「ここから」と「ここまで」の間に無記録部分があると
タイムコードが正しく表示されません。

操作1 プログラムをつくる

❶ 本機に再生するカセットを入れ、録画機に録画するカセットを入れる。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。（190ページ）

❹ 「↓」/「↑」で、「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。

❺ 本機で録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。

◀II</II▶>（コマ送りボタン）で微調整できます。

❻ 「マークここから」を押す。

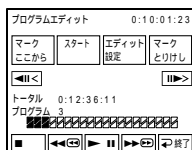
最初のプログラム「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わる。

❼ 本機で録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。

◀II</II▶>（コマ送りボタン）で微調整できます。

❽ 「マークここまで」を押す。

最初のプログラム「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わる。

❾ 手順5〜8を繰り返し、プログラムを設定する。

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わる。
最大20プログラムまで設定できます。

一度設定したプログラムを消す

最後に設定したプログラムの「ここまで」、「ここから」の順で消去していきます。

❶ 「マークとりけし」を押す。

❷ 「1マーク消去」を押す。

最後に設定したプログラムマークが点滅し、「消去しますか？」の表示がでる。

❸ 「実行」を押す。

最後に設定したプログラムが取り消されます。

消去を中止する

手順3で「中止」を押す。

プログラムの全消去

❶ **メニューで ETC の項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。**（190ページ）

❷ **「↓」/「↑」で「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。**

❸ **「マークとりけし」を押す。**

❹ **「全消去」を押す。**

設定したプログラムマークがすべて点滅し、「消去しますか？」の表示がでる。

❺ **「実行」を押す。**

設定したすべてのプログラムが取り消されます。

全消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

プログラムを終了する

「⮐終了」を押す。

設定したプログラムはテープを取り出さないかぎり記憶されます。

次の場合、録画機で録画できません

- テープが終わりになっている。
- テープが誤消去防止状態になっている。
- リモコンコードが合っていない。（「リモコン」に設定したとき）
- 録画一時停止解除モードがまちがっている。（「リモコン」に設定したとき）

以下の場合には『“i. LINK”ケーブルと録画機を確認してください」と表示され、ダビングできません。

- i.LINKケーブルを接続していない。（「i.LINK」に設定したとき）
- 接続している録画機の電源が入っていない。（「i.LINK」に設定したとき）

プログラムが未設定のときは「スタート」を押すことができません。

操作2 プログラムを実行する（ダビングする）

機器の接続と録画機が録画一時停止状態であることを確認する。（i.LINKケーブルでの接続のときは不要です。）

録画機がデジタルビデオカメラレコーダーのときは、録画機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❶ メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。**（190ページ）**

❷ 「↓」/「↑」で「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。

❸ 「スタート」を押す。

❹ 「実行」を押す。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始する。このとき、実行中のプログラムマークが点滅する。
本機には、サーチ中は「サーチ中」、録画中は「エディット中」が表示される。
ダビングの終了したプログラムはプログラムマークが水色に点灯する。
ダビングが終わると本機も録画機も自動的に停止する。

エディット中にダビングを中止する

「中止」を押す。

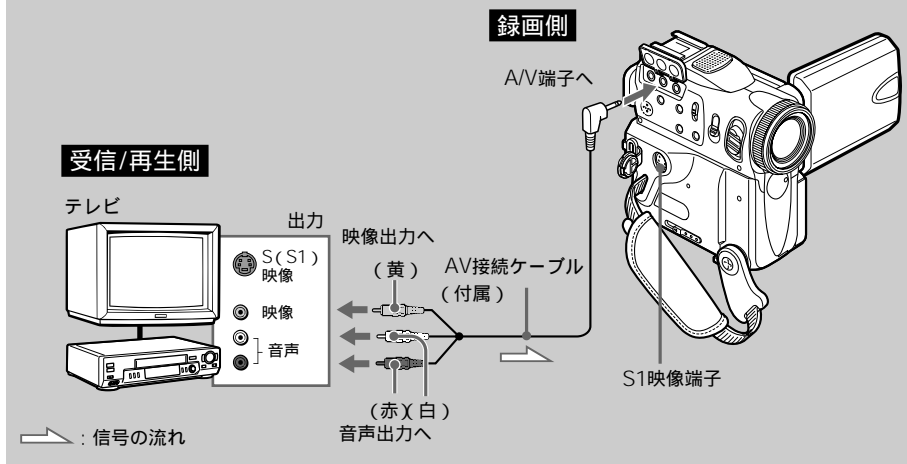
デジタルプログラムエディットを終了する

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻る。

「⮐終了」を押し、表示を消す。

ビデオやテレビから録画する

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を録画機として使い、再生側のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

録画側

A/V端子へ

受信/再生側

テレビ

出力

S（S1）映像

映像

音声

映像出力へ

（黄）

AV接続ケーブル（付属）

S1映像端子

（赤）（白）

音声出力へ

：信号の流れ

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ(モノラル)の場合

AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声出力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと

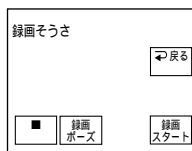
録画画像をより忠実に再現できます。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオやテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。
（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）

❶ カセットを準備する。

本機　：録画用カセットを入れる。
再生機：ビデオから録画するときは、録画済みのカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機を録画一時停止にする。

「機能」を押してページ3画面を選び、「録画そうさ」を押す。次に「録画ポーズ」を押す。

❹ 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。

ビデオやテレビの画像が液晶画面またはファインダーに映る。

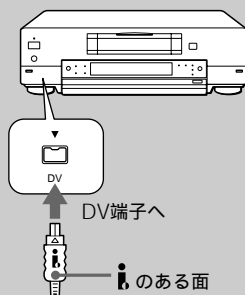
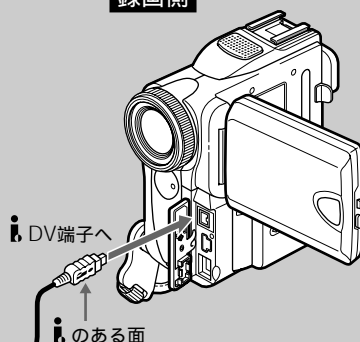
❺ 録画したい場面で「録画スタート」を押して録画を始める。

ダビングが終わったら

本機での録画を停止し、再生機での再生を停止する。

i.LINKケーブルでつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（別売り）でつなぎ、本機で録画・編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

i.LINKケーブルで本機と接続できるのは1台だけです
i.LINKについて詳しくは205ページをご覧ください。

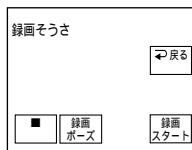
デジタルダビング編集中は
モニター映像に色ムラが出ることがありますが、ダビングされた画像には影響ありません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、本機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：録画用カセットを入れる。
再生機：撮影済みのカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機を録画一時停止にする。

「機能」を押してページ3画面を選び、「録画そうさ」を押す。次に「録画ポーズ」を押す。

録画を始める前に
液晶画面またはファインダーに「DV入力」の表示が出ているのを確認してください。表示は両方の機器に出ることもあります。

❹ 再生側のビデオを再生する。

DV機器の画像が液晶画面またはファインダーに映る。

❺ 録画したい場面で「録画スタート」を押して録画を始める。

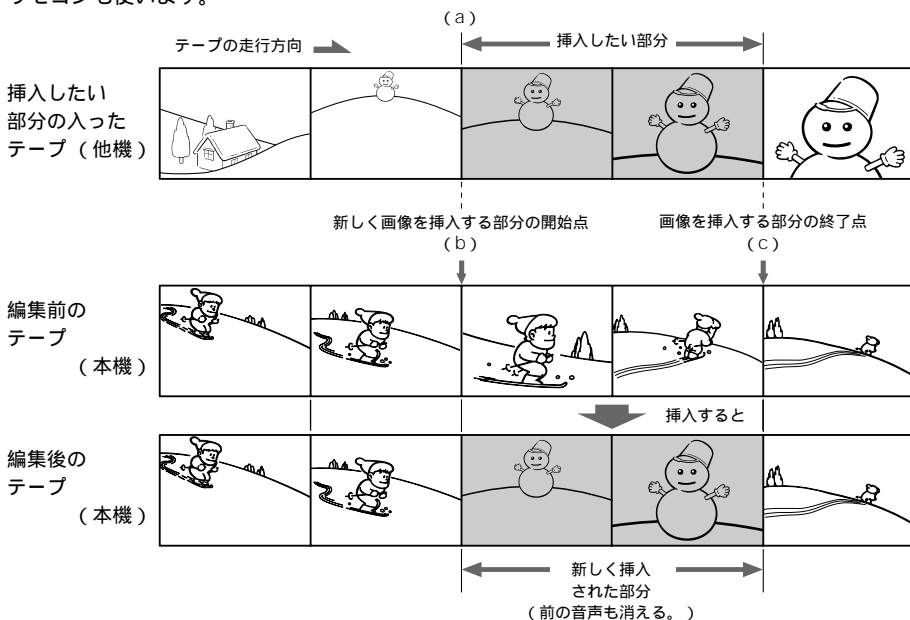
ダビングが終わったら

本機での録画を停止し、再生機での再生を停止する。

撮影したテープに新しく画像を挿入する

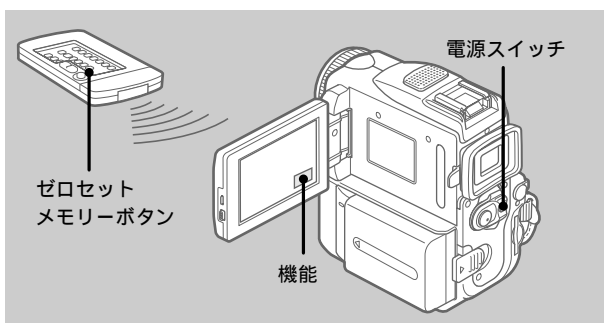
撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。

リモコンも使います。

88ページまたは90ページの接続と準備をし、挿入したい部分の入ったテープを他機に入れておきます。

ご注意

新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えます。

他のビデオで録画したテープに画像を挿入すると
画質や音質が劣化することがあります（本機以外のDCR-PC101Kを含む）。本機で録画したテープに挿入することをおすすめします。

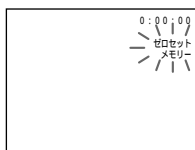
新しく挿入された部分を再生すると
終了点の画像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。
LPモード時は、開始点と終了点の画像と音声が乱れることがあります。

❶ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

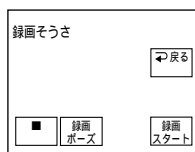
❷ **他機（再生側）で、挿入したい部分の少し前（a）で、再生一時停止状態にする。**

終了点を設定せずに録画するときは
手順3、4をとばします。
終了したいところで■/［■］（停止ボタン）を押します。

ゼロセットメモリー表示は
「機能」を押すと表示されません。

❸ 本機で、挿入部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする。

❹ リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。

「ゼロセットメモリー」が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になる。

❺ 本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。

「機能」を押してページ3画面を選び、「録画そうさ」を押す。次に「録画ポーズ」を押す。

❻ 他機（再生側）のII一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本体の「録画スタート」を押す。

本機の挿入部分に、新たに他機（再生側）の映像と音声が記録され始める。
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止になり、ゼロセットメモリーが解除される。

終了点の位置を変える

手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう一度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順3からやりなおす。

記録済みテープに音声を追加する – アフレコ

12BITの音声モードで記録されたテープの指定した部分に、音声を追加できます。撮影時の音声は消えません。

次のいずれかで、音声を録音してください。

ご注意

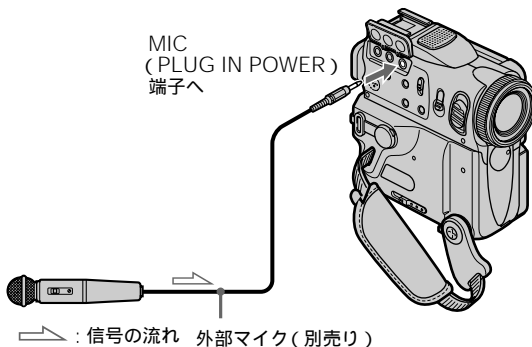
- 16BITモードで記録されたテープには、アフレコできません。（189ページ）
- LPモードで記録されたテープには、アフレコできません。
- i DV端子からはアフレコできません。
- テープの無記録部分にはアフレコできません。

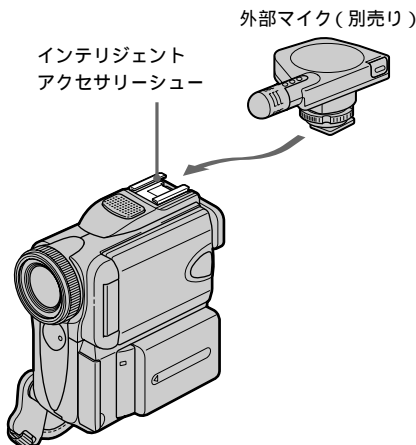
すべての接続をすると
追加する音声は、以下の順番で優先されて録音されます。
- MIC（PLUG IN POWER）端子
- インテリジェントアクセサリーシュー
- A/V端子
- 内蔵マイク

i.LINKケーブルが接続されていると
アフレコできません。

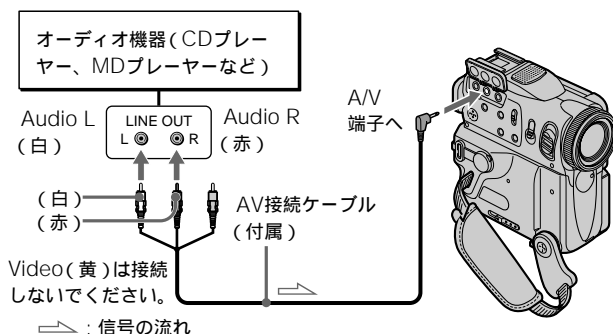
本機で録画されたテープに
アフレコすることをおすすめします。他のビデオ（本機以外のDCR-PC101Kを含む）で録画したテープにアフレコすると音質が劣化することがあります。

誤消去防止状態のカセットでは
アフレコできません。誤消去防止つまみを元に戻してください。

別売りの外部マイクをマイク端子につなぐ

AV接続ケーブルでテレビなどとつないで画像と音声を確認することができます。アフレコする音声はスピーカーから出力されません。ヘッドホンかテレビで確認してください。

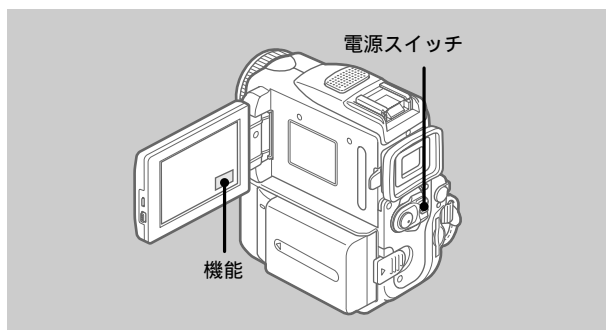
別売りの外部マイクをインテリジェントアクセサリーシューにつなぐ

ご注意

A/V端子または内蔵マイクでアフレコするときは、S1映像端子、A/V端子から映像は出力されません。映像は液晶画面またはファインダーで確認してください。アフレコする音声はヘッドホンで確認してください。

A/V端子にオーディオ機器などをつなぐ

内蔵マイクを使う

接続は不要です。

アフレコする

上記のいずれかの接続をして、次の操作をします。

1 本機に録画済みカセットを入れる。

2 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

編集する—ダビングなど—

次のページへつづく

より正確にアフレコするには
再生中にアフレコを終了したいところで、あらかじめリモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。そのあと手順3からアフレコを始めると、アフレコの終了点で自動的に録音が止まります。

❸ アフレコの開始点を決める。

▶II（再生/一時停止ボタン）を押して再生する。アフレコを始めたいところでもう一度押し、一時停止にする。◀II</II▶>（コマ送りボタン）で微調整できます。

❹ 「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。

❺ 「アフレコそうさ」を押す。

アフレコそうさ画面がでる。

❻ 「アフレコ」を押す。

緑色の●IIマークが出る。

❼ ▶II（再生/一時停止ボタン）を押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。

画像を再生しながら、ステレオ2に追加する音声を記録する。
アフレコ中は画面上に赤色の●マークが出る。

❽ アフレコを終了したいところで■（停止ボタン）を押す。

アフレコした音声を聞く

1 アフレコしたテープを再生する。

2 メニューで[V]の項目の「音声ミックス」を選び、「決定」を押す。（185ページ）

3 「↓」/「↑」で撮影時の音声（ステレオ1）とアフレコした音声（ステレオ2）の音声バランスを調整し、「決定」を押す。

お買い上げ時はステレオ1のみの音声が出るように設定されています。メニューでバランスを調整しても、電源をはずして5分たつとバランスはステレオ1のみの音声が出る設定に戻ります。

タイトルを入れる

CM のみ カセットメモリー付きカセットを使うと、タイトルを入れることができます。再生すると、タイトルを入れた場面から約5秒間タイトルが出ます。

誤消去防止状態のカセットでは
タイトルを入れられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

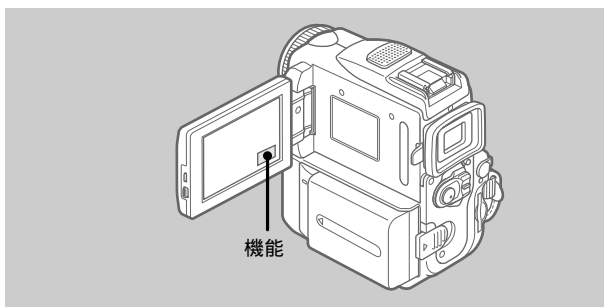
オリジナルタイトルを入れるときは
手順3で[アイコン]を選びます。

テープの無記録部分には
タイトルを入れられません。

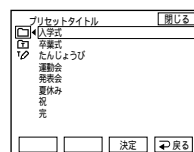
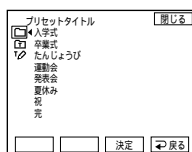
テープの途中に無記録部分があると
タイトルが正しく表示されないことがあります。

本機で入れたタイトルは
- インデックスタイトラー機能付きのMini DVビデオでのみ見られます。
- 他機で頭出ししたとき、インデックスデータとして誤検出されることがあります。

タイトルがたくさん打ち込まれている、または他のデータが記録されているテープには
メモリー不足でタイトルを入れられないことがあります。この場合は、不要なデータを消去してください。

再生中にタイトルを出したくないとき
メニューで「タイトル表示」を「切」にします。（188ページ）

❶ ［撮影中］・［撮影スタンバイ中］または［再生中］・［再生一時停止中］のとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **メニューで[CM]の項目の「タイトル」を選び、「決定」を押す。**（188ページ）

❸ **「↓」/「↑」を押して[アイコン]を選び、「決定」を押す。**

設定表示と表示順

- 「色」
  しろ→きいろ→むらさき→あか→みずいろ→みどり→あお
- 「サイズ」
  ちいさい↔おおきい
  13文字以上のタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。
- 「位置」
  ちいさいサイズは9段階、おおきいサイズは8段階から選べます。

1つのカセットに記憶できるタイトルは

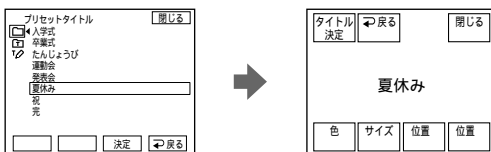
平均5文字で20タイトルです。ただし、カセットメモリーに日付データ/フォトデータ/カセットラベルデータが容量いっぱいに入っているときは、平均5文字で11タイトルです。１つのカセットのカセットメモリーに入る各データの容量は次の通りです。

- 日付データ　　6つ
- フォトデータ　　12枚
- カセットラベル　　1つ

カセットメモリーの容量がいっぱいのときは

「カセットメモリーがいっぱいです」のお知らせメッセージが出ます。不要なタイトルを消してください。

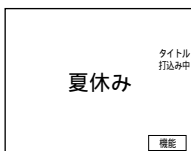
❹「↓」/「↑」を押して入れたいタイトルを選び「決定」を押す。

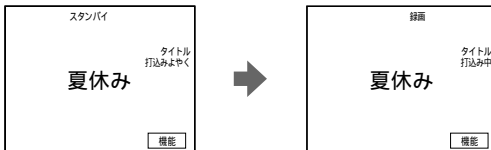
タイトルが表示される。

❺「色」または「サイズ」、「位置↓」/「位置↑」を押して、希望の色、サイズ、位置を選択する。

❻「タイトル決定」を押す。

❼「タイトル打込み」を押す。

[再生中]・[再生一時停止中] または [撮影中] のとき

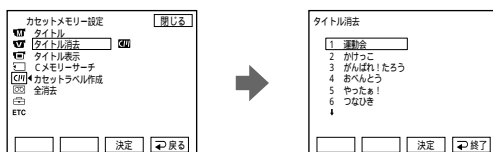
「打込み中」の表示が出る。約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

[撮影スタンバイ中] のとき

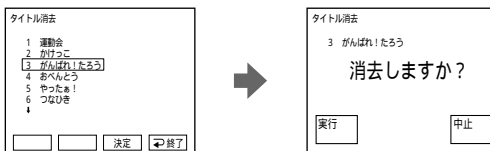
「打込みよやく」の表示が出る。スタート/ストップボタンを押して撮影を始めると同時に「打込み中」の表示になり、約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶される。

タイトルを消す

❶ **電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❸ **メニューで[CM]の項目の「タイトル消去」を選び、「決定」を押す。**（188ページ）

タイトル消去画面が出る。

❹ **「↓」/「↑」を押して消したいタイトルを選び、「決定」を押す。**

「消去しますか？」の表示が出る。

❺ **消去するタイトルを確認し、「実行」を押す。**

「消去中」の表示が点滅する。
消去されると「完了」と表示される。

機能画面に戻す

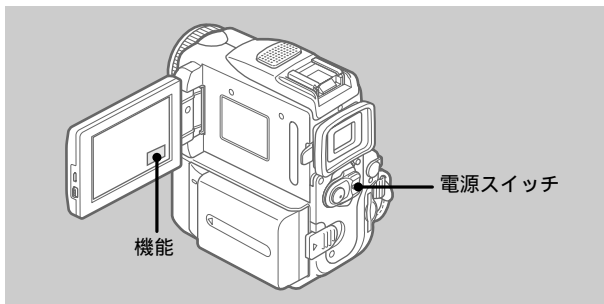
「閉じる」を押す。

タイトルの消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

オリジナルタイトルを作る

20文字以内のタイトルを自分で作って2種類まで本機に記憶できます。

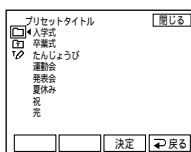
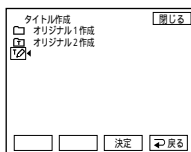
撮影スタンバイ状態で、カセットを入れてタイトルを作成中に5分以上たつと自動的に電源が切れます
作成中のタイトルは残っています。一度電源スイッチを「切（充電）」にして、手順1からやりなおしてください。
5分以上かかりそうなときは電源スイッチを「ビデオ」にしておくかカセットを取り出しておけば電源は切れません。

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューで の項目の「タイトル」を選び、「決定」を押す。（188ページ）

❹ 「↓」/「↑」を押して を選び、「決定」を押す。

編集する—ダビングなど—

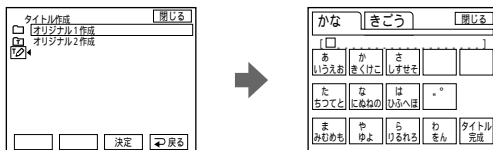
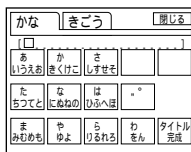
次のページへつづく

漢字変換機能はありません
「きごう」にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。

文字を消すとき
「←」を押すと、いちばんうしろの文字が消えます。

空白を入れたいとき
「→」を押します。

同じボタン内の文字を入れたいとき
「→」でカーソルを移動させてから文字を入れます。

小さい「っ」などの文字を選ぶとき
ボタンを繰り返し押してください。

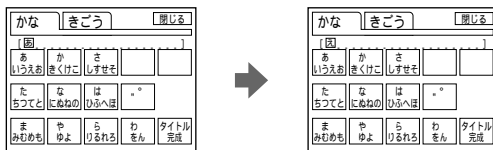
❺ 「↓」/「↑」を押して、「オリジナル1作成」または「オリジナル2作成」を選び、「決定」を押す。

❻ 入力する文字の種類を選ぶ。

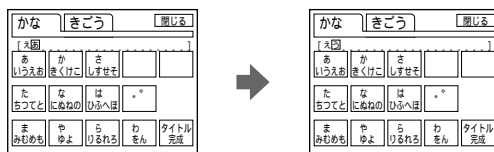
「かな」：ひらがなを入力するとき
「きごう」：アルファベットや数字を入力するとき

「かな」を選んだとき

「きごう」を選んだとき

❼ 希望の文字列を選び、ボタンを繰り返し押して希望の文字を入力する。

1つのボタンに複数の文字が割り当てられており、ボタンを押す回数によって文字が切り換わる。

❽ 「→」を押してカーソルを右に移動し、次の文字を入力する。

手順7を繰り返す。

❾ 「タイトル完成」を押す。

タイトルが記憶される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

作成したタイトルを変更する

手順5で変更したいオリジナルタイトルを選び、「決定」を押して、文字を選びなおす。

カセットに名前を付ける – カセットラベル

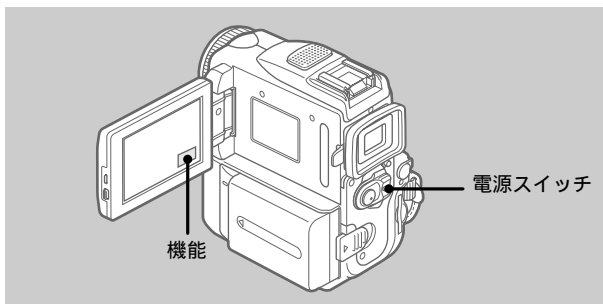
カセットメモリー付きカセットには、10文字までの名前を付けることができます。

名前を付けたカセットを入れ、電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にしたとき、付けた名前が自動的に約5秒間表示されます。

誤消去防止状態のカセットでは
名前をつけられません。誤消去防止ツマミを元に戻してください。

タイトルがたくさん打ち込まれている、または他のデータが記録されているテープには
メモリー不足でカセットに名前を付けられないことがあります。この場合は、不要なデータを消去してください。

タイトルが入れてあると
カセットの名前が表示されるときに、カセットに記憶されているタイトルが4つまで画面に出ます。

文字を入れるスペースが10文字分よりも少ないとき
カセットメモリー容量がいっぱいになっています。スペースが表示されている分だけ文字を入れることができます。

❶ **名前を付けたいカセットを入れる。**

❷ **電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。**

❸ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❹ **メニューでの項目の「カセットラベル作成」を選び、「決定」を押す。（188ページ）**

カセットラベル作成画面が出る。

漢字変換機能はありません
［きごう］にある漢字以外を使うことはできません。

文字を消すとき
「←」を押すと、いちばんうしろの文字が消えます。

空白を入れたいとき
「→」を押します。

同じボタン内の文字を入れたいとき
「→」でカーソルを移動させてから文字を入れます。

小さい「っ」などの文字を選ぶとき
ボタンを繰り返し押してください。

❺ 入力する文字の種類を選ぶ。

「かな」：ひらがなを入力するとき
「きごう」：アルファベットや数字を入力するとき

「かな」を選んだとき

「きごう」を選んだとき

❻ 希望の文字列を選び、ボタンを繰り返し押して希望の文字を入力する。

1つのボタンに複数の文字が割り当てられており、ボタンを押す回数によって文字が切り換わる。

❼ 「→」を押してカーソルを右に移動し、次の文字を入力する。

手順6を繰り返す。

❽ 「ラベル完成」を押す。

カセットラベルが記憶される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

作成したカセットラベルを消す

手順6で「←」を選んで消し、「ラベル完成」を押す。

作成したカセットラベルを変更する

カセットラベルを変更したいカセットを入れ、カセットラベルを作るときと同じ手順で作りなおす。

カセットメモリーのデータを全て消去する

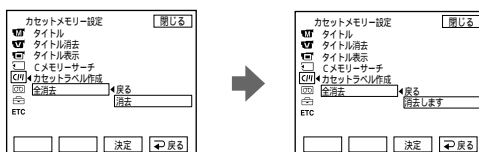
カセットメモリーに保存されている全てのデータを一度に消去することができます。

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にする。

❷「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューで[CM]の項目の「全消去」を選び、「決定」を押す。（188ページ）

❹「↓」/「↑」で「消去」を選び、「決定」を押す。

「消去」が「消去します」の表示にかわる。

❺「↓」/「↑」で「消去します」を選び、「決定」を押す。

「消去中」の表示が点滅する。
消去されると「完了」と表示される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

消去を中止する

手順5で「戻る」を選び、「決定」を押す。

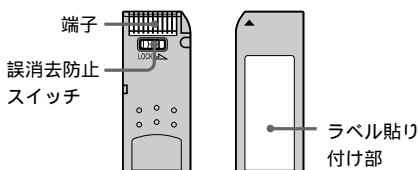
“ メモリースティック ”を使う – はじめに

付属の“ メモリースティック ”は、画像を記録し、見たい画像を簡単に再生するほか、以下のようなことができます。
– 画像をテープから“ メモリースティック ”へ取りこむ。
– 別売りのパソコン接続キット等を使用し、パソコンに画像データを取りこむ。
– 画像の消去、プロテクト、プリントマーク操作。

静止画の圧縮形式（JPEG）
本機は、撮影した静止画データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.jpg」です。

動画の圧縮形式（MPEG）
本機は、撮影した動画データをMPEG（Moving Picture Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.mpg」です。

画像のデータファイル名
静止画の場合
– 本機の画面表示：100-0001
– パソコンの画面表示：Dsc00001.jpg
動画の場合
– 本機の画面表示：MOV00001
– パソコンの画面表示：Mov00001.mpg

“ メモリースティック ”について

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録、消去ができなくなります。
- モデルによっては、誤消去防止スイッチの位置や形状が異なる場合があります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中に“ メモリースティック ”を抜いたり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 端子部に触れたり、金属を接触させないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、“ メモリースティック ”に付属の収納ケースに入れてください。

パソコンでフォーマット（初期化）した“ メモリースティック ”は

パソコン（Windows OS/Macintosh OS）でフォーマットした“ メモリースティック ”は、本機での動作を保証致しません。

画像の互換性について

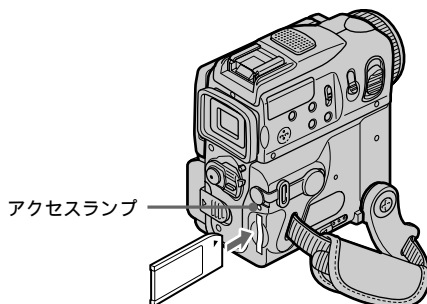
- 本機は（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“ Design rules for Camera File systems ”に対応しています。
  統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900, DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“ メモリースティック ”が本機で使えないときは、187ページの手順にしたがい本機でフォーマット（初期化）をしてください。
  フォーマットすると“ メモリースティック ”に記録してあるデータは全て消去されますので、ご注意ください。

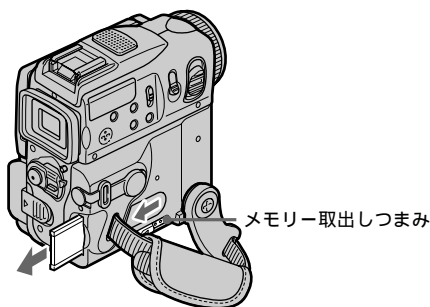
- “ Memory Stick ”（“ メモリースティック ”）MEMORY STICK はソニー株式会社の商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文ではTM、®マークは明記していません。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
データの読み込み、または書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

「メモリースティックエラー」と表示されたときは
“ メモリースティック ”を二、三度入れなおしてください。それでも表示が出るときは、“ メモリースティック ”が壊れていることがあります。“ メモリースティック ”を交換してください。

“ メモリースティック ”を入れる

“ メモリースティック ”の▶マークを下の図のようにして奥まで押しこむ。

“ メモリースティック ”を取り出す

メモリー取出しつまみを矢印の方向へずらす。

ご注意

- タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で押すか、人差し指で軽く押してください。
- ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。
- 液晶画面を必要以上に強く押さないでください。
- ぬれた手で液晶画面に触れないでください。
- 「機能」が表示されていないときは、液晶画面を軽く押すと表示されます。液晶画面の表示は、本機の画面表示/タッチパネルボタンを押して出したり消したりすることができます。
- 押したボタンが動作しないときは調節（キャリブレーション）が必要です。（209ページ）
- 液晶画面が汚れたときは付属のクリーニングクロスをお使いください。

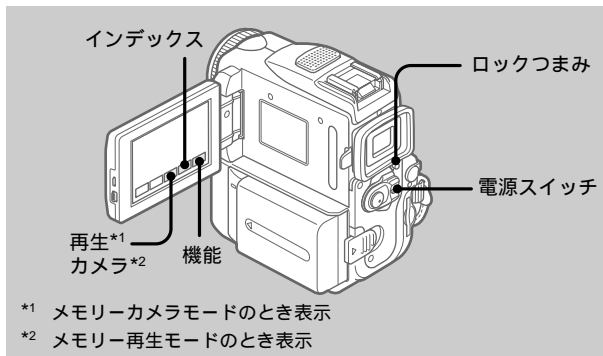
各々の項目が設定されているときは
緑色のバー表示が項目の上に出ます。

選択できないボタンは
グレー表示になります。

タッチパネルは
ファインダーを見ながら操作することもできます。
（60ページ）

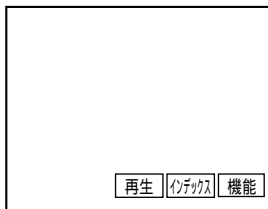
タッチパネルの使い方

操作に必要なボタンが液晶画面に表示されます。指で直接ボタンを押して操作します（タッチパネル操作）。

*1　メモリーカメラモードのとき表示
*2　メモリー再生モードのとき表示

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ OPENボタンを押して、液晶画面を開ける。

操作に必要なボタンが出る。

メモリーカメラモードのとき

メモリー再生モード（静止画）のとき

2つのモードは「再生」ボタンまたは「カメラ」ボタンを押すことで入れ換わります。

「機能」を押すと
液晶画面に操作ボタンが現れます。
［メモリーカメラモード］
ページ1画面のとき
- 「スポットフォーカス」
- 「メニュー」
- 「再生」
- 「インデックス」
- 「カメラ明るさ」
- 「スポット測光」

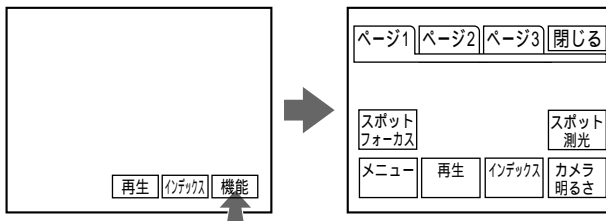
［メモリーカメラモード］
ページ2画面のとき
- 「セルフタイマー」
- 「再生」
- 「インデックス」
- 「メモリーミックス」

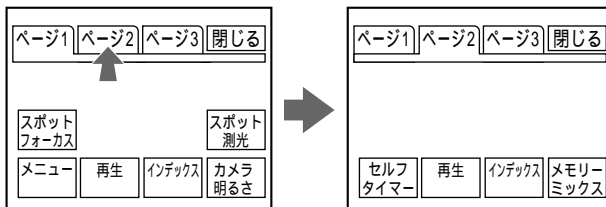
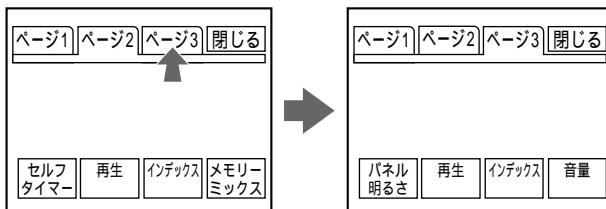
［メモリーカメラモード］
ページ3画面のとき
- 「パネル明るさ」
- 「再生」
- 「インデックス」
- 「音量」

［メモリー再生モード］
ページ1画面のとき
- 「メニュー」
- 「カメラ」
- 「インデックス」
- 「消去」
- 「＋」
- 「－」

［メモリー再生モード］
ページ2画面のとき
- 「再生ズーム」
- 「カメラ」
- 「インデックス」
- 「データコード」
- 「＋」
- 「－」

［メモリー再生モード］
ページ3画面のとき
- 「パネル明るさ」
- 「カメラ」
- 「インデックス」
- 「音量」
- 「＋」
- 「－」

❸ 「機能」を押す。
操作に必要なボタンが出る。（ページ1画面）

メモリーカメラモードのとき

❹ 「ページ2」を押す。
操作に必要なボタンが出る。（ページ2画面）

❺ 「ページ3」を押す。
操作に必要なボタンが出る。（ページ3画面）

❻ 希望の項目を押す。
詳しくは各機能の説明をご覧ください。

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

設定を決定する
「⮐決定」を押す。

設定を解除する
「⮐切」を押す。ページ1/ページ2/ページ3画面に戻る。

ご注意

画像によっては、画質を変えても画質に差がないことがあります。

画質モードの違いは
画像はJPEG方式で圧縮処理をしてから記録されます。記録されるときに割り当てられるメモリー容量は、画質と画像サイズにより、次のようになります。
（画像サイズは、メニューで1152×864、640×480から選ぶことができます。）

<画像サイズが1152×864のとき>

画質	メモリー容量
スーパーファイン	約600Kバイト
ファイン	約300Kバイト
スタンダード	約200Kバイト

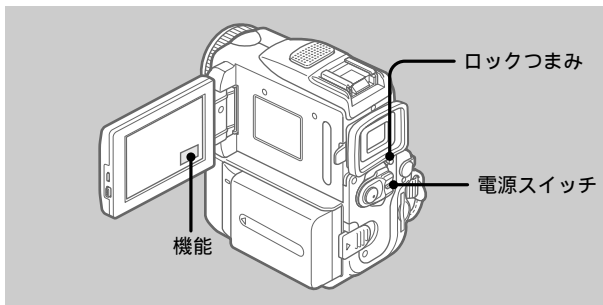
<画像サイズが640×480のとき>

画質	メモリー容量
スーパーファイン	約190Kバイト
ファイン	約100Kバイト
スタンダード	約60Kバイト

画質表示は
再生時は表示されません。

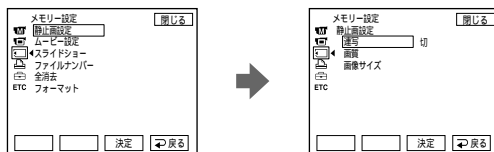
画質を選ぶと
画質に合った記録可能枚数が表示されます。

静止画の画質を選ぶ

あらかじめ静止画記録時の画質を選んで記録できます。お買い上げ時は「スーパーファイン」に設定されています。

1 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

2 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

3 メニューで□の項目の「静止画設定」を選び、「決定」を押す。（186ページ）

4 「↓」/「↑」を押して「画質」を選び、「決定」を押す。

❺ 「↓」/「↑」を押して希望の画質を選び、「決定」を押す。

画質について

設定	意味
スーパーファイン 表示：SFN	最も高画質で記録するときに使います。記録可能な静止画の数は、「ファイン」より減ります。約1/3に圧縮されます。
ファイン 表示：FINE	画質を優先するときに使います。約1/6に圧縮されます。
スタンダード 表示：STD	標準の画質です。約1/10に圧縮されます。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

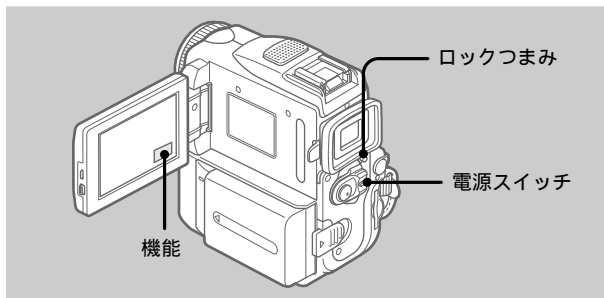
ご注意

本機で画像サイズ「1152×864」で記録した静止画ファイルを、「1152×864」の画像サイズのない他機で再生した場合、画像の一部が表示されないことがあります。または、中心に小さく表示されることがあります。

画像サイズを選ぶ

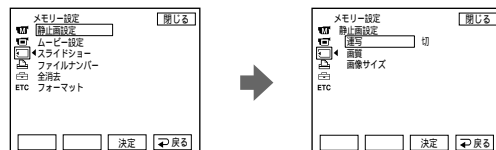
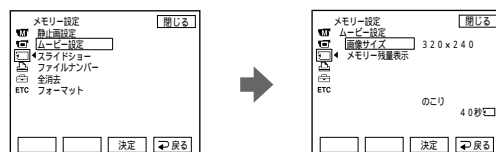
記録時の画像サイズには2種類あります。

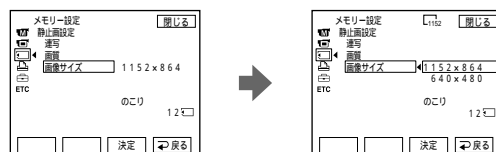
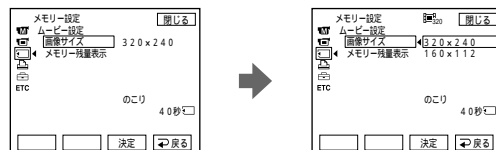
静止画：「1152×864」または「640×480」
（電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にしたときは、「640×480」のみになります。）
お買い上げ時は「1152×864」に設定されています。

動画：「320×240」または「160×112」
お買い上げ時は「320×240」に設定されています。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

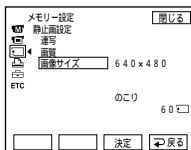
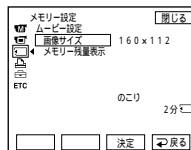
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

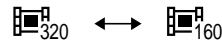
❸ メニューで◻の項目の「静止画設定」または「ムービー設定」を選び、「決定」を押す。
（186、187ページ）

静止画設定

ムービー設定

❹ 「↓」/「↑」を押して、「画像サイズ」を選び、「決定」を押す。

静止画設定

ムービー設定

”メモリースティック“を使う

❺ **「↓」/「↑」を押して、希望の画像サイズを選び、「決定」を押す。**

静止画設定

ムービー設定

表示は次のように変わります。

静止画設定

ムービー設定

画像サイズについて

設定	意味	表示
1152×864	静止画を1152×864サイズで記録する。	1152
640×480	静止画を640×480サイズで記録する。	640
320×240	動画を320×240サイズで記録する。	320
160×112	動画を160×112サイズで記録する。	160

1枚の“ メモリースティック ”に記録できる静止画枚数の目安

画質と画像サイズの設定および被写体の状況で撮影枚数が異なります。

画質	画像サイズ	“ メモリースティック ”容量				
		8MB（付属）	16MB	32MB	64MB	128MB
スーパーファイン	1152×864	約12枚	約25枚	約51枚	約100枚	約205枚
	640×480	約40枚	約80枚	約160枚	約325枚	約650枚
ファイン	1152×864	約25枚	約50枚	約100枚	約205枚	約415枚
	640×480	約80枚	約160枚	約325枚	約650枚	約1310枚
スタンダード	1152×864	約37枚	約74枚	約150枚	約300枚	約600枚
	640×480	約120枚	約240枚	約485枚	約980枚	約1970枚

1枚の“ メモリースティック ”に記録できる動画の記録時間の目安

画像サイズの設定および被写体の状況で撮影時間が異なります。

画像サイズ	“ メモリースティック ”容量				
	8MB（付属）	16MB	32MB	64MB	128MB
320×240	約1分20秒	約2分40秒	約5分20秒	約10分40秒	約21分20秒
160×112	約5分20秒	約10分40秒	約21分20秒	約42分40秒	約85分20秒

上の表の数字は、本機でフォーマットした“ メモリースティック ”に記録できる静止画の枚数と動画の時間です。

“ メモリースティック ”に静止画を撮る – メモリーフォト撮影

“ メモリースティック ”に静止画を記録できます。

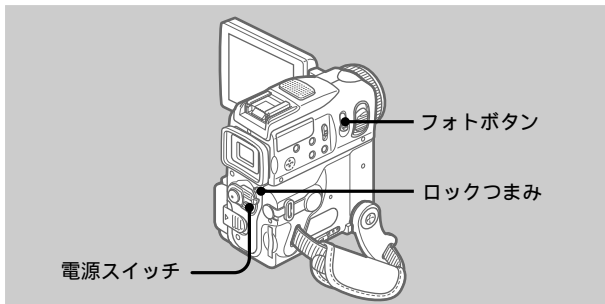
電源スイッチを「メモリー」にすると
以下の機能が使えません。
- ワイドTV
- デジタルズーム
- 手ぶれ補正
- SUPER NIGHTSHOT
- COLOR SLOW SHUTTER
- フェーダー
- ピクチャーエフェクト
- デジタルエフェクト
- タイトル
- プログラムAEのスポーツレッスン（表示が点滅します）

静止画を記録中は
電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

手順2でフォトボタンを軽く押すと
画像が瞬間的にまたたきますが、異常ではありません。

撮影日時/カメラデータは
画面には出ません。自動で“ メモリースティック ”上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。リモコンも使えます。（34ページ）

電源スイッチを「メモリー」にして撮影すると
電源スイッチを「カメラ」にして撮影しているときにくらべて画角が少し広くなります。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

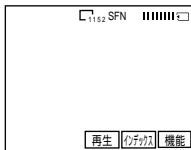
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

画像の明るさとフォーカスが固定され、撮影が可能になる。撮影するとき、明るさとフォーカスは画面の中央部分の被写体に合わせて調整されます。

撮影済み枚数　記録可能な枚数の目安

緑の●が点滅から点灯に変わり、撮影可能となる。

❸ フォトボタンを深く押す。

「カシャ」とシャッター音がして、画像が静止画になる。バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“ メモリースティック ”に記録される。

［テープ撮影中］または［撮影スタンバイ中］でも“ メモリースティック ”に静止画を撮ることができます

詳しくは38ページをご覧ください。

連写の枚数は
画像サイズと" メモリース
ティック "の残量によって変
わることがあります。

連写をしているときは
フラッシュ（別売り）は発光
しません。

セルフタイマーまたはリモコンを使って撮影したときは
自動的に最大枚数まで連続し
て撮影します。

" メモリースティック "の残量が3枚より少ないと
ブラケット撮影を設定して、
フォトボタンを押すと「メモ
リースティックのメモリーが
いっぱいです」と表示されブ
ラケット撮影はできません。

ブラケット撮影の効果
液晶画面上では効果が見えに
くい場合があります。テレビ
モニターやパソコン画面など
で効果を確認することをおす
すめします。

連続して撮る（連写）

あらかじめメニューで連写の設定をしてメモリーフォト撮影を
すると、以下の連写ができます。

ノーマル連写
約0.5秒間隔で1152×864で4枚、640×480で13枚までの静止画を連続して撮影します。（）

ブラケット撮影
約0.5秒間隔で自動で露出を変えて3枚の画像を連続して撮影します。（BRK）

マルチ画面連写
約0.4秒間隔で9枚の静止画を連続して撮影し、9分割された1つの画面に表示します。このとき、静止画の画像サイズは640×480で記録されます。（）

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

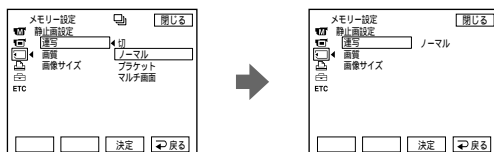
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❸ **メニューで□の項目の「静止画設定」を選び、「決定」を押す。（186ページ）**

❹ **「↓」/「↑」で「連写」を選び、「決定」を押す。**

「ノーマル連写」では
フォトボタンを深く押している間、最大枚数まで連続して撮影します。ボタンを深く押すのをやめると、撮影は終わります。

❺ 「↓」/「↑」で「ノーマル」、「ブラケット」または「マルチ画面」を選び、「決定」を押す。

❻ 「閉じる」を押してメニュー画面を消す。

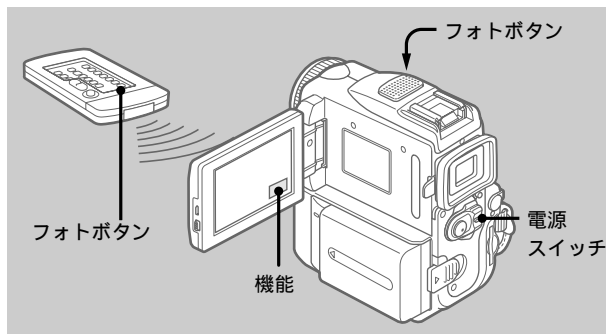
❼ フォトボタンを深く押す。

“メモリースティック”の容量がいっぱいになると
「メモリースティックのメモリーがいっぱいです」と表示され、メモリーフォト撮影は終了します。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」または「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーメモリーフォト撮影

セルフタイマーを使って"メモリースティック"に静止画を記録できます。リモコンも使えます。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ **「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。**

❸ **「セルフタイマー」を押す。**

セルフタイマー表示⏲が出る。

❹ **フォトボタンを深く押す。**

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度「セルフタイマー」を押し、セルフタイマー表示⏲を消す。リモコンを使ってセルフタイマーを解除することはできません。

テープの画像を静止画として取りこむ

テープに記録された画像を、“ メモリースティック ”に静止画として記録できます。

また、他機の画像を取りこんで、“ メモリースティック ”に静止画として記録できます。

静止画の画像サイズは
「640×480」になります。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

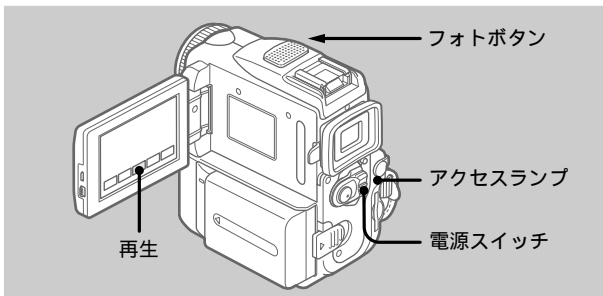
画面に「メモリースティックフォーマットエラー」と表示されたら
フォーマットの形式が違うなど本機で認識できない“ メモリースティック ”を使用しています。フォーマット形式をご確認ください。

再生中にフォトボタンを軽く押すと
カセットは一時停止します。

テープに記録された音声は
記録できません。

タイトルは
記録できません。フォトボタンを押して画像を記録しているときは、タイトルは表示されません。

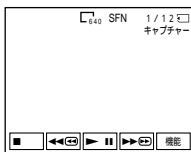
テープに記録されたデータコードは
“ メモリースティック ”には記録できません。
“ メモリースティック ”に取りこんだ時の撮影日時を記録します。カメラデータは記録できません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

- 録画済みのテープを入れておいてください。
- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

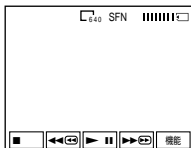
❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ►II（再生ボタン）を押す。

テープの画像が映る。

❸ 画像を取り込みたい部分でフォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

テープの画像が一時停止し、キャプチャー表示が出る。このとき記録はされません。

画像を選びなおすときは、フォトボタンを離してからもう一度軽く押す。

❹ フォトボタンを深く押す。

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“ メモリースティック ”に記録される。テープの画像は再生に戻る。

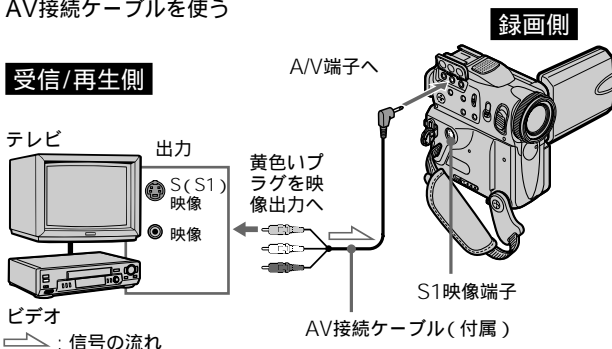
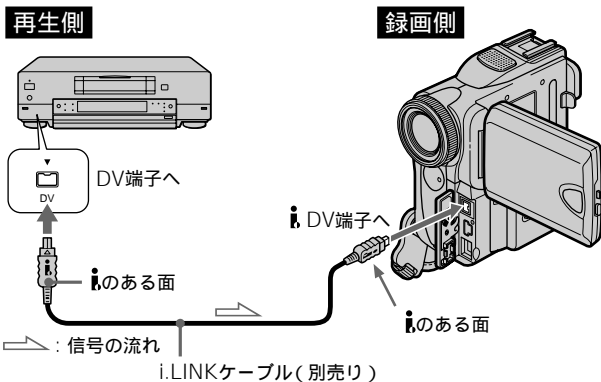
ご注意

次の場合、「メモリースティック記録エラー」が表示されて、記録できません。“ メモリースティック ”を入れなおし、乱れのない画像を記録してください。
- ダビングを繰り返した等で記録状態の悪いテープから画像を取りこもうとしたとき
- テレビチューナーユニット使用時の電波状態が悪く、乱れた画像を取りこもうとしたとき

別売りのS映像ケーブルを使うと

録画画像がより忠実に再現できます。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像端子とビデオやテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

他機をつないで静止画を取りこむ

AV接続ケーブルを使う

i.LINKケーブルを使う

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。
（お買い上げ時は、「パネル」に設定されています。）

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 他機のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビを受信する。

他機の画像が液晶画面またはファインダーに映ります。

❸ 画像を取り込みたい部分で121ページの手順3〜4を行う。

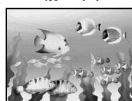
静止画を重ねて撮る – メモリーミックス

“ メモリースティック ”に記録してある静止画を、カメラで撮影している動画に重ねることができます。重ねた画像はテープまたは“ メモリースティック ”に記録できます。（“ メモリースティック ”には静止画のみ記録できます。）

M. クロマキー（メモリークロマキー）
イラストや枠などの静止画を使い、静止画の青色の部分のみを抜いて動画と重ねる。

M. ルミキー（メモリールミキー）
手書きイラストやタイトルなどの静止画を使い、静止画の明るい部分を抜いて動画に重ねる。旅行やイベントの前にあらかじめタイトルを“ メモリースティック ”に入れておくと便利です。

C. クロマキー（カメラクロマキー）
背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる。(青色を背景に被写体を撮影し、青色の部分のみを抜く。）

M.オーバーラップ*（メモリーオーバーラップ）
オーバーラップフェーダーと同様に、“ メモリースティック ”に記録してある静止画から、カメラで撮影している動画にフェードインをする。
*テープにのみ記録できます。

“メモリースティック”を使う

付属の“ メモリースティック ”には

サンプルとして20枚の画像が記録されています。

- M. クロマキー用 18枚（枠など）
  100－0001～100－0018
- C. クロマキー用 2枚（背景になる絵など）
  100－0019～100－0020

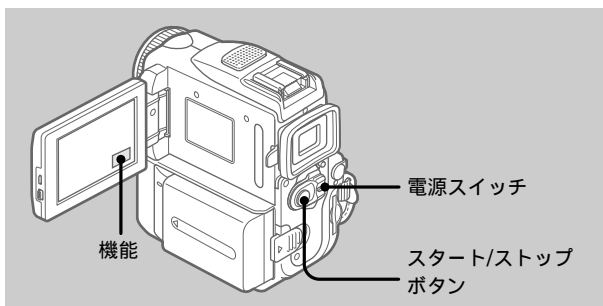
サンプル画像は

プロテクトされています。

ご注意

- MPEGムービー撮影した動画にメモリーミックスすることはできません。
- 重ねる静止画に白い部分が多いと、小画面で表示したときにはっきりと見えないことがあります。
- モードを選びなおすことはできません。一度「↩切」を押し、ページ2画面まで戻ってください。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは

本機で再生できないことがあります。

重ねた画像をテープに記録するとき

- あらかじめ静止画が記録された“ メモリースティック ”を入れておいてください。
- 記録用のテープを入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ2画面を出す。

❸ 「メモリーミックス」を押す。

最後に“ メモリースティック ”に記録した画像が画面の右下の小画面に出る。

❹ 画面右側の「－」/「＋」を押して、重ねたい静止画を選ぶ。

－：前の画像を出すとき
＋：次の画像を出すとき

静止画をそのままテープに記録するには
M. ルミキーモードで、画面左側の「－」/「＋」を押してバー表示を右側いっぱいまで増やします。

M.**オーバーラップを選ぶと**
静止画を選びなおせません。一度「⮐切」を押し、メモリーオーバーラップを解除してから選びなおしてください。

手順8でフォトボタンを押すと
テープに静止画を記録できます。（あらかじめメニューで「フォト記録」を「テープ」に設定してください。）

❺ 希望のモードを選ぶ。

静止画が撮影スタンバイ中の動画と重なる。

❻ 画面左側の「－」/「＋」を押して効果を調節し、「⮐決定」を押す。

ページ2画面に戻る。

調節する内容は以下の通り。

M. クロマキー	静止画の、青色の抜き具合。
M. ルミキー	静止画の、明るい部分の抜き具合。
C. クロマキー	動画の、青色の抜き具合。
M. オーバーラップ	調節の必要はありません。

バー表示を小さくするほど効果が大きくなる。

❼ 「閉じる」を押して、機能画面に戻る。

❽ スタート/ストップボタンを押して撮影を始める。

静止画を選びなおす

手順6の前で画面右側の「－」/「＋」を押す。

メモリーミックスを解除する

124ページの手順2、3を行い、「⮐切」を押す。

ページ2画面に戻る。

ご注意

- MPEGムービー撮影した動画にメモリーミックスすることはできません。
- 重ねる静止画に白い部分が多いと、小画面で表示したときにはっきりと見えないことがあります。
- モードを選びなおすことはできません。一度「⮌切」を押し、ページ2画面まで戻ってください。

静止画の画像サイズは
「640×480」になります。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
本機で再生できないことがあります。

“ メモリースティック ”にメモリーミックスするときは
プログラムAEは働きません。（表示が点滅します。）

重ねた画像を“ メモリースティック ”に静止画として記録するとき

あらかじめ静止画が記録された“ メモリースティック ”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 ［撮影スタンバイ中］に
「機能」を押し、ページ2画面を出す。

3 「メモリーミックス」を押す。

最後に“ メモリースティック ”に記録した画像が画面の右下の小画面に出る。

4 画面右側の「－」/「＋」を押して、重ねたい静止画を選ぶ。

－：前の画像を出すとき
＋：次の画像を出すとき

5 希望のモードを選ぶ。

静止画が撮影スタンバイ中の動画と重なる。

❻ 画面左側の「－」/「＋」を押して効果を調節し、「⮐決定」を押す。

ページ2画面に戻る。

調節する内容は以下の通り。

M. クロマキー	静止画の、青色の抜き具合。
M. ルミキー	静止画の、明るい部分の抜き具合。
C. クロマキー	動画の、青色の抜き具合。

バー表示を小さくするほど効果が大きくなる。

❼ 「閉じる」を押して、機能画面に戻る。

❽ フォトボタンを深く押す。

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“ メモリースティック ”に記録される。

静止画を選びなおす

手順6の前で画面右側の「－」/「＋」を押す。

メモリーミックスを解除する

126ページの手順2、3を行い、「⮐切」を押す。

ページ2画面に戻る。

“ メモリースティック ”に動画を撮る – MPEGムービー撮影

“ メモリースティック ”に音声つきで動画を記録できます。

“ メモリースティック ”の残量分、記録することができます（MPEGムービーEX）。

ご注意

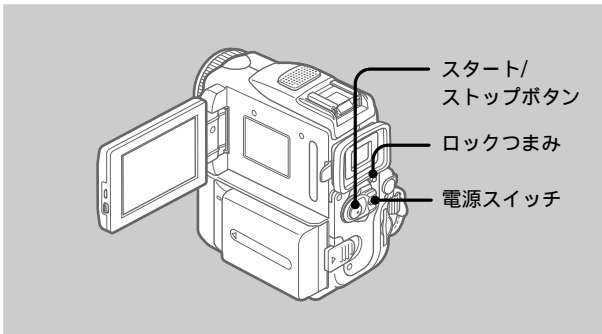
音声はモノラルで記録されます。

電源スイッチを「メモリー」にすると
以下の機能が使えません。
- ワイドTVモード
- デジタルズーム
- 手ぶれ補正
- SUPER NIGHTSHOT
- COLOR SLOW SHUTTER
- フェーダー
- ピクチャーエフェクト
- デジタルエフェクト
- タイトル
- プログラムAEのスポーツレッスン
（表示が点滅します）

別売りのフラッシュを接続しているとき
MPEGムービー撮影をするときは、フラッシュの電源を「切」にしてください。フラッシュへの充電音が記録されることがあります。

撮影日時は
画面には出ません。自動で“ メモリースティック ”上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。カメラデータは記録できません。リモコンも使えます。（34ページ）

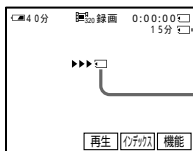
撮影中は
カセットを取り出さないでください。カセット取り出し中の動作音が記録されます。

電源スイッチを「メモリー」にして撮影すると
電源スイッチを「カメラ」にして撮影している時にくらべて画角が少し広くなります。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ スタート/ストップボタンを押す。

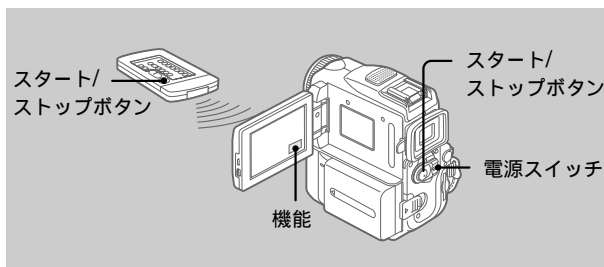
撮影が始まり、録画ランプが点灯する。
“ メモリースティック ”の残量分、画像と音声を記録します。記録時間について詳しくは115ページの表を参照してください。

撮影を中止する

スタート/ストップボタンを押す。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」または「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーMPEGムービー撮影

セルフタイマーを使って“ メモリースティック ”に動画を記録できます。
リモコンも使えます。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ **「機能」を押し、ページ2画面を出す。**

❸ **「セルフタイマー」を押す。**

セルフタイマー表示が出る。

❹ **スタート/ストップボタンを押す。**

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

秒読みを停止する

スタート/ストップボタンを押す。再開するにはもう一度押す。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう一度「セルフタイマー」を押し、セルフタイマー表示を消す。リモコンを使ってセルフタイマーを解除することはできません。

テープの画像を動画として取りこむ

テープに記録された画像を、“ メモリースティック ”に動画として記録できます。

また、他機の画像を取りこんで、“ メモリースティック ”に動画として記録できます。

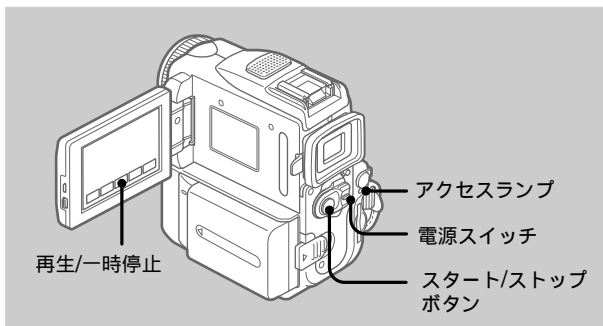
ご注意

- テープの音声が48KHzでも、32KHzに変換されて記録されます。
- ステレオで記録された音声はモノラルに変換されて記録されます。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

タイトルは
記録できません。スタート/ストップボタンを押して画像を記録しているときは、タイトルは表示されません。

「メモリースティック音声エラー」と表示されたときは
本機では取りこめない音声で記録されています。他機を再生機としてAV接続ケーブルを使って外部入力してください。（131ページ）

テープに記録されたデータコードは
“ メモリースティック ”には記録できません。
“ メモリースティック ”に取りこんだ時の撮影日時が記録されます。カメラデータは記録できません。

- 録画済みのテープを入れておいてください。
- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

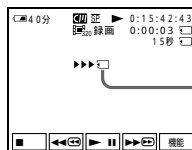
❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ► ıı（再生/一時停止ボタン）を押す。

テープの画像が映る。

画像を取り込みたい部分の開始点でもう一度► ıı（再生/一時停止ボタン）を押し、再生一時停止状態にする。

❸ スタート/ストップボタンを押す。

“ メモリースティック ”の残量分、画像と音声を記録します。記録時間について詳しくは115ページの表を参照してください。

撮影を中止する

スタート/ストップボタンを押す。

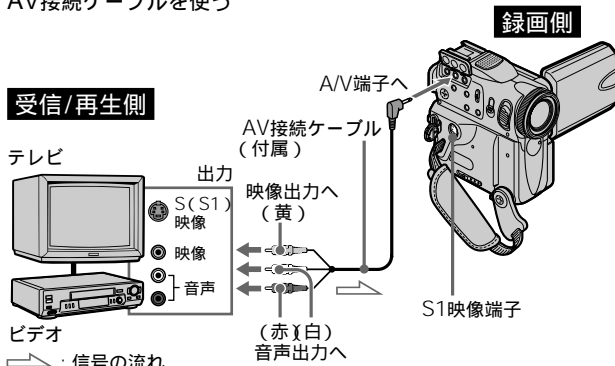
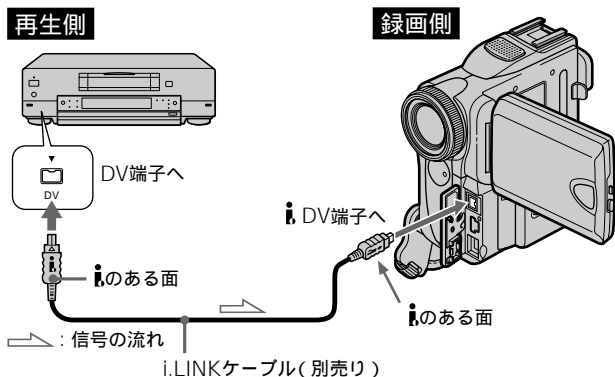
ご注意

以下の場合、「メモリースティック記録エラー」が表示されて、記録できません。
- ダビングを繰り返した等で記録状態の悪いテープから画像を取り込もうとしたとき
- テレビチューナーユニット使用時の電波状態が悪く、乱れた画像を取りこもうとしたとき
- 入力信号が途絶えたとき

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ(モノラル)の場合
AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声出力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより忠実に再現できます。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオ、またはテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

他機をつないで動画を取りこむ

AV接続ケーブルを使う

i.LINKケーブルを使う

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。
（お買い上げ時は、「パネル」に設定されています。）

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 他機のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビを受信する。

他機の画像が液晶画面またはファインダーに映る。

3 画像を取りこみたい部分の開始点で130ページの手順3を行う。

テープの画像を編集して取りこむ
– デジタルプログラムエディット（“メモリースティック”へ）

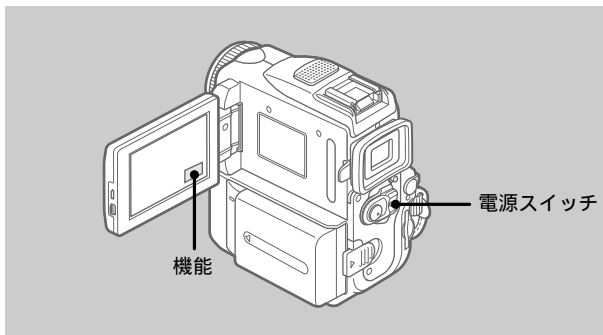
録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、“ メモリースティック ”に取りこむことができます。

ご注意

- タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容はダビングできません。
- デジタルプログラムエディット操作中は録画することはできません。

テープの無記録部分には
「ここから」「ここまで」の設定はできません。

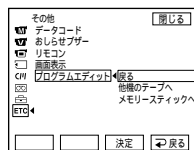
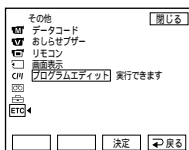
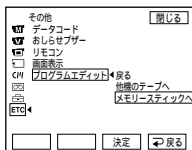
「ここから」と「ここまで」の間に無記録部分があると
トータルタイムが正しく表示されません。

プログラム作成中に
カセットを取り出すとプログラムは消去されます。

プログラムをつくる

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **本機に再生するカセットと録画する“ メモリースティック ”を入れる。**

❸ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❹ **メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。（190ページ）**

❺ 「↓」/「↑」で「メモリースティックへ」を選び、「決定」を押す。

❻ 「編集画像サイズ」を押す。

希望の画像サイズを選ぶ。

❼ 本機で録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。

◀II</II▶>（コマ送りボタン）で微調整できます。

❽ 「マークここから」を押す。

最初のプログラム「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わる。

❾ 本機で録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。

◀II</II▶>（コマ送りボタン）で微調整できます。

次のページへつづく

⑩「マークここまで」を押す。

最初のプログラム「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わる。

⑪手順7〜10を繰り返し、プログラムを設定する。

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わる。
最大20プログラムまで設定できます。

一度設定したプログラムを消す

最後に設定したプログラムの「ここまで」、「ここから」の順で消去していきます。

❶「マークとりけし」を押す。

❷「1マーク消去」を押す。

最後に設定したプログラムマークが点滅し、「消去しますか？」の表示が出る。

❸「実行」を押す。

最後に設定したプログラムが取り消されます。

消去を中止する

手順3で「中止」を押す。

プログラムの全消去

❶ メニューでETCの項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。（190ページ）

❷ 「↓」/「↑」で「メモリースティックへ」を選び、「決定」を押す。

❸ 「マークとりけし」を押す。

❹ 「全消去」を押す。

設定したプログラムマークがすべて点滅し、「消去しますか？」の表示が出る。

❺ 「実行」を押す。

設定したすべてのプログラムが取り消されます。

全消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

プログラムを中止する

「⮐終了」を押す。

設定したプログラムはテープを取り出さないかぎり記憶されます。

プログラムを実行する（“ メモリースティック ”へダビングする）

❶ **メニューで ETC の項目の「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。**（190ページ）

❷ **「↓」/「↑」で「メモリースティックへ」を選び、「決定」を押す。**

❸ **「スタート」を押す。**

❹ **「実行」を押す。**

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始する。このとき、実行中のプログラムマークが点滅する。

本機には、サーチ中は「サーチ中」、本機に記憶中は「エディット中」、“ メモリースティック ”にダビング中は「記録中」が表示される。

ダビングの終了したプログラムはプログラムマークが水色に変わる。

ダビングが終わると自動的に停止する。

ダビングを中止する

「中止」を押す。

押したところまで“ メモリースティック ”に記録されます。

デジタルプログラムエディットを終了する

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻る。

「↩終了」を押し、表示を消す。

プログラムが未設定のときは
「スタート」を押すことができません。

“ メモリースティック ”の残量がたりないときは
「メモリースティックのメモリーがたりません」と表示されます。ただし、残量表示されている秒数までは、記録することができます。

“ メモリースティック ”の残量がないときは
「メモリースティックのメモリーがいっぱいです」と表示されます。

“ メモリースティック ”が入っていないときは
「メモリースティックを入れてください」と表示されます。

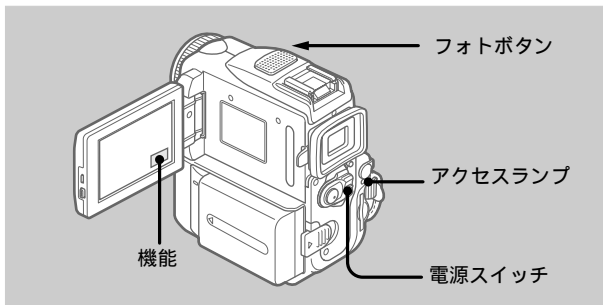
“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチがLOCKになっているときは
「メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください」と表示されます。

テープの静止画を自動記録する – オートフォトコピー

サーチ機能を使って、テープに記録されている静止画のみを“メモリースティック”に順次取りこんで、記録できます。

静止画の画像サイズは
「640×480」になります。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
「実行できません」と表示されます。

- 録画済みのテープを入れて、巻き戻しておいてください。
- あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

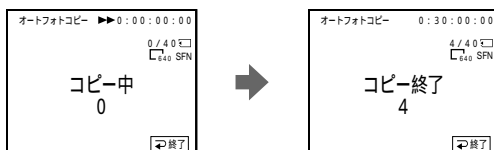
❸ **メニューでの項目の「オートフォトコピー」を選び「決定」を押す。（187ページ）**

「フォトボタンをおしてください」の表示が出る。

“メモリースティック”を使う

途中で“ メモリースティック ”を入れ換えると
前の“ メモリースティック ”に記録した画像データの続きの画像から記録し始めます。

❹ フォトボタンを深く押す。

テープの静止画が“ メモリースティック ”に記録される。コピーされた静止画の数が表示され、コピーが終了すると、「コピー終了」の表示が出る。

コピーを中止する

「終了」を押す。

機能画面に戻す

「終了」を押すと、ページ1画面に戻る。そのあと「閉じる」を押す。

“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになると

「メモリーフル」と表示され、コピーは終了します。
「終了」を押し“ メモリースティック ”を入れ換え、もう一度手順2から操作してください。

静止画を見る – メモリーフォト再生

“ メモリースティック ”に記録してある静止画を見ることができます。

また、インデックス表示をすると、データファイル順に動画も含めた画像を6枚ずつ表示できます。

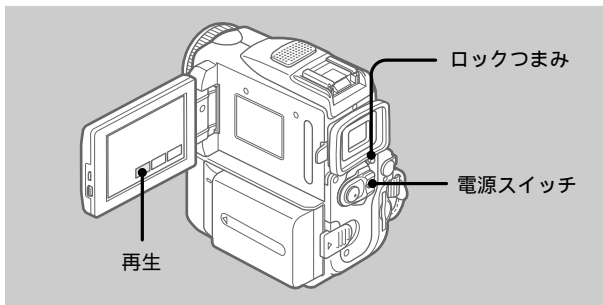
ご注意

次の場合、正しく再生できないことがあります。
- パソコンで加工した画像データを本機で再生する場合
- 撮影に使った機器以外で画像データを再生する場合

データファイル名について
- ディレクトリ構造がDCF規格に準拠していないと、ディレクトリ番号は表示されず、ファイル名のみ表示される場合があります。
- ディレクトリ構造がDCF規格に準拠していないと「メモリースティック ディレクトリエラー」と表示されることがあります。このとき、再生は可能ですが、記録することはできません。
- データファイル名が点滅したときは、ファイルが壊れているか、本機で扱えないファイル形式です。

テレビで見るときは
- あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでおいてください。
- テレビや液晶画面でメモリーフォト再生をすると、画質が劣化しているように見えることがありますが、故障ではありません。データ上は問題ありません。
- テレビの音量を下げておいてください。テレビのスピーカーから「ピー」という音（ハウリング）が出ることがあります。

静止画は

ページ1/ページ2/ページ3画面上でも、「－」/「＋」を押して選ぶことができます。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 「再生」を押す。

最後に撮影した画像が出る。

❸ 「－」/「＋」を押して、静止画を選ぶ。

－：前の画像を見るとき

＋：次の画像を見るとき

メモリーフォト再生を止める

「カメラ」を押す。

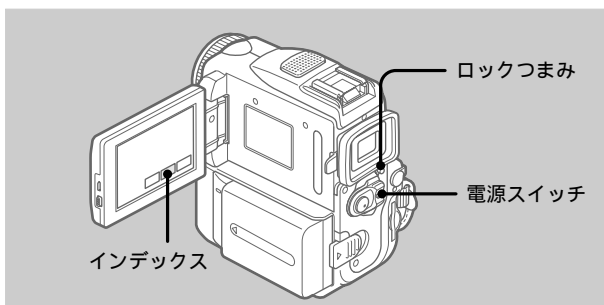
“メモリースティック”を使う

静止画再生中の画面表示

撮影日時/カメラデータは
「データコード」を押すと見ることができます。リモコンも使えます。（34ページ）

画面表示を消すには
画面表示/タッチパネルボタンを押す。

画像を6枚ずつ表示する（インデックス表示）

撮影した画像を6枚ずつ一度に再生できます。画像を検索するときなどに便利です。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

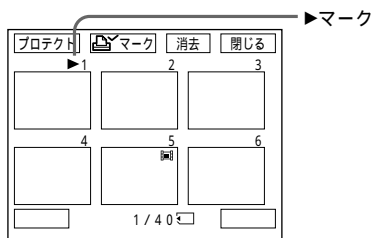
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

ご注意

インデックス表示をしているときの画像右上の番号は、“ メモリースティック ”の記録順を示す番号です。データファイル名とは違いますのでご注意ください。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
インデックス表示ができない場合があります。

❷ 「インデックス」を押す。

インデックス表示をする前に映っていた画像に赤色の▶マークが表示される。

←：前の6枚を見るとき

→：次の6枚を見るとき

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

1枚の表示（シングル表示）に戻す

表示したい画像を押す。

動画を見る – MPEGムービー再生

“ メモリースティック ”に記録した動画を見ることができます。

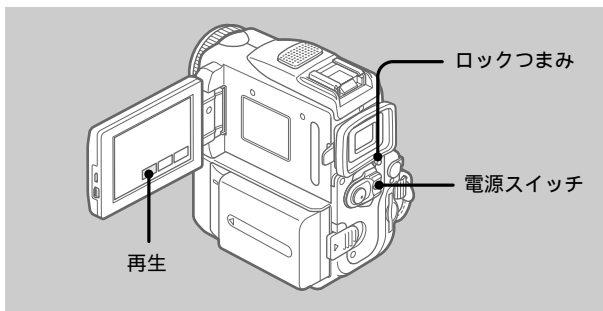
また、インデックス表示をすると、データファイル順に静止画も含めた画像を6枚ずつ表示することができます。

ご注意

次の場合、正しく再生できないことがあります。
- パソコンで加工した画像データを本機で再生する場合
- 撮影に使った機器以外で画像データを再生する場合

テレビで見るときは
- あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでおいてください。
- テレビの音量を下げておいてください。テレビのスピーカーから「ピー」という音（ハウリング）が出ることがあります。

動画は

ページ1/ページ2/ページ3画面上でも、「–」/「+」を押して選ぶことができます。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ 「再生」を押す。

最後に撮影した画像が出る。

❸ 「–」/「+」を押して、動画を選ぶ。

–：前の画像を見るとき
+：次の画像を見るとき

❹ 「MPEG▶❚❚」を押して、再生を始める。

❺ 音量を調節する。

1「機能」を押し、ページ3画面を出す。

2「音量」を押す。

音量画面が出る。

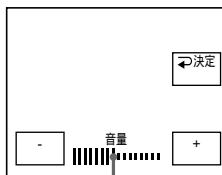
3「–」/「＋」を押して音量を調節する。

－：小さくするとき

＋：大きくするとき

4「決定」を押す。

MPEGムービー再生を止める

「MPEG▶❚❚」を押す。

撮影時間が短いと
23等分されないことがあります。

見たい場面から再生する

撮影した動画を23等分して、見たい場面から再生できます。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷「再生」を押す。

最後に撮影した画像が出る。

❸「–」/「＋」を押して、動画を選ぶ。

－：前の画像を見るとき

＋：次の画像を見るとき

次のページへつづく

❹「←」/「→」を押して、頭出ししたい場面を選ぶ。

←：前の画像を見るとき

→：次の画像を見るとき

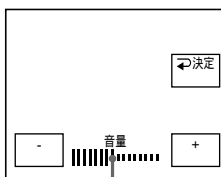
❺「MPEG▶II」を押して、再生を始める。

❻ 音量を調節する。

1「機能」を押し、ページ3画面を出す。

2「音量」を押す。

音量画面が出る。

3「–」/「+」を押して音量を調節する。

–：小さくするとき

+：大きくするとき

4「決定」を押す。

MPEGムービー再生を止める

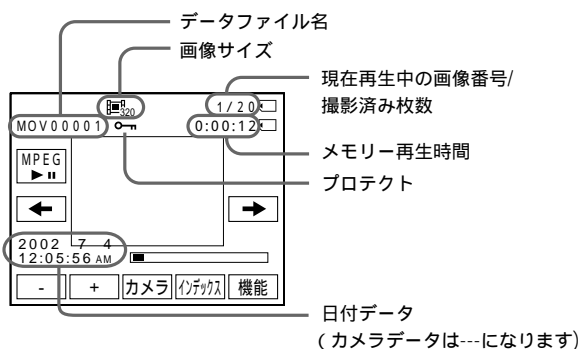
「MPEG▶II」を押す。

撮影日時は

「データコード」を押すと、見ることができます。リモコンも使えます。(34ページ)

画面表示を消すには

画面表示/タッチパネルボタンを押す。

動画再生中の画面表示

“ メモリースティック ”に撮った静止画を拡大する
− メモリー再生ズーム

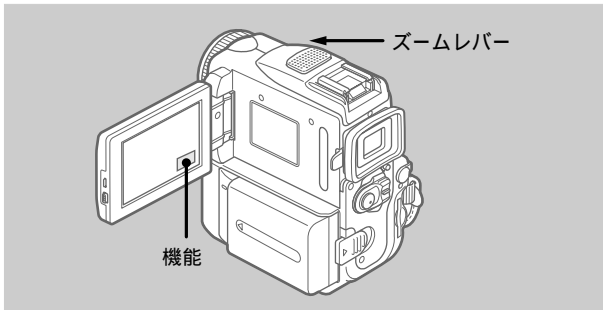
“ メモリースティック ”に記録した静止画を拡大して見ることができます。

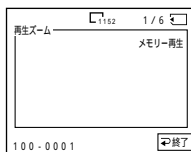
拡大した静止画は見たい部分を選べ、本機の“ メモリースティック ”にダビングできます。

再生ズーム中に
画面表示/タッチパネルボタンを押すと表示枠が消えます。この時押した部分を画面の中心に移動することはできません。

画像の周辺部分は
拡大することはできますが、画面の中心には移動しません。

MPEG**ムービー撮影した画像は**
再生ズームはできません。

メモリー再生ズームした画像を“ メモリースティック ”に保存するには
フォトボタンを押すと表示中の画像を保存することができます。（画像サイズは640×480になります。）

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ ［メモリー再生中］に
「機能」を押し、「ページ2**」を押してページ**2**画面を出す。**

❷ **「再生ズーム」を押す。**

再生ズーム画面が出る。

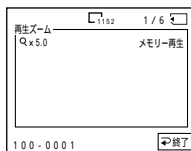
❸ **画面上の枠内の拡大したい部分を押す。**

押した部分を中心に約2倍に拡大された画像が再生されます。さらに枠内の別の場所を押すと、押した部分を画面の中心に移動することができます。

“ メモリースティック ”を使う

次のページへつづく

❹ ズームレバーで倍率を変える。

ズームは 約1.1倍から5倍までの間で選べます。

W：倍率を低くする

T：倍率を高くする

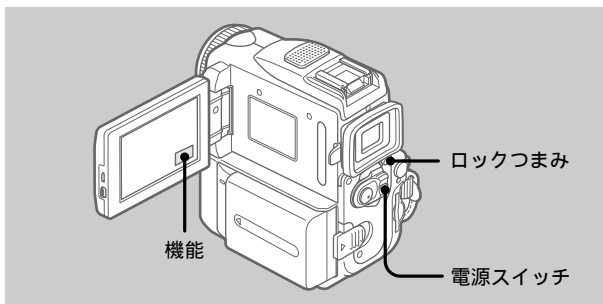
メモリー再生ズームを解除する

「終了」を押す。

画像を順番に自動再生する – スライドショー

画像を順番に自動再生します。
記録された画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

テレビで見るときは
あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでください。

設定中に“ メモリースティック ”を入れ換えると
スライドショーは動作しません。“ メモリースティック ”を入れ換えたら、始めから操作しなおしてください。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❸ **メニューで の項目の「スライドショー」を選び、「決定」を押す。（187ページ）**

❹ **「スタート」を押す。**

“ メモリースティック ”の画像が順番に再生される。

“ メモリースティック ”を使う

スライドショーを中止する

「↩終了」を押す。

スライドショーを一時停止する

「ポーズ」を押す。

機能画面に戻す

「↩終了」を押す。

お好みの画像からスライドショーを始める

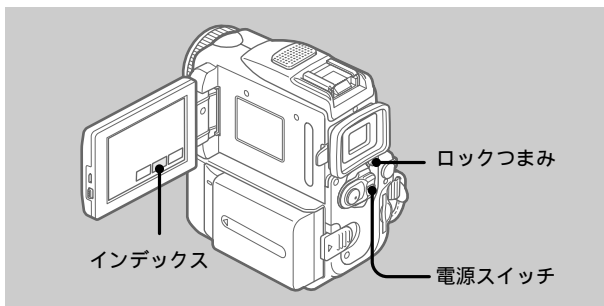
手順4の前に「－」/「＋」で最初の画像を選んでおく。

大事な画像を残す – プロテクト

大事な画像を誤って消さないために、撮影した画像を選んで誤消去防止（プロテクト）指定ができます。

ご注意

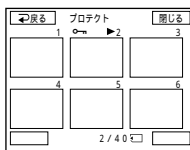
画像にプロテクトがかかっていても“ メモリースティック ”をフォーマットすると“ メモリースティック ”の内容はすべて失われます。フォーマットする前に内容を確認してください。

“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
プロテクトは実行できません。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

1 電源スイッチを「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

2 「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

3 「プロテクト」を押す。
プロテクト画面になる。

4 プロテクトしたい画像を押す。

プロテクトされた画像に「⊶」マークが表示される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

プロテクトを解除する

手順4でプロテクトを解除する画像をもう一度押す。解除された画像からは「⊶」マークが消える。

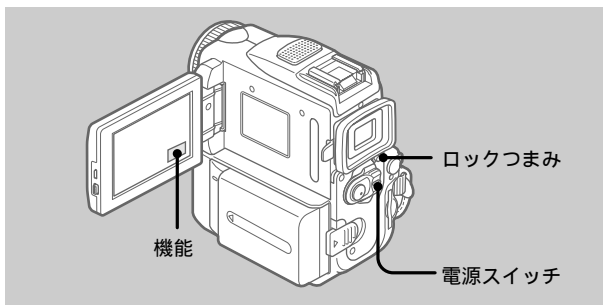
画像を消す – 消去

不要になった画像を消去できます。
撮影したすべての画像を消去したり、画像を
選んで消去したりできます。

ご注意

- プロテクトされている画像は消去できません。プロテクトされている画像を消去したいときは、あらかじめプロテクトを解除してください。
- 一度消去した画像はもとに戻せません。消去する前に内容を確認してください。

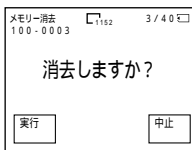
“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
消去は実行できません。

シングル画面表示のとき

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「メモリー」にする。**
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ **消去したい画像を再生する。**

❸ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❹ **「消去」を押す。**

「消去しますか？」の表示が出る。

❺ **「実行」を押す。**
画像が消去される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

画像の消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

インデックス表示のとき

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

❸「消去」を押し、消去したい画像を押す。

消去する画像の番号が反転する。

❹「決定」を押す。

「消去しますか？」の表示が出る。

❺「実行」を押す。

機能画面に戻す

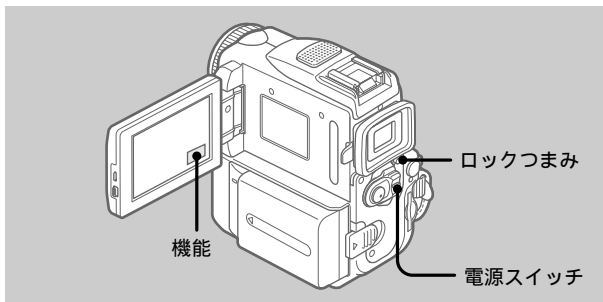
「閉じる」を押す。

画像の消去を中止する

手順5で「中止」を押す。

「消去中」と表示されているときは
電源スイッチを切り換えたり、ボタン操作を行わないでください。

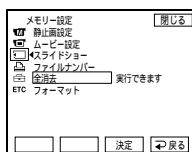
すべての画像を消去する

プロテクトのかかっていない画像ファイルをすべて消去します。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

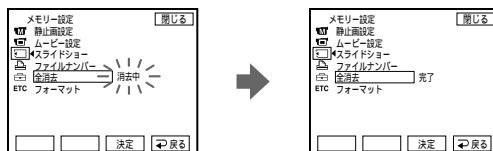
❷「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューでの項目の「全消去」を選び、押して決定する。（187ページ）

❹「↓」/「↑」で「消去」を選び、「決定」を押す。

「消去」が「消去します」の表示に変わる。

❺ 「↓」/「↑」で「消去します」を選び、「決定」を押す。

「消去中」の表示が点滅する。

プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示される。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

全消去を中止する

手順5で「戻る」を選び、「決定」を押す。

プリントマークを付ける – プリントマーク

“ メモリースティック ”に撮影した静止画の中からプリントしたい画像を直接指定して、マークを付けることができます。あとでプリントするときに便利です。

本機はプリントしたい画像を選択できるDPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しています。

“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
プリントマークは実行できません。

動画には
プリントマークを付けることができません。

ファイル名が点滅している時は
プリントマークを付けることができません。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

❸ 「マーク」を押す。
「マーク」画面になる。

❹ プリントマークを付ける画像を押す。

「」マークが表示される。

機能画面に戻す
「閉じる」を押す。

プリントマークを解除する
手順4でプリントマークを解除する画像をもう一度押す。解除された画像からは「」マークが消える。

別売りのプリンターを使う

別売りのプリンターを使ってプリントペーパーに画像をプリントできます。

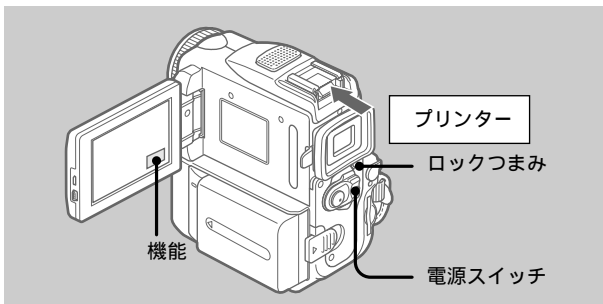
詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

静止画をプリントするには、いろいろなプリント方法があります。ここでは本機のメニューで[プリント]を選んでプリント設定する方法を説明します。

マルチ画面連写した画像は
ステッカータイプ/9分割サイズのプリントペーパーに合わせてプリントすることはできません。

MPEGムービー撮影した画像は
プリントできません。

ファイルがない時は
「ファイルがありません」のメッセージが出ます。

プリントマーク付ファイルがない時は
「プリントマークが付いていません　確認してください」のメッセージが出ます。

- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。
- 別売りのプリンターを本機に取り付けておいてください。

9分割プリント画面のタイプを選ぶ

“ メモリースティック ”に記録した画像をステッカータイプ/9分割サイズのプリントペーパーを使って9分割プリントすると9枚のシールプリントができます。

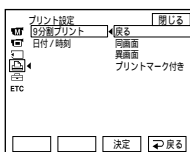
❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

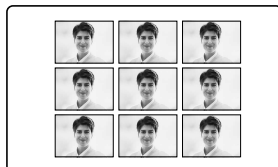
ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ メニューで[プリント]の項目の「9分割プリント」を選び、「決定」を押す。（188ページ）

“メモリースティック”を使う

次のページへつづく

4 「↓」/「↑」で希望のモードを選び、「決定」を押す。

同画面

異画面または
*プリントマーク付き

* プリントマークを付けた静止画を9枚プリントします。

9分割プリントした画像は
日付/時刻表示を入れることはできません。

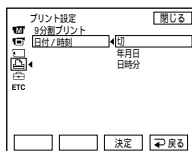
日付・時刻を選ぶ

記録した日時もプリントできます。

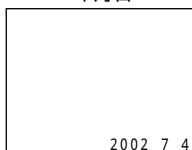
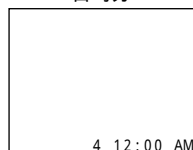
1 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは右側（解除）にする。

2 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

3 メニューでの項目の「日付/時刻」を選び、「決定」を押す。（188ページ）

4 「↓」/「↑」で希望のモードを選び、「決定」を押す。

年月日

日時分

画像をパソコンで見る – はじめに

テープ、“ メモリースティック ”の画像をパソコンでご覧になるには、接続方法が異なります。

※メモリースティックスロットを装備したパソコンでご覧になるときは、“ メモリースティック ”を本機から取り出して、パソコンのメモリースティックスロットに入れてご使用ください。

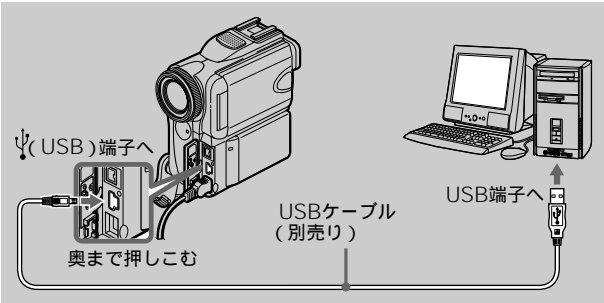
	本機の接続端子	**接続ケーブル**	**パソコンに必要な環境**
テープの静止画・動画	(USB）端子	USBケーブル（別売り）	USB端子、編集ソフト
	DV端子	i.LINKケーブル（別売り）	DV端子、編集ソフト
“ メモリースティック ”の静止画・動画	(USB）端子	USBケーブル（別売り）	USB端子、編集ソフト

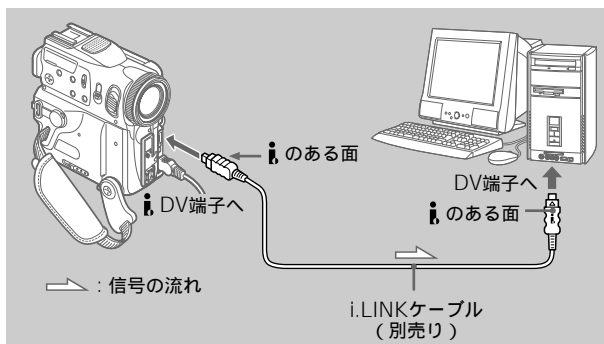
USB端子でパソコンに接続する場合、本機とパソコンはUSBドライバのインストールが完了してから接続して下さい。先に接続すると、USBドライバが正しくインストールできません。

お持ちのパソコンの各端子、編集ソフトについては、パソコンメーカーにお問い合わせください。

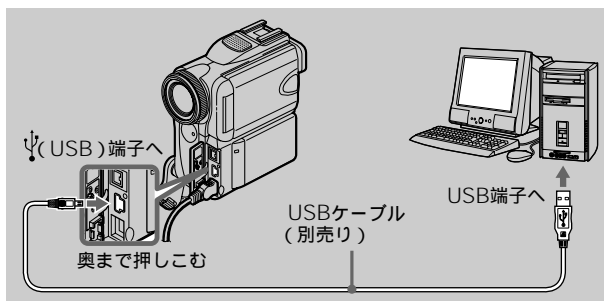
テープの画像を見る

USB端子でパソコンと接続するとき

詳しくは160ページをご覧ください。

DV端子でパソコンと接続するとき

お持ちのパソコンにDV端子が装備されていて、ビデオ信号の取りこみができる編集ソフトがインストールされている必要があります。

“ メモリースティック ”の画像を見る

USB端子でパソコンと接続するとき

USB接続には「標準」と「PTP」の2通りの接続方法があり、お買い上げ時は「標準」に設定されています。ここでは「標準」での使い方を説明します。Windowsをお使いの方は160ページを、Macintoshをお使いの方は177ページをご覧ください。

この接続のほかに、別売りのメモリースティックリーダー／ライターもご使用できます。

USB端子で接続できないパソコンのとき

別売りのメモリースティック用フロッピーディスクアダプター、メモリースティック用PCカードアダプターをご使用ください。
アクセサリーご購入の際は、アクセサリーの推奨使用環境をカタログでご確認の上ご購入ください。

パソコンを使用するときのご注意

“ メモリースティック ”

- パソコンでフォーマットした“ メモリースティック ”を本機で使用した場合や、USB接続時に本機内の“ メモリースティック ”をパソコンからフォーマットした場合は本機での動作を保証致しません。
- “ メモリースティック ”内のデータを圧縮しないでください。圧縮されたデータは本機で使用できなくなります。

ソフトウェア

- アプリケーションソフトによっては、静止画ファイルを開くとファイルサイズが大きくなる場合があります。
- レタッチソフト等を使って加工した画像をパソコンから本機に取りこむ場合、または本機の画像を直接加工した場合、画像形式が異なるためファイルエラー表示が出たりファイルを開くことができない場合があります。

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズをお使いの場合

MPEGデータを再生すると再生時間が極端に短くなることがあります。その際は下記のホームページで最新ドライバをダウンロードしてください。

http://www.vaio.sony.co.jp

［ダウンロード］から適当なアップデートプログラムを選びダウンロードする。

USB端子でパソコンに接続する
− Windowsをお使いの方へ

本機とパソコンは、USBドライバのインストールが完了してから接続してください。先に接続すると、USBドライバを正しくインストールできません。

USB端子で本機をパソコンに接続するには

お手持ちのパソコンにUSB**ドライバのインストール**が必要です。USBドライバはパソコン接続キット（DPCK-US20）（別売り）に付属しているCD-ROMに、画像を見るためのアプリケーションソフトとともに収録されています。

本機とパソコンをUSB接続すると、本機の撮影画像や再生画像をパソコンで見ることができます（USBストリーミング機能）。さらに画像を取りこむと、パソコンのソフトウェアで加工したり、Eメールに添付したりできます。“ メモリースティック ”に記録した画像をパソコンで見ることもできます。

USB接続でテープの画像をパソコンで見るときのパソコンの推奨使用環境

OS： Microsoft Windows 98 SE, Windows Me, Windows 2000 Professional, Windows XP Home Edition, Windows XP Professional

上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。

上記のOS内でもアップグレードされた場合は動作保証致しません。

Windows 98では音声が出ませんが、静止画の取りこみはできます。

CPU： Pentium Ⅲ 500 MHz以上が必要です。（Pentium Ⅲ 800 MHz以上を推奨します。）

必要ソフトウェア：
DirectX 8.0a以降が必要です。

サウンドカード：
16bitのステレオサウンドカード及びスピーカー

メモリ：64MB以上が必要です。

ハードディスク：
インストールに必要な空きディスク容量：
約200MB以上
推奨するハードディスクの空き容量：
1GB以上（編集する画像ファイルのサイズにより異なります。）

ディスプレイ：4MBのVRAMを搭載したビデオカード、解像度は800×600ドット以上、High Color（16bitカラー、65 000色）、Direct Drawドライバ対応（800×600 ドット未満、256色以下では正常に動作しません。）

その他：DirectXテクノロジに対応しておりますので、ご使用の際は DirectXが組みこまれている必要があります。

USB端子が標準で装備されていることが必要です。

この機能はMacintoshではご使用になれません。

USB接続をして"メモリースティック"の画像をパソコンで見るときのパソコンの推奨使用環境

推奨Windows環境

OS： Microsoft Windows 98、
Windows 98 SE、Windows Me、
Windows 2000 Professional、
Windows XP Home Edition、
Windows XP Professional

上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。

上記のOS内でもアップグレードされた場合は動作保証致しません。

CPU：MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子が標準で装備されていることが必要です。

Windows Media Playerがインストールされていること（動画再生時）。

ご注意

- 1台のパソコンで2つ以上のUSB接続をされる場合、またハブをご使用の場合は動作保証致しません。
- 同時に使われるUSB機器によっては動作致しません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作保証するものではありません。
- WindowsおよびWindows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- その他本書で登場するシステム名、製品名は一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお本文ではTM、®マークは明記していません。

ご注意

USBドライバのインストールが完了する前にUSBケーブルを接続すると、USBドライバが誤って登録されます。166ページの手順に従って、もう一度インストールしてください。

Windows XP Home Edition/Professional**をお使いの方へ**
メニューの「USB接続」で「PTP」を選ぶと、USBドライバをインストールしなくても、本機からパソコンに“メモリースティック”の画像をコピーすることができます。本機からパソコンへコピーのみ行うという方に最適です。詳しくは189ページをご覧ください。

USB**ドライバをインストールする**

以下の操作はUSB**ケーブルを接続しないで行ってください。**
USB**ケーブルは「パソコンに本機を認識させる」で接続してください。**

Windows 2000 Professionalをお使いの場合はAdministrator、Windows XP Home Edition/Professionalをお使いの場合は、コンピュータの管理者権限が必要です。

1. **パソコンの電源を入れ、**Windows**を起動する。**

2. **パソコン接続キット（別売り）に付属の**CD-ROM**を、パソコンの**CD-ROM**ドライブにセットする。**
   アプリケーションソフトが起動し、タイトル画面が表示されます。

3. **「**USB Driver**」をクリックする。**

   USBドライバのインストール画面が起動します。

4. **画面の指示に従って**USB**ドライバをインストールする。**

5. **画面の指示に従って、**CD-ROM**を取り出してからパソコンを再起動する。**

パソコンに本機を認識させる

パソコンでテープの画像を見る場合

パソコンで"メモリースティック"の画像を見る場合は、
165ページへ進んでください。

テープの画像を見るには、「PIXELA ImageMixer」がインストールされていることが必要です。パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMからインストールしてください。

Windows 2000 Professionalをお使いの場合、Power UsersまたはAdministratorの権限が必要です。Windows XP Home Edition/Professionalをお使いの場合、コンピュータの管理者権限が必要です。

1. **パソコンの電源を入れる。**
   パソコンを使用中の場合には、使用中のアプリケーションはすべて終了させてください。

2. **パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。**
   しばらくすると、タイトル画面が表示されます。
   タイトル画面が表示されないときは、「マイコンピュータ」をダブルクリックしたあと「ImageMixer」（CD-ROMドライブ）をダブルクリックしてしばらくすると表示されます。

3. **「PIXELA ImageMixer」をクリックする。**
   インストールウィザードプログラムが起動し、「設定言語の選択」画面が表示されます。

4. **インストール時の設定言語を選択する。**

5. **画面の指示に従って操作する。**
   インストールが終了すると、インストール画面が消えます。

次のページへつづく

❻ 「DirectX」をクリックする。

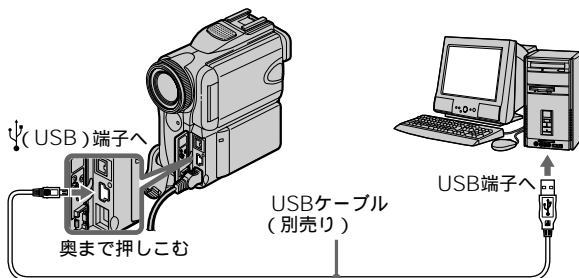
画面の指示に従って操作し、DirectXをインストールする。インストールが終了したら、パソコンを再起動してください。

❼ 本機にACパワーアダプターを接続する。

❽ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❾ メニューで[アイコン]の項目の「USBストリーム」を「入」にする。（189ページ）

❿ CD-ROMを入れた状態でパソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の[USBマーク]（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。

パソコンが本機を認識し、「ハードウェアの追加ウィザード」が起動します。

⓫ 「ハードウェアの追加ウィザード」画面の指示に従ってハードウェアを認識させる。

3種類のUSBドライバをインストールするため、「ハードウェア追加ウィザード」は3回起動します。
途中で中断せずに最後までインストールしてください。

Windows 2000 Professional、**または**Windows XP Home Edition/Professional**をお使いの場合：**

⑫ 「ファイルが必要」と表示されたら「参照...」→「マイコンピュータ」→「ImageMixer」→「Sonyhcb.sys」の順番で開き、「OK」をクリックする。

“メモリースティック”が入っていないと、インストールできません
必ず本機に“メモリースティック”を入れてください。

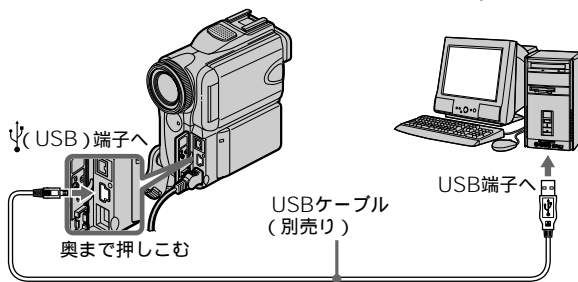
パソコンで“メモリースティック”の画像を見る場合

メニューの「USB接続」を「標準」にしてください。
（お買い上げ時は「標準」に設定されています。）

❶ 本機に“メモリースティック”を入れる。

❷ 本機にACパワーアダプターを接続して本機の電源スイッチを「メモリー」にする。

❸ パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の⇋(USB)端子とパソコンのUSB端子を接続する。

本機の液晶画面に「USB モード」と表示され、パソコンからの通信が始まります。パソコンが本機を認識し、Windowsのドライバをインストールします。

❹ 画面の指示に従ってハードウェアを認識させる。

2種類のUSBドライバをインストールするため、「ハードウェア追加ウィザード」は2回起動します。途中で中断せずに最後までインストールしてください。

USBドライバがインストールできない場合

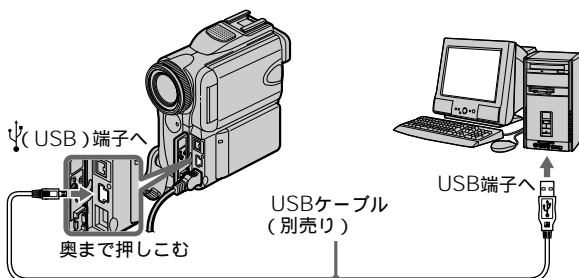
USBドライバのインストールが完了する前に本機とパソコンを接続したため、USBドライバが誤って登録されています。正しくインストールするためには、以下の手順を行ってください。

テープの画像を見ようとしたとき

手順1：誤って登録されたUSBドライバをアンインストールする

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

2 本機にACパワーアダプターを接続して本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の(USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。

4 パソコンの「デバイスマネージャ」を開く。

Windows XP Home Edition/Professionalをお使いの場合：

「スタート」→「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウェア」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする。
「コントロールパネル」をクリックし「作業する分野を選びます」の中に「システム」がない場合、「クラシック表示に切り替える」をクリックする。

Windows 2000 Professional をお使いの場合：

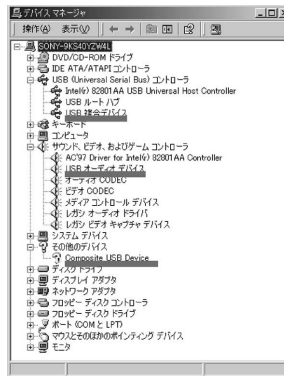
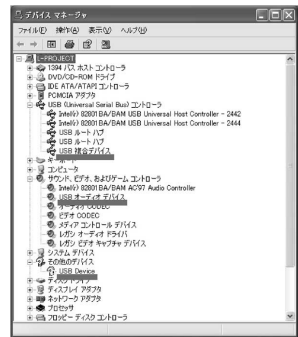
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウェア」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする。

Windows 98 SE、またはWindows Meをお使いの場合：

「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする。

5 下線で示したデバイスを選び削除する。

Windows 98 SE

Windows Me

Windows 2000 Professional

Windows XP Home Edition/ Professional

6 本機の電源を「切（充電）」にして、USBケーブルを抜く。

7 パソコンを再起動する。

手順2：パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMからUSBドライバをインストールする

162ページの「USBドライバをインストールする」の手順を行ってください。

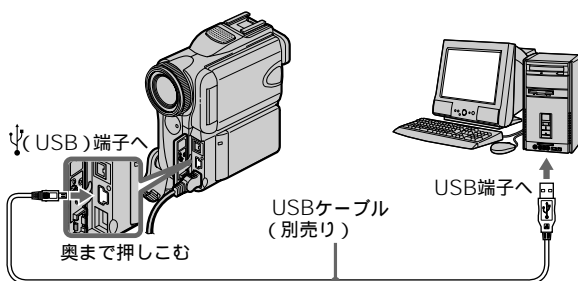
“ メモリースティック ”の画像を見ようとしたとき

手順1：誤って登録したUSBドライバをアンインストールする

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

2 本機に“ メモリースティック ”を入れる。

3 本機にACパワーアダプターを接続して本機の電源スイッチを「メモリー」にする。

4 パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の (USB) 端子とパソコンのUSB端子を接続する。

5 パソコンの「デバイスマネージャ」を開く。

Windows 2000 Professional**をお使いの場合**：

「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」→「ハードウエア」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする

上記OS以外：

「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「システム」の順で開き、「デバイスマネージャ」をクリックする

6 「その他のデバイス」を選択する。

（？）マークが付いた機器を選択して削除します

例：（？）Sony Handycam

7 本機の電源を切り、USBケーブルを抜く。

8 パソコンを再起動する。

手順2：パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMからUSBドライバをインストールする

162ページの「USBドライバをインストールする」の手順を行ってください。

パソコンでテープの画像を見る
－ Windowsをお使いの方へ

「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony」で画像を取りこむ

パソコンでテープの画像を見るには、USBドライバとPIXELA ImageMixerがインストールされていることが必要です（162ページ）。Windows 2000 Professionalをお使いの場合、Power UsersまたはAdministratorの権限が必要です。
Windows XP Home Edition/Professionalをお使いの場合、コンピュータの管理者権限が必要です。

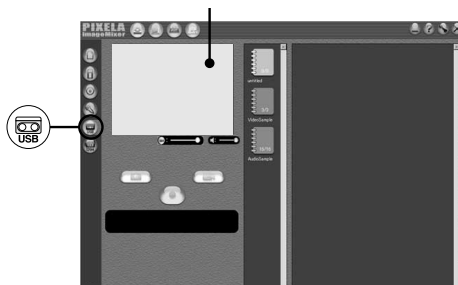
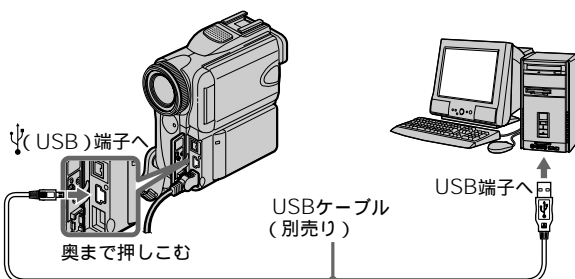
テープに記録された画像を見る

1. **パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。**
2. **本機にACパワーアダプターを接続し、カセットを入れる。**
3. **本機の電源スイッチを「ビデオ」にして、メニューで[アイコン]の項目の「USBストリーム」を「入」にする。（189ページ）**
4. **Windows上で「スタート」→「プログラム」→「PIXELA」→「ImageMixer」→「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony」の順に開く。**

   PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sonyが起動し、タイトル画面が表示されます。

次のページへつづく

❺ **画面一番左の をクリックする。**

❻ **をクリックする。**

❼ **パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで、本機の（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。**

ご注意

- 以下のことが起こる場合がありますが、故障ではありません。
  - ー画像が上下に揺れる。
  - ー画像によってはノイズが出るなど正しく表示されない。
  - ー本機とカラー方式が異なる画像が正しく表示されない。
- テープを入れた状態で撮影スタンバイ中が5分以上続くと、自動的に電源が切れます。
- テープが入っていない状態で撮影スタンバイ中のときは、メニューで「デモモード」を「切」にしておくことをおすすめします。
- 本機の画面表示は、パソコンには取りこまれません。

USB接続をしてもパソコンに画像が映らないときは
USBドライバのインストールが完了する前にUSBケーブルを接続すると、USBドライバが誤って登録されます。
166ページの手順に従って、もう一度インストールしてください。

不具合が生じたときは
起動しているすべてのアプリケーションを終了し、再起動してください。

以下の操作を行うときは、アプリケーションを終了してから行ってください：
– USBケーブルを抜く
– 本機の電源を切り換える、または「切（充電）」にする

8 本機の►II（再生/一時停止ボタン）を押して、テープの再生を始める。

パソコン上のプレビュー画面にテープの画像が表示されます。

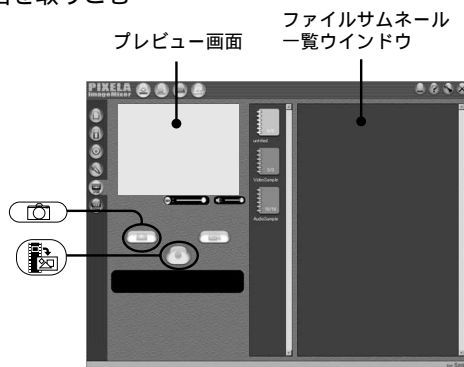
カメラに映っている画像を見る

1 169ページの手順1、2を行う。

2 本機の電源スイッチを「カメラ」にして、メニューでの項目の「USBストリーム」を「入」にする。（189ページ）

3 169、170ページの手順4から7を行う。

カメラに映っている画像がパソコンのプレビュー画面に表示されます。

静止画を取りこむ

1 をクリックする。

2 プレビュー画面を見ながら取りこみたい静止画のところで をクリックする。

静止画が取りこまれます。
取りこまれた画像は、ファイルサムネール一覧ウインドウに表示されます。

動画を取りこむ

❶ （ボタン）をクリックする。

❷ プレビュー画面を見ながら取りこみたい動画の最初の場面で（●）をクリックする。

（●）が（■）に変わります。

❸ プレビュー画面を見ながら取りこみたい場面の最後で（■）をクリックする。

画像が取りこまれます。

取りこまれた画像は、ファイルサムネール一覧ウインドウに表示されます。

「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony」のオンラインヘルプ（取扱説明）を使う

「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony」には、「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony」の詳しい操作方法を調べることができるオンラインヘルプが用意されています。

❶ 画面右上の?をクリックする。

オンラインヘルプ画面が表示されます。

❷ 知りたい内容について目次から調べる。

オンラインヘルプを閉じる

「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sonyヘルプ」画面右上の⊗をクリックします。

「PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony」に関するお問い合わせ

「ImageMixer Ver.1.0 for Sony」はピクセラ社製です。お問い合わせはピクセラ社までお願い致します。

詳しくは、別売りのパソコン接続キットに付属の取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使用するときのご注意

パソコンとの通信

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

パソコンで“メモリースティック”の画像を見る
－ Windowsをお使いの方へ

画像を見る

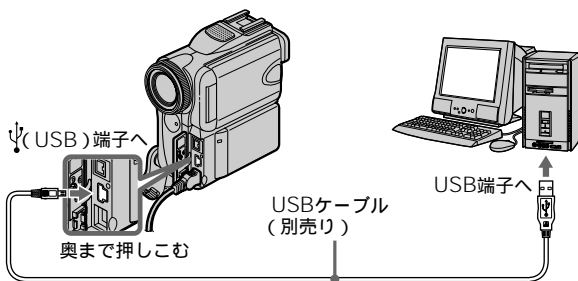
- パソコンで“メモリースティック”の画像を見るには、USBドライバのインストールが必要です（162ページ）。動画再生時には、Windows Media Playerなどの動画再生ソフトがインストールされていることが必要です。
- メニューの「USB接続」を「標準」にしてください。
（お買い上げ時は「標準」に設定されています。）

❶ **パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。**

❷ **本機に“メモリースティック”を入れ、ACパワーアダプターを接続する。**

❸ **本機の電源スイッチを「メモリー」にする。**

❹ **パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで本機の（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。**

本機の液晶画面に「USB モード」と表示されます。

❺ **Windows上で「マイコンピュータ」を開き、新しく認識されたドライブ（例：「リムーバブルディスク（E:）」）をダブルクリックする。**

“メモリースティック”内のフォルダが表示されます。

❻ 見たい画像ファイルをフォルダの中から選んで、ダブルクリックする。

詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名」をご覧ください。

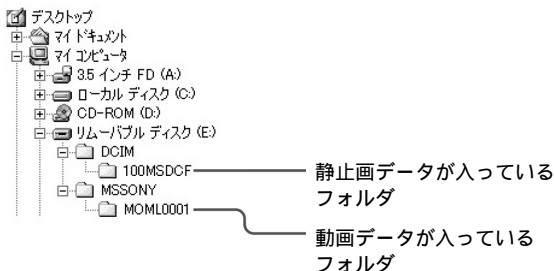
再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「Dcim」フォルダ→「100msdcf」フォルダ→画像ファイル
動画*	「Mssony」フォルダ→「Moml0001」フォルダ→画像ファイル*

* パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。“メモリースティック”から直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、撮影モードごとにフォルダにまとめられています。

ファイル名の意味は以下の通りです。□□□□には0001から9999までの数字が入ります。

Windows Meで見たときの例
（本機が認識されたドライブは（E:））

フォルダ名	ファイル名	意味
100MSDCF	DSC0□□□□.JPG	静止画ファイル
MOML0001	MOV0□□□□.MPG	動画ファイル

USBケーブルを抜く、“メモリースティック”を取り出す、または電源スイッチを切る

Windows 2000 Professional、Windows Me、Windows XP Home Edition/Professional**をお使いの方へ**

USBケーブルを抜く、“メモリースティック”を取り出す、または電源スイッチを切るには、以下の操作が必要です。

❶ **タスクトレイの中の「ハードウェアの取り外し」アイコンより該当するドライブを停止する。**

❷ **「安全に取り外すことができる」とメッセージが出てから、USBケーブルを抜く、“メモリースティック”を取り出す、または本機の電源スイッチを切る。**

USB端子でパソコンに接続する
− Macintoshをお使いの方へ

USB端子で本機をパソコンに接続するには

お手持ちのパソコンに**USBドライバのインストール**が必要です。USBドライバは、パソコン接続キット（DPCK-US20）（別売り）に付属しているCD-ROMに、画像を見るためのアプリケーションソフトとともに収録されています。

推奨Macintosh環境

Mac OS 8.5.1/8.6/9.0/9.1/9.2、Mac OS X（v10.0/v10.1）が工場出荷時にインストールされているMacintosh。ただしMac OS 8.6が工場出荷時にインストールされている“CD-ROMドライブがスロットローディング方式のiMac”、“iBook”、“Power Mac G4”はMac OS 9.0/9.1/9.2にアップグレードしてご使用ください。

USB端子が標準で装備されていることが必要です。

QuickTime 3.0以降がインストールされていること（動画再生時）が必要です。

ご注意

- 1台のパソコンで2つ以上のUSB接続をされる場合、またハブをご使用の場合は動作保証致しません。
- 同時に使われるUSB機器によっては動作致しません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作保証するものではありません。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeはApple Computer Inc.の商標です。
- その他本書で登場するシステム名、製品名は一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文ではTM、®マークは明記していません。

Mac OS 9.1/9.2/Mac OS X（v10.0/v10.1）は
USBドライバのインストールは必要ありません。
本機とパソコンをUSBケーブルで接続するだけで、ドライブとして認識します。

USBドライバをインストールする

USBドライバのインストールが完了するまでは、パソコンにUSBケーブルを接続しないでください。

Mac OS 8.5.1/8.6/9.0をお使いの場合

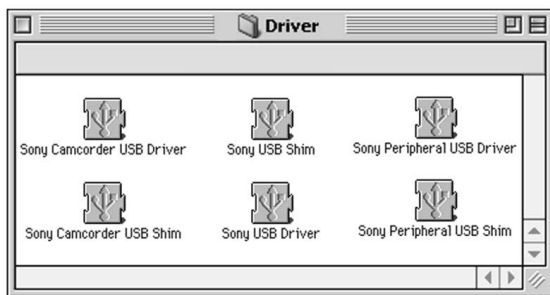
❶ パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動する。

次のページへつづく

❷ **パソコン接続キット（別売り）に付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。**

アプリケーションソフトの画面が起動します。

❸ **「USB Driver」のボタンをクリックする。**

6つのドライバファイルが入ったフォルダが開きます。

❹ **以下の2つのファイルを「システムフォルダ」のアイコンの上に、ドラッグ・アンド・ドロップする。**

- Sony Camcorder USB Driver
- Sony Camcorder USB Shim

❺ **「機能拡張フォルダに入れますか？」と表示されたら「OK」をクリックする。**

USBドライバがパソコンにインストールされます。

❻ **パソコンからCD-ROMを取り出す。**

❼ **パソコンを再起動する。**

パソコンで"メモリースティック"の画像を見る
− Macintoshをお使いの方へ

画像を見る

パソコンで"メモリースティック"の画像を見るには、USBドライバのインストールが必要です（177ページ）。動画再生時にはQuickTime 3.0以降がインストールされていることが必要です。

❶ **パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動する。**

❷ **本機に"メモリースティック"を入れ、ACパワーアダプターを接続する。**

❸ **本機の電源スイッチを「メモリー」にする。**

❹ **パソコン接続キット（別売り）に付属のUSBケーブルで本機の ψ（USB）端子とパソコンのUSB端子を接続する。**

本機の液晶画面に「USB モード」と表示されます。

❺ **デスクトップ上で新しく認識された"メモリースティック"のアイコンをダブルクリックする。**

"メモリースティック"内のフォルダが表示されます。

❻ **見たい画像ファイルをフォルダの中から選び、ダブルクリックする。**

再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「Dcim」フォルダ→「100msdcf」フォルダ→画像ファイル
動画*	「Mssony」フォルダ→「Moml0001」フォルダ→画像ファイル*

* パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。"メモリースティック"から直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。

Mac OS X（v10.0）をお使いの場合は
パソコンの電源を切ってからUSBケーブルを抜く、"メモリースティック"を取り出す、または本機の電源スイッチを切る。

USBケーブルを抜く、"メモリースティック"を取り出す、または電源スイッチを切る

USBケーブルを抜く、"メモリースティック"を取り出す、または電源スイッチを切るには以下の操作が必要です。

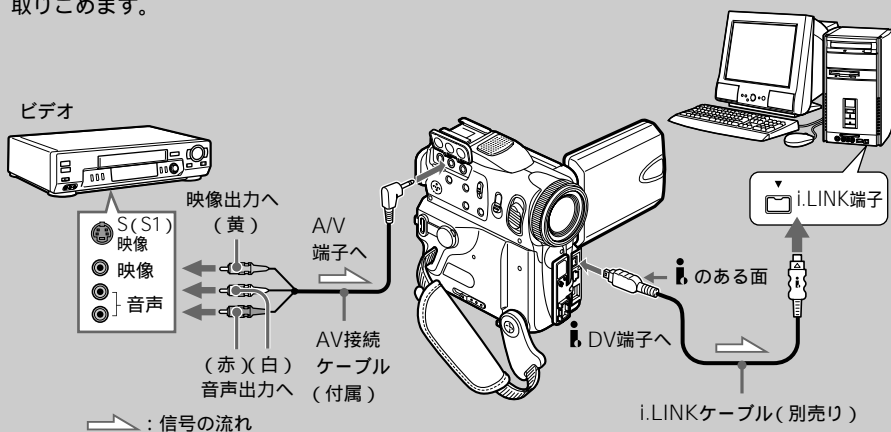
1 ソフトウェアを閉じる。

本機のアクセスランプが点灯していないことを確認してください。

2 "メモリースティック"アイコンを「ごみ箱」に捨てる。または、"メモリースティック"アイコンを選んだ状態にして、画面左上の「特別」メニューから「取り出し」を選択する。

3 USBケーブルを抜く、"メモリースティック"を取り出す、または本機の電源スイッチを切る。

アナログ機器とパソコンをつなげて使う
− デジタル変換機能

アナログ機器に録画した映像音声を本機を通じて、i.LINK端子を持つパソコンに接続して取りこめます。

ご注意

- ビデオ信号の取りこみや送り出しができるソフトウェアがパソコン側にインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機からのDV出力をパソコンに入力した場合、正しい映像を出力することができないことがあります。
- 著作権保護の為の信号（ID-2方式など）が記録されているソフトを再生して本機に入力し、本機から出力された信号を録画したり、パソコンで取りこむことはできません。
- AV接続ケーブル（付属）のかわりにS映像ケーブル（別売り）を使ってパソコンに取りこむことができます。

USB端子があるパソコンでは
USBケーブルを使って接続することができますが、映像がなめらかに映らないことがあります。

メニューの「画面表示」を「パネル」にしてください。
（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ１画面を出す。

❸ メニューで[VCR]の項目の「A/V入力→DV出力」を「入」にする。（185ページ）

❹ アナログビデオ機器で再生を始める。

❺ パソコンで取りこみを始める。

取りこむ操作は、お使いになるパソコンのソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いになるソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

取りこみが終わったら

パソコンで取りこみ動作を停止し、アナログビデオ機器の再生を停止する。

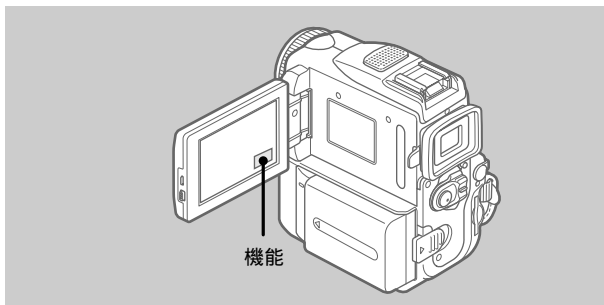
パソコンと接続する

メニューでお買い上げ時の設定を変える

画面上のメニュー項目を、「↓」/「↑」で選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。

次の順で選択します。
メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

メニュー項目は
以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

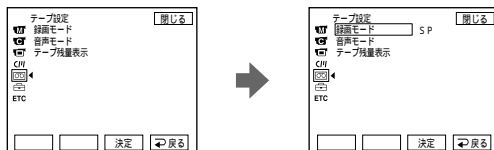
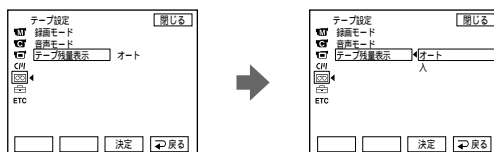
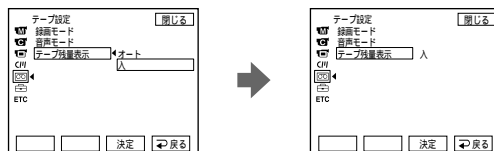
- マニュアル設定
- カメラ設定
- ビデオ設定
- パネル/VF設定
- メモリー設定
- プリント設定
- カセットメモリー設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

❶ 電源スイッチを「ビデオ」、「カメラ」または「メモリー」にしたとき
「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ **「メニュー」を押して、メニュー画面を出す。**

「ビデオ」のとき

撮影スタンバイ中のとき（「カメラ」のとき）

「メモリー」のとき

❸ **「↓」/「↑」を押して希望のアイコンを選び、「決定」を押す。**

❹ **「↓」/「↑」を押して希望の項目を選び、「決定」を押す。**

❺ **「↓」/「↑」を押して設定を変更して、「決定」を押す。**

❻ **必要なだけ手順3〜5を繰り返す。**

手順3に戻るには、「⮐戻る」を押す。

詳しくは「各設定項目の説明」（184ページ）をご覧ください。

機能画面に戻す

「閉じる」を押す。

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、その時使える項目のみ表示されます。

アイコン/項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（マニュアル設定）			
プログラムAE	—	被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行う。（49ページ）	「カメラ」「メモリー」
ピクチャーエフェクト	—	画像にテレビや映画のような特殊効果を加える。（46、62ページ）	「ビデオ」「カメラ」
フラッシュモード	●入	周囲の明るさにかかわらず発光する。	「カメラ」「メモリー」
	オート	フラッシュ（別売り）が自動的に発光する。	
	オート 👁	撮影前に予備発光し、目が赤く映ることを抑制する。	
フラッシュレベル	明るい	フラッシュ（別売り）の発光量を通常より多くする。	「カメラ」「メモリー」
	●ノーマル	通常の設定。	
	暗い	フラッシュ（別売り）の発光量を通常より少なくする。	
ホワイトバランス	—	ホワイトバランスを調整する。（42ページ）	「カメラ」「メモリー」
N.S.**ライト**	●入	NIGHTSHOTライトを使用する。（28ページ）	「カメラ」「メモリー」
	切	NIGHTSHOTライトを使用しない。	
オートシャッター	●入	明るいとき、自動的に電子シャッターが働く。	「カメラ」
	切	明るいときでも、自動的に電子シャッターが働かない。	
（カメラ設定）			
デジタルズーム	●切	デジタルズームが働かない。10倍までのズームが働く。	「カメラ」
	20×	ズームが10倍を超えると20倍までデジタルズームが働く。（24ページ）	
	120×	ズームが10倍を超えると120倍までデジタルズームが働く。	
フォト記録	●メモリースティック	電源スイッチをカメラにしたとき、フォトボタンを押すと"メモリースティック"に静止画を記録する。（38ページ）	「カメラ」
	テープ	電源スイッチをカメラにしたとき、フォトボタンを押すとテープフォト撮影する。（40ページ）	
ワイドTV	●切	ワイド録画モードにしない。	「カメラ」
	入	ワイド録画モードにする。（43ページ）	

フラッシュモード、フラッシュレベルは
別売りのフラッシュを取付けたときのみ使えます。

フラッシュレベルは
フラッシュレベルに対応していない外部フラッシュでは設定できません。

アイコン/項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（カメラ設定）			
手ぶれ補正	●入	手ぶれ補正が働く。	「カメラ」
	切	手ぶれ補正が働かない。三脚を使用するときに自然な画像になる。	
コマ撮り	●切	コマ撮り機能が働かない。	「カメラ」
	入	コマ撮り機能が働く。（59ページ）	
インターバル録画	入	インターバル録画機能が働く。（56ページ）	「カメラ」
	●切	インターバル録画機能が働かない。	
	設定	インターバル録画機能の「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。	
エディットサーチ	●切	液晶画面に「⊙/－」/「＋」を表示しない。	「カメラ」
	入	液晶画面に「⊙/－」/「＋」を表示する。（31ページ）	
（ビデオ設定）			
バイリンガル	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（203ページ）	「ビデオ」
	メイン	左音声または主音声で再生する。	
	サブ	右音声または副音声で再生する。	
音声ミックス	—	音声モードST1↔ST2間のバランスを調節する。（97ページ） ST1 ▲ ST2	「ビデオ」
A/V入力→DV出力	●切	本機を通してデジタルの画像音声をアナログ出力する。	「ビデオ」
	入	本機を通してアナログの画像音声をデジタル出力する。（181ページ）	

手ぶれ補正は

- 手ぶれ補正が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれ補正が効きにくくなります。

手ぶれ補正を解除すると

本機を左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示が出ます。

アイコン/項目		設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
(パネル/VF設定)				
パネルバックライト		●明るさノーマル	液晶画面のバックライトを標準の明るさにする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
		明るい	液晶画面のバックライトをより明るくする。	
パネル色のこさ		—	液晶画面の色のこさを「↓」/「↑」で調節する。 うすくなる ⇔ こくなる	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
VF**バックライト**		●明るさノーマル	ファインダーのバックライトを標準の明るさにする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
		明るい	ファインダーのバックライトをより明るくする。	
(メモリー設定)				
静止画設定				
	連写	●切	連写しない。	「メモリー」
		ノーマル	4～13枚までの画像を連写する。（117ページ）	
		ブラケット	露出を変えて3枚の画像を連写する。	
		マルチ画面	9連写して9分割の画面にする。	
	画質	●スーパーファイン	最も高画質で静止画を記録する。（111ページ）	「ビデオ」「メモリー」
		ファイン	高画質で静止画を記録する。	
		スタンダード	標準の画質で静止画を記録する。	
	画像サイズ	●1152×864	静止画を1152×864サイズで記録する。（112ページ）	「メモリー」
		640×480	静止画を640×480サイズで記録する。	

「パネルバックライト」、「VFバックライト」は
- 「明るい」を選ぶと撮影時のバッテリー使用時間が約１割短くなります。
- バッテリー以外の電源で使うときは自動的に「明るい」になります。

「パネルバックライト」、「パネル色のこさ」、「VFバックライト」は
調節しても記録される画像に変化はありません。

画質を選ぶと
画質に合った記録可能枚数が表示されます。

アイコン/項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
(メモリー設定)			
ムービー設定			
画像サイズ	●320×240	動画を320×240サイズで記録する。（112ページ）	「ビデオ」「メモリー」
	160×112	動画を160×112サイズで記録する。	
メモリー残量表示	●オート	以下の時にメモリー残量を表示する。 • 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にして、“メモリースティック”を入れた後、5秒間。 • 電源スイッチを「メモリー」にして、メモリー残量が1分未満になったとき。 • 動画記録を開始してから5秒間。 • 動画記録が終了してから5秒間。	「ビデオ」「メモリー」
	入	メモリー残量を常に表示する。	
スライドショー	—	スライドショーをする。（147ページ）	「メモリー」
オートフォトコピー	—	テープの静止画を“メモリースティック”にコピーする。（137ページ）	「ビデオ」
ファイルナンバー	●連番	“メモリースティック”を取り換えてもファイル番号を連続して付ける。	「ビデオ」「メモリー」
	リセット	“メモリースティック”ごとにファイル番号を0001から付ける。	
全消去	—	プロテクトのかかっていないすべての画像を消去する。（152ページ）	「メモリー」
フォーマット	●戻る	フォーマットを中止する。	「メモリー」
	フォーマット	本機に入れた“メモリースティック”をフォーマット（初期化）する。フォーマットすると“メモリースティック”の記録内容は消去されます。フォーマットする前に“メモリースティック”の内容を確認してください。 1「↓」/「↑」で「フォーマット」の項目を選び、「決定」を押す。 2「↓」/「↑」で「フォーマット」を選び、「決定」を押す。 3 画面に「フォーマットします」と表示されたら、「決定」を押す。「フォーマット中」の表示が点滅する。「完了」と表示されると終了。	

フォーマットについて

- 「フォーマット中」と表示されている間に以下の操作をしないでください。
  －電源スイッチを切り換える
  －ボタン操作
  －“メモリースティック”を抜く
- 付属または別売りの“メモリースティック”はお買い上げ時にフォーマット済みです。あらためてフォーマットする必要はありません。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると、フォーマットできません。
- 「メモリースティックフォーマットエラー」と表示された時は、フォーマットしてください。
- 付属の“メモリースティック”にあらかじめ記録してあるサンプル画像は消去されます。
- 画像にプロテクトをかけていても消去されます。

次のページへつづく

アイコン/項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（プリント設定）			
9**分割プリント**	●戻る	分割プリントを中止する。	「メモリー」
	同画面	同画面分割プリントを実行する。（155ページ）	
	異画面	異画面分割プリントを実行する。	
	プリントマーク付き	プリントマークを付けた画像を記録順に並べてプリントする。	
日付/時刻	●切	日付/時刻を入れずにプリントする。	「メモリー」
	年月日	年月日を入れてプリントする。（156ページ）	
	日時分	日時分を入れてプリントする。	
（カセットメモリー設定）			
タイトル	—	タイトルを入れたり、オリジナルタイトルを作る。（98、101ページ）	「ビデオ」「カメラ」
タイトル消去	—	タイトルを消去する。（100ページ）	「ビデオ」「カメラ」
タイトル表示	●入	タイトルを入れてあるところでタイトルを出す。	「ビデオ」
	切	タイトルを出さない。（98ページ）	
C**メモリーサーチ**	●入	サーチ時にカセットメモリーを使用する。（67、68、70ページ）	「ビデオ」
	切	サーチ時にカセットメモリーを使用しない。（69、71ページ）	
カセットラベル作成	—	カセットに名前を付ける。（104ページ）	「ビデオ」「カメラ」
全消去	—	カセットメモリーのデータをすべて消去する。（106ページ）	「ビデオ」「カメラ」

プリント設定は
別売りのプリンターを取り付けたときのみ使えます。

アイコン/項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
（テープ設定）			
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。	「ビデオ」「カメラ」
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。	
音声モード	●12BIT	12ビット（2つのステレオ音声）の記録ができる。	「ビデオ」「カメラ」
	16BIT	16ビット（高音質で1つのステレオ音声）の記録ができる。	
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • 電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にしてテープを入れた後、テープ残量が確定してから8秒間。 • 電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にして、画面表示/タッチパネルボタンを押してから8秒間。 • ►II（再生ボタン）を押してから8秒間。	「ビデオ」「カメラ」
	入	テープ残量を常に表示する。	
（初期設定）			
日時あわせ	—	日付・時刻を合わせる。（15ページ）	「カメラ」「メモリー」
USB**ストリーム**	●切	USBストリーミング機能を使用しない。	「ビデオ」「カメラ」
	入	USBストリーミング機能を使用する。	
USB**接続**	●標準	“メモリースティック”がドライブとして認識される接続	「メモリー」
	PTP	本機からパソコンに“メモリースティック”の画像コピーのみ行う接続（Windows XP Home Edition/Professionl、またはMac OS Xのみで使えます） 1「↓」/「↑」で「USB接続」を選び、「決定」を押す。 2「↓」/「↑」で「PTP」を選び、「決定」を押す。 3 本機に“メモリースティック”を入れて、USBケーブルで本機とパソコンを接続する。 コピーウィザードが自動的に起動します。	
デモモード	●入	本機の機能を一覧できる。	「カメラ」
	切	デモンストレーションを表示しない。	

LP**モードについて**

- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のMaster（マスター）DVテープをおすすめします。
- アフレコしたいときはSPモードで録画してください。LPモードで録画したテープにはアフレコできません。
- テープの途中で、SP/LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

音声モードを「16BIT」にすると
アフレコできません。

音声モードが16ビットで記録されたテープでは
音声ミックスのバランス調節をすることができません。

デモモードについて

- カセットまたは“メモリースティック”が入った状態では操作できません。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしていると、“NIGHTSHOT”が表示され、デモンストレーションは始まりません。また、メニューでも「デモモード」が選べません。
- デモンストレーション中にタッチパネルを押すと、デモンストレーションが中断され、スタンバイ状態になります。10分後に再びデモンストレーションが始まります。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。カセットまたは“メモリースティック”を入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。再び「スタンバイ」にするにはメニューで「入」にしたまま電源スイッチをいったん「切（充電）」にし、「カメラ」に戻します。

次のページへつづく

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

アイコン/項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
ETC（その他）			
データコード（リモコン操作時）	●日付/カメラデータ	リモコンのデータコードボタンを押したとき、日付・時刻またはカメラデータを表示する。（34ページ）	「ビデオ」「メモリー」
	日付データ	リモコンのデータコードボタンを押したとき、日付・時刻を表示する。	
時差補正	—	時差の設定をする。「↓」/「↑」を押して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。	「カメラ」「メモリー」
おしらせブザー	●メロディー	撮影スタート/ストップ時や、誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ノーマル	メロディーのかわりにブザーが鳴る。	
	切	メロディー、ブザー、シャッター音が鳴らない。	
リモコン	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。	
画面表示	●パネル	タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	ビデオ出力/パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	「カメラ」「メモリー」
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。被写体に撮影していることを意識させずに撮影できる。	
プログラムエディット	●戻る	プログラムエディットを中止する。	「ビデオ」
	他機のテープへ	プログラムを作成し、他機のテープへダビングする。（75ページ）	
	メモリースティックへ	プログラムを作成し、“ メモリースティック ”へダビングする。（132ページ）	

ご注意

「画面表示」が「ビデオ出力/パネル」のとき画面表示/タッチパネルボタンを押すと、外部入力ができなくなります。

被写体に接近して撮るとき
「録画ランプ」が「入」になっていると録画ランプの赤色が被写体に反射して映ることがあります。その場合は、「録画ランプ」を「切」にすることをおすすめします。

電源をはずして5分以上たつと
「プログラムAE」、「フラッシュレベル」、「ホワイトバランス」、「バイリンガル」、「音声ミックス」、「リモコン」はお買い上げ時の設定に戻ります。
その他のメニュー項目は電源をはずしても設定を保持します。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面やファインダーに「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。199ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート/ストップボタンを押してもテープが走行しない。	•電源スイッチが「カメラ」になっていない。	•「カメラ」にする。	21
	•テープが終わりになっている。	•巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	17、36
	•カセットが誤消去防止状態になっている。	•誤消去防止ツマミを元に戻す。または新しいカセットを入れる。	17
	•テープがヘッドドラムに貼り付いている (結露)。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れなおす。	207
電源が途中で切れる。	•撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	•電源スイッチを「切(充電)」にしてから、もう一度「カメラ」にする。	—
	•バッテリーが消耗している。	•満充電されたバッテリーを取り付ける。	—
電源スイッチを「カメラ」にしたとき"メモリースティック"に静止画を撮ることができない	メニューの「フォト記録」が「テープ」になっている。	「メモリースティック」にする。	184
テープフォト撮影ができない	メニューの「フォト記録」が「メモリースティック」になっている。	「テープ」にする。	184
ファインダーの画像がはっきりしない。	•ファインダーを縮めたままにしている。	•ファインダーをのばす。	23
	•視度調節が正しくない。	•視度調節する。	23
手ぶれ補正が働かない。	メニューの「手ぶれ補正」が「切」になっている。	「入」にする。	185
オートフォーカスが働かない。	•手動ピント合わせになっている。	•フォーカスボタンを押し、自動調節にする。	54
	•オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	•手動でピントを合わせて撮影する。	54

故障かな？と思ったら（つづき）

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ファインダーの画像が消えている。	液晶画面が開いている。	液晶画面を使って撮影しないときは液晶画面を閉じる。	22
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミア現象といい、故障ではありません。	ー	ー
画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある。	スローシャッターやSUPER NIGHTSHOT、COLOR SLOW SHUTTERのときに出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
液晶画面またはファインダーに見慣れぬ画面が現れる。	カセットまたは" メモリースティック "を入れずに電源を「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	カセットまたは" メモリースティック "を入れるか液晶画面のどこかを押すとデモンストレーションが中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	189
画像の色が正しくない。	NIGHTSHOTが「入」になっている。	「切」にする。	27
画面が白すぎて画像が見えない。	•明るいところでNIGHTSHOTを「入」にしている。 •逆光補正が働いている。	•「切」にする。 •解除する。	27 26
シャッター音が出ない。	メニューの「お知らせブザー」が「切」になっている。	「お知らせブザー」を「メロディー」または「ノーマル」にする。	190
テレビやコンピューターの画面を撮影すると黒い帯が出る。	ー	メニューの「手ぶれ補正」を「切」にする。	185
別売りのフラッシュが発光しない	•電源が入っていない。または、取り付けられていない。 •別売りのフラッシュを2つ以上取り付けている。	•電源を入れる。または、取り付ける。 •別売りのフラッシュは1つしか取り付けられません。	ー ー

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
再生できない。	テープが終わりになっている。	テープを巻き戻す。	32
画像に横線が入る。またはぼけたり映らなかったりする。	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	207
音声が小さい。または聞こえない。	•メニューの「バイリンガル」を「サブ」にしてステレオで記録されたテープを再生している。 •音量を最小にしている。 •メニューの「音声ミックス」が「ST2」側になっている。	•「バイリンガル」を「切」にする。 •音量を大きくする。 •「音声ミックス」を調節する。	185 33 185
撮影日を画面に出して日付サーチできない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。 •テープの始めや途中に無記録部分がある。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •「入」にする。 —	68 188 68
タイトルサーチできない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •メニューの「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。 •タイトルが入っていない。 •テープの始めや途中に無記録部分がある。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •「入」にする。 •タイトルを入れる。 —	67 188 98 67
アフレコした音声が聞こえない。	メニューの「音声ミックス」が「ST1」側になっている。	「音声ミックス」を調節する。	185
タイトルが出ない。	メニューの「タイトル表示」が「切」になっている。	「入」にする。	188

次のページへつづく

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチを「ビデオ」、「カメラ」または「メモリー」にしても動作しない。	•バッテリーが消耗している、消耗が近い、または取り付けられていない。 •ACパワーアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	•充電されたバッテリーを取り付ける。 •コンセントに差し込む。	10、11 14
エンドサーチが働かない。	•カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出した。 •カセットを入れてからエンドサーチ操作をするまでに、１度も撮影していない。	ー ー	30 30
エンドサーチが誤動作する。	テープの始めや途中に無記録部分がある。	ー	30
バッテリーの消耗が早い。	•周囲の温度が極端に低い。 •充電が不充分。 •バッテリーそのものの寿命。	ー •満充電する。 •新しいバッテリーに交換する。	ー 11 10
バッテリー残量が正しくない。	•温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 •バッテリーそのものの寿命。 •バッテリーが消耗している。 •残量表示にズレが生じた。	ー •新しいバッテリーに交換する。 •満充電されたバッテリーを取り付ける。 •満充電すると残量が正しく表示される。	ー 10 10、11 11
バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。	残量表示にズレが生じた。	満充電すると残量が正しく表示される。	11
カセットが取り出せない。	•電源（バッテリーやACパワーアダプター）がはずれている。 •バッテリーが消耗している。	•電源をきちんと接続する。 •満充電されたバッテリーを取り付ける。	10、14 10、11
💧や⏏が点滅し、カセット取出しつまみ以外働かない。	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れなおす。	207
カセットメモリー付きのカセットを使用しているのにカセットメモリー表示が出ない。	カセットの金メッキ端子が汚れている。または、ゴミが付着している。	金メッキ端子をクリーニングする。	203
テープ残量表示が出ない。	メニューの「テープ残量表示」が「オート」になっている。	常にテープ残量を出したいときは「テープ残量表示」を「入」にする。	189

“ メモリースティック ”操作中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
操作を受け付けない。	•電源スイッチが「メモリー」になっていない。 •“ メモリースティック ”が入っていない。	•「メモリー」にする。 •“ メモリースティック ”を入れる。	116 108
撮影ができない。	•すでにメモリー容量いっぱいに撮影している。 •フォーマット形式の異なる“ メモリースティック ”を入れた。 •“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•不要な画像を消去してから撮影する。 •本機でフォーマットするか、別の“ メモリースティック ”を入れる。 •「LOCK」を解除する。	150 108、187 107
画像を消去できない。	•プロテクトされている。 •“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•プロテクトを解除する。 •「LOCK」を解除する。	149 107
フォーマットが実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	107
全消去が実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	107
プロテクトが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 •インデックス表示になっていない。	•「LOCK」を解除する。 •インデックス表示にしてプロテクトを実行する。	107 149
プリントマークが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 •インデックス表示になっていない。 •動画にプリントマークを付けようとしている。	•「LOCK」を解除する。 •インデックス表示にしてプリントマークを付ける。 •動画にプリントマークを付けることはできません。	107 154 —
オートフォトコピーが実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	107
正しい画像サイズで再生できない	他機で撮影した画像を再生しようとすると画像サイズが正しく表示されないことがありますが、故障ではありません。	—	—
画像データが再生できない。	•パソコンなどで加工した画像は再生できない場合があります。（ファイル名が点滅します。） •他機で撮影した画像は再生できない場合があります。	—	—

次のページへつづく

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
タイトルを入れられない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •カセットのメモリー容量がいっぱいになっている。 •カセットが誤消去防止状態になっている。 •無記録部分にタイトルを入れようとしている。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •不要なタイトルを消去する。 •誤消去防止ツマミを元に戻す。 •録画された部分にタイトルを入れる。	98 100 17 98
カセットにラベルを付けられない。	•カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 •カセットのメモリー容量がいっぱいになっている。 •カセットが誤消去防止状態になっている。	•カセットメモリー付きカセットを使う。 •不要なデータを消去する。 •誤消去防止ツマミを元に戻す。	104 100 17
他機のテープへのデジタルプログラムエディットが働かない。	•録画機側の入力切換ができていない。 •ソニー以外のDV機器とi.LINKケーブルを使用して接続している。 •無記録部分にプログラム設定しようとしている。 •本機と録画機のタイミングが合わない。 •リモコンコードが違う。	•接続を確認して録画機側の入力切換スイッチを設定しなおす。 •操作を「リモコン」にする。 •録画された部分に設定しなおす。 •タイミング補正をする。 •正しいリモコンコードを設定する。	76 80 84 82 76
“メモリースティック”へのデジタルプログラムエディットが働かない。	無記録部分にプログラムを設定しようとしている。	録画された部分に設定しなおす。	132
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	•メニューの「リモコン」を「切」にしている。 •リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。 •リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。 •乾電池そのものの寿命。	•「入」にする。 •障害物を取り除く。 •⊕極と⊖極を正しく入れる。 •新しい乾電池に交換する。	190 ー 216 216
外部入力しているのに液晶画面やファインダーに画像が映らない。	メニューの「画面表示」が「ビデオ出力/パネル」になっている。	「パネル」にする。	190

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
おしらせブザーが5秒間鳴りつづける。	•結露している。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れなおす。	207
	•本機に異常が発生している。	•カセットを入れなおし、再度操作しなおす。	ー
電源が入っているのに操作できない。	—	バッテリーまたはACパワーアダプターのDKケーブルを取りはずし、約1分後再びバッテリーまたはACパワーアダプターのDKケーブルを取り付け電源を入れる。それでも操作できないときは、RESET（リセット）ボタンを先の尖ったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	10、14、215
電源スイッチを「ビデオ」または「切（充電）」にして本機を動かすと、本体内部で「カタカタ」という音がする。	本機の機能の一部にリニア機構を採用しているためです。故障ではありません。	ー	ー
バッテリーを充電中、CHARGE（充電）ランプが点灯していない。	•充電が完了している。	ー	ー
	•バッテリーが正しく取り付けられていない。	•正しく取り付ける。	10
バッテリーを充電できない。	本機の電源スイッチが「切（充電）」になっていない。	「切（充電）」にする。	11
バッテリーを充電中にCHARGE（充電）ランプが点滅する。	•バッテリーが正しく取り付けられていない。	•正しく取り付ける	10
	•バッテリーが故障している。	•テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。	ー
タッチパネルのボタンが表示されない。	画面表示/タッチパネルボタンを押した。	•液晶画面を軽く押す。	ー
		•本機の画面表示/タッチパネルボタンまたはリモコンの画面表示ボタンを押す。	34

その他

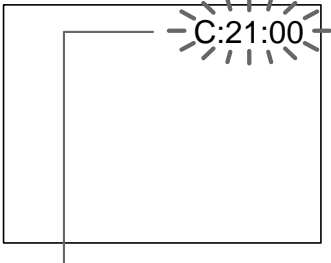
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
タッチパネルのボタンが働かない。	—	画面を調節（キャリブレーション）する。	209
ファインダー内の文字が反転する。	対面撮影時におこる現象で、故障ではありません。（出力したモニターでも反転しますが故障ではありません。）	ー	25
USB**接続が認識できない。**	•USBドライバのインストールが完了する前にUSBケーブルを接続した。	•正しく認識されなかったドライバを削除してから、USBドライバをインストールする。	162、166
	•電源スイッチが「メモリー」のとき、メニューの「USB接続」が「PTP」になっている。	•「標準」にする。	189
カセットぶたを開けてもテープが出てこない。	本機が結露しかけている。	ー	207

自己診断表示 – アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、液晶画面またはファインダーにアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

液晶画面またはファインダー

自己診断表示
「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態
「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせしていただく状態

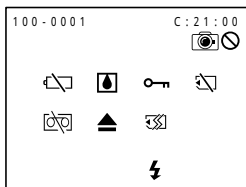
表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーをご使用ください。	12、204
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れなおす。	207
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	207
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	• カセットを入れなおし、再度操作しなおす。 • 電源を一度取りはずし、取りつけなおしてから再度操作しなおす。	ー ー
E:20:□□ E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	ー

お客様自身で対応できる場合でも、二、三度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

警告表示とお知らせメッセージ

液晶画面またはファインダーには、次のような表示が出ます。

詳しい説明は、（　）内のページにあります。

警告表示

100−0001 ファイル関連の警告
遅い点滅
- ファイルが壊れている
- 扱えないファイル
- 動画ファイルをメモリーミックスしようとした（124ページ）

C:21:00 自己診断表示（199ページ）

バッテリー残量に関する警告
遅い点滅
- バッテリー残量が少ない
使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5分から10分でも警告表示が点滅することがあります。

結露の警告*
速い点滅
- テープが結露している
テープを取り出し、電源をはずしてカセット入れを開けたまま約1時間放置する（207ページ）

“メモリースティック”関連の警告*
遅い点滅
- “メモリースティック”が入っていない

速い点滅
- 認識できない“メモリースティック”が入っている（107ページ）
- 取り込めない画像を記録しようとした

“メモリースティック”フォーマット関連の警告*
速い点滅
- “メモリースティック”が壊れている（107ページ）
- “メモリースティック”が正しくフォーマットされていない（187ページ）

テープ関連の警告
遅い点滅
- テープ残量が5分を切った
- テープが入っていない*
- テープが誤消去防止状態になっている*（17ページ）

速い点滅
- テープが終わっている*

テープを取り出す必要がある警告*
遅い点滅
- テープが誤消去防止状態になっている（17ページ）

速い点滅
- 結露している（207ページ）
- テープが終わっている
- 自己診断表示が出ている（199ページ）

画像プロテクトの警告*
遅い点滅
- 画像が消去できないようになっている（149ページ）

フラッシュ（別売り）関連の警告
遅い点滅
- 充電中*

速い点滅
- 別売りのフラッシュに異常がある

静止画記録関連の警告
遅い点滅
- テープや“メモリースティック”に静止画を記録できない状態になっている

* 警告表示/お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

お知らせメッセージ

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが出ます。
メッセージにしたがって操作してください。

- バッテリーを取りかえてください（10ページ）
- このバッテリーは古くなりました　取りかえてください（10ページ）
- “インフォリチウム”バッテリーをつかってください（12ページ）
- テープが終わっています*
- カセットを入れてください*
- カセットの誤消去防止ツマミを確認してください*（17ページ）
- メニューで日付　時刻をあわせてください（15ページ）
- ヘッドが汚れています/ クリーニングカセットをつかってください（207ページ）
- 結露しています　カセットを取りだしてください*（207ページ）
（テープが入っていないとき、メッセージは「結露しています」になります。）
- ダビングプロテクトされています　録画できません*（202ページ）
- 音声モードがちがいます　確認してください*（189ページ）
- 録画モードがちがいます　確認してください*（189ページ）
- テープを確認してください*（94ページ）
- “i. LINK”ケーブルをぬいてください*（94ページ）
- カセットメモリー付きカセットに入れかえてください*
- カセットメモリーがいっぱいです*（99ページ）
- メモリースティックを確認してください*
- メモリーフル（138ページ）
- メモリースティック音声エラー*（130ページ）
- メモリースティックのメモリーがいっぱいです*（119ページ）
- メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください*（107ページ）
- ファイルがありません*
- メモリースティックを入れてください*
- メモリースティック エラー*（108ページ）
- メモリースティック再生エラー*
- メモリースティック記録エラー*
- フォーマット中です*
- 全消去中です*
- メモリースティック フォーマットエラー*（121、187ページ）
- メモリースティック ディレクトリエラー*（139ページ）
- プリントマークが付いていません　確認してください*（155ページ）
- 静止画ファイルがありません*
- 充電中です*

* 警告表示/お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

ビデオカセットについて

使えるビデオカセット

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。本機には、ミニDVカセットのみ使えます。Mini DVマークのついたカセットをお使いください。*

8、Hi8方式や、VHS、VHS C、S VHS、S VHS C、β、ED Beta、DV、D8、MICROMV方式のビデオカセットは使えません。

* ミニDVカセットには、カセットメモリー付きのものと、カセットメモリーなしのものがあります。カセットメモリー付きカセットにはCM（Cassette Memory）マークが付いています。本機ではカセットメモリー付きのものを推奨しています。

カセットメモリー付きのカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して、画像情報（録画日時、タイトルなど）を書き込んだり、呼び出したりします。
カセットメモリー機能は、テープ上に記録された信号を基準にして動作します。テープの始めや途中に一度無記録部分を作ると、信号が不連続になり、タイトルが間違って表示されたり、サーチが誤動作することがあります。無記録部分を作らないために、下記の操作を行ってください。

撮影の途中でテープを出し入れしたり、テープを再生したり、またはエディットサーチを使った場合には、次の撮影の前にエンドサーチボタンを押し、撮影終了位置に戻す。

無記録部があったり、テープ上の信号が不連続なものは、左記の点に注意して新たにテープの最初から最後まで撮影すれば、カセットメモリー機能を正しくお使いいただけます。
カセットメモリー機能付きデジタルビデオカメラレコーダーで録画したテープの上に、機能なしカメラレコーダーで録画したときも同じ症状が出ることがあります。

著作権保護信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。
このような映像音声を記録しようとすると液晶画面またはファインダーに「ダビングプロテクトされています 録画できません」の表示が現れます。

なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

カセットのCM 4K マークについて
この表示は、このカセットで4キロビットまでメモリーができることを示します。なお、本機は16キロビットのカセット（CM 16K マークが本体正面についています）まで対応しています。

これらは商標です。

Mini DV Digital Video Cassette
ミニDVカセットのマークです。

CM Cassette Memory
カセットメモリーのマークです。

音声多重記録テープを再生するとき

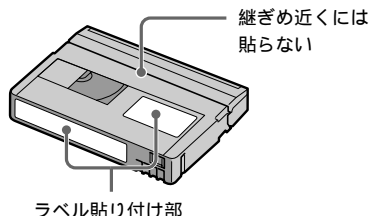
ステレオ音声で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。（185ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

本機では二重音声は記録できません。

カセットについてのご注意

ラベルは指定の位置に

カセットにラベルを貼るときは、指定の位置に正しくお貼りください。故障の原因になります。

カセットの使用後は

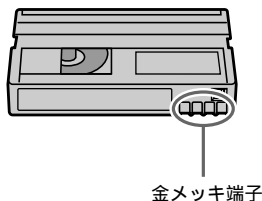
ご使用後は必ずテープを巻き戻してください。（画像や音声が乱れる原因となります。）巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

カセットメモリー機能が働かないときは

カセットを入れなおしてください。金メッキ端子にゴミなどが付着して機能が働かないことがあります。

金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されなかったり、カセットメモリーを使う機能などが正しく働かないことがあります。

カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。別売りのACアダプター/チャージャーを使用すると、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機をご使用になる前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10～30℃の範囲で、CHARGE（充電）ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率のよい充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACパワーアダプターを本機のDC IN端子から抜くかバッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使い方

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。安心してより長い時間ご使用いただくために、次のことをおすすめします。
  - バッテリーをポケットなどに入れて暖かくしておき、撮影の直前、本機に取りつける。
  - 高容量バッテリー「NP-FM70/QM70/QM71/FM90/FM91/QM91（別売り）」を使用する。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。高容量バッテリー「NP-FM70/QM70/QM71/FM90/FM91/QM91（別売り）」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影または再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安としてお使いください。
- バッテリー残量時間が約5～10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、カセットを入れずに電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV入力/出力端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については74、90ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV端子）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。

接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を合わせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

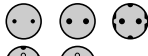
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください。

4ピン←　→4ピン（DVダビング時）

i.LINK、i.は商標です。

海外で使う

本機は海外でもお使いになれます

付属のACパワーアダプター**AC-L10は、全世界の電源（AC100V〜240V・50/60Hz）でお使いいただけます。**

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、**電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。**

電子式変圧器（トラベルコンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米など	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	**不要です。** ACパワーアダプターのプラグを直接差し込みます。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- ガイアナ
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

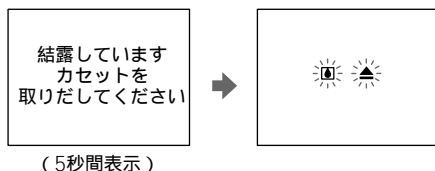
時差補正機能について

海外でお使いになるときはメニューで「時差補正」を選ぶと、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは190ページをご覧ください。

お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

（5秒間表示）

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、開く/⏏カセット取出しつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットぶたを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても結露表示または⏏が点滅しなければ使用できます。

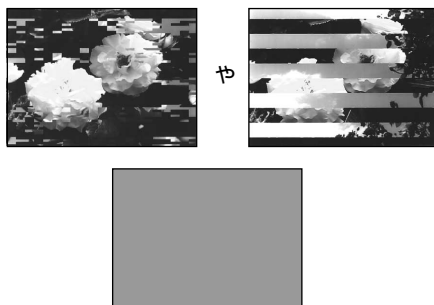
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットぶたを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。カセットが出てくるまでカセットぶたを閉めないでください。

ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。
次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM-12CLDを10秒間使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- 録画中に「⊗ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

ビデオヘッドがさらに汚れると青一色の画面になります。このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ちこんだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、付属のクリーニングクロスを使ってきれいにすることをおすすめします。

別売りの液晶クリーニングキットを使用するときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませてご使用ください。

レンズのお手入れおよび保管について

- レンズ面に指紋などがついたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使用したときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良いゴミやほこりの少ない場所に保管してください。

カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行なってください。またビデオカメラレコーダーを良好な状態で長期にわたってご使用いただくためにも、月に1回程度、ビデオカメラレコーダーの電源を入れて操作することをおすすめします。

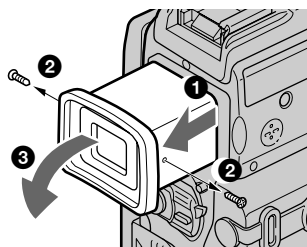
内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3ヶ月近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

本機を付属のACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切（充電）」にして24時間以上放置する。

ファインダーをきれいにする

❶ 1. **ファインダーをのばす。**
2. **両側のねじを2本はずす。**
3. **アイカップをはずす。**

アイカップの軸を落としたり、曲げたり、ケガをしないようにご注意ください。

❷ **アイカップの内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。**

❸ **❶と逆の手順でアイカップを取り付ける。**

画面調節(キャリブレーション)について

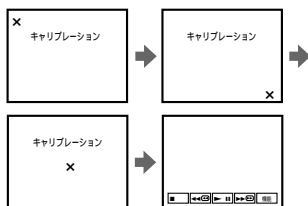
タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンにずれが生じることがあります。このような症状になったときは、次の操作を行ってください。

❶ **電源スイッチを「切（充電)」にする。**

❷ **テープを取り出して、接続ケーブル類をはずす。**

❸ **本体の画面表示/タッチパネルボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。その後約5秒間画面表示/タッチパネルボタンを押し続ける。**

❹ **“ メモリースティック ”の角などを使って**

1. **画面左上の×マークを押す。**
2. **画面右下の×マークを押す。**
3. **画面中央の×マークを押す。**

正しい位置を押さなかった場合、左上からやりなおしになります。

その他

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DVマークのついたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	バッテリー使用時： 約2分30秒（DVM60使用時） ACパワーアダプター 使用時： 約1分45秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	3.8mm（1/4.7型）CCD固体撮像素子 総画素数：約107万画素 静止画時有効画素数：約100万画素 動画時有効画素数：約69万画素
ズームレンズ	カール ツァイス 10倍（光学）、120倍（デジタル） f=3.7～37mm （35mmカメラ換算では 「カメラ」時：50～500mm 「メモリー」時：42～420mm） F1.8～2.0 フィルター径30mm
色温度切り換え	オート、 ホールド、 屋内（3 200K）、 屋外（5 800K）
最低被写体照度	15 lx（ルクス）（F1.8） 0 lx（ルクス）（NIGHTSHOT時）

入・出力端子

S1映像端子	入力/出力自動切り換え Y出力　1Vp-p 75Ω不平衡、同期負 C出力　0.286Vp-p 75Ω不平衡
A/V（映像/音声）端子	AVミニジャック 入力/出力自動切り換え 映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負 音声：327mV（47 kΩ負荷時）、出力インピーダンス2.2 kΩ 入力インピーダンス47 kΩ以上
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
USB端子	mini-B
LANC端子	ステレオミニミニジャック（Ø2.5）
MIC（マイク）入力端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
DV端子	i.LINK（IEEE1394.　4ピンコネクターS100）

液晶画面

画面サイズ	6.2cm（2.5型）
総ドット数	211 200ドット 横960×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力（バッテリー使用時）	3.3W （ファインダー使用時、明るさ標準） 4.0W （液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	–20℃～+60℃
外形寸法（最大突起部を除く）	55×105×99mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約 480g（本体のみ）
撮影時総質量*	約 580g * バッテリーNP-FM50、テープ（DVM60）、レンズキャップ含む。
付属品	レンズキャップ（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3形乾電池（リモコン用）（2） AV接続ケーブル（1） バッテリー端子カバー（1） クリーニングクロス（1） 取扱説明書（1） 安全のために（1） 保証書（1） デジタルイメージングカスタマーご登録のお勧め（1） “ メモリースティック ”（8MB）（1） ACパワーアダプター AC-L10（1） 電源コード（1） バッテリーパック NP-FM50（1）

ACパワーアダプター　AC-L10

電源	AC100～240 V、50/60 Hz
消費電力	23W
定格出力	DC8.4 V、1.5 A
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	–20℃～+60℃
外形寸法	約125 × 39 × 62 mm
（最大突起部をのぞく）	（幅 × 高さ × 奥行き）
質量	約280 g（本体のみ）

バッテリーパック　NP-FM50

最大電圧	DC8.4 V
公称電圧	DC7.2 V
容量	8.5 wh（1180 mAh）
最大外形寸法	約38.2 × 20.5 × 55.6 mm （幅 × 高さ × 奥行き）
質量	約76 g
使用温度	0℃～+40℃
使用電池	Li-ion

“ メモリースティック ”

メモリーの種類	フラッシュメモリー 8Mバイト　MSA-8A
動作電圧	2.7 V～3.6 V
消費電流	動作時平均：約45 mA スタンバイ時：約130μA
外形寸法	約50 × 2.8 × 21.5 mm （幅 × 高さ × 奥行き）
本体質量	約4 g

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）にお問い合わせください。

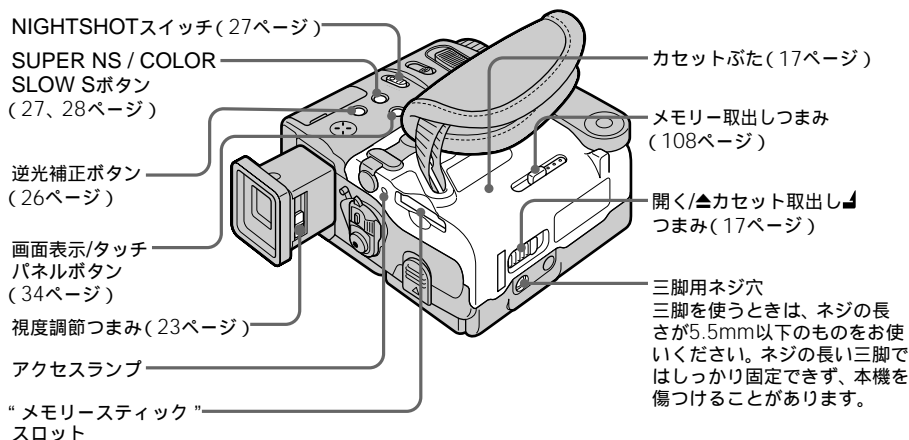
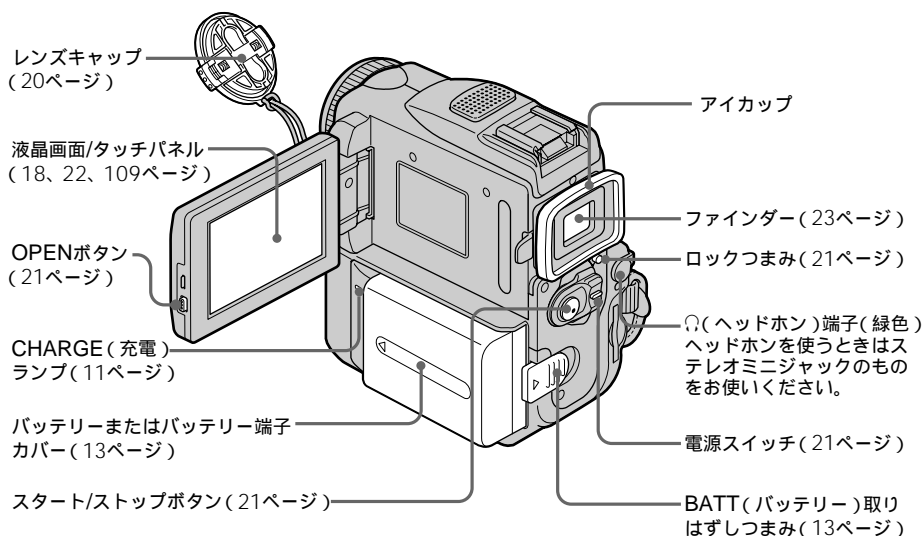
保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

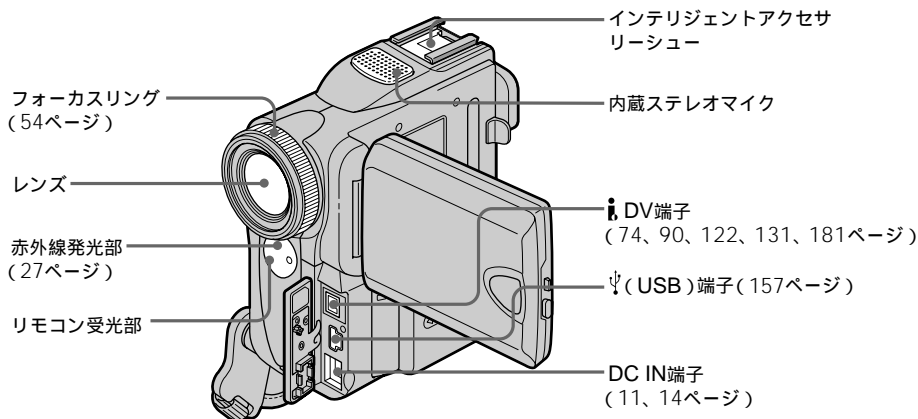
各部の名前

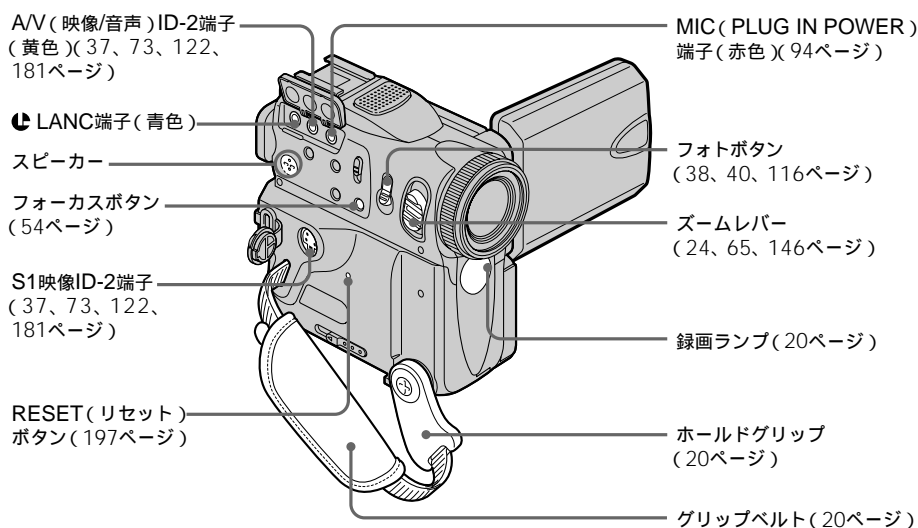
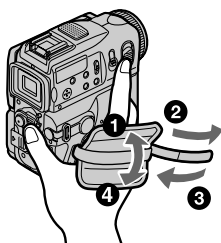
使いかたの説明は、(　)内のページにあります。

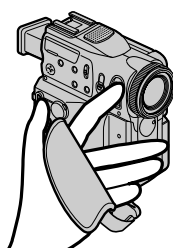
本体

ヘッドホンを使うと

スピーカーから音は出ません。

各部の名前（つづき）

Intelligent Accessory Shoe

インテリジェントアクセサリーシューについて

- 別売りの専用マイクやビデオライトなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入/切ができます。
(お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。)
- 取り付けたアクセサリーがはずれて落ちたりしないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながらはずしてください。

グリップベルトのしめ方

グリップベルトはしっかりとしめてください。

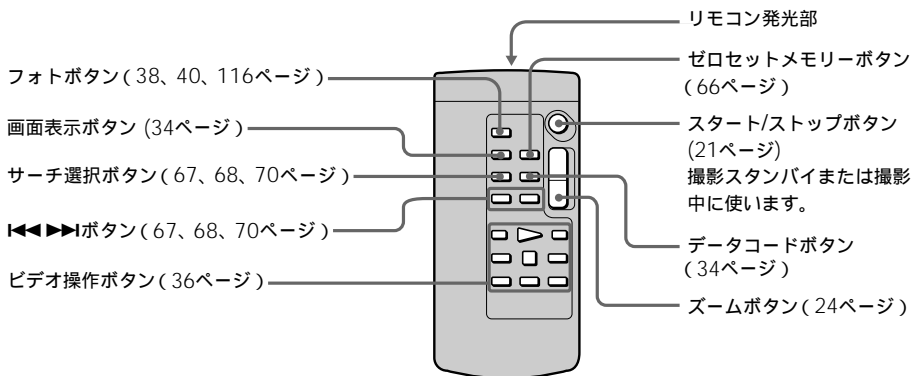
ホールドグリップのにぎり方

ホールドグリップをしっかりとにぎってください。

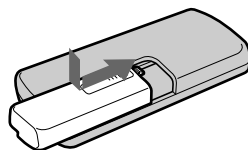
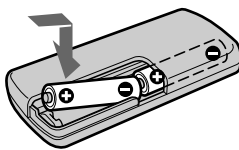
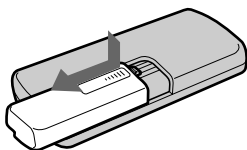
LANCマークについて

は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

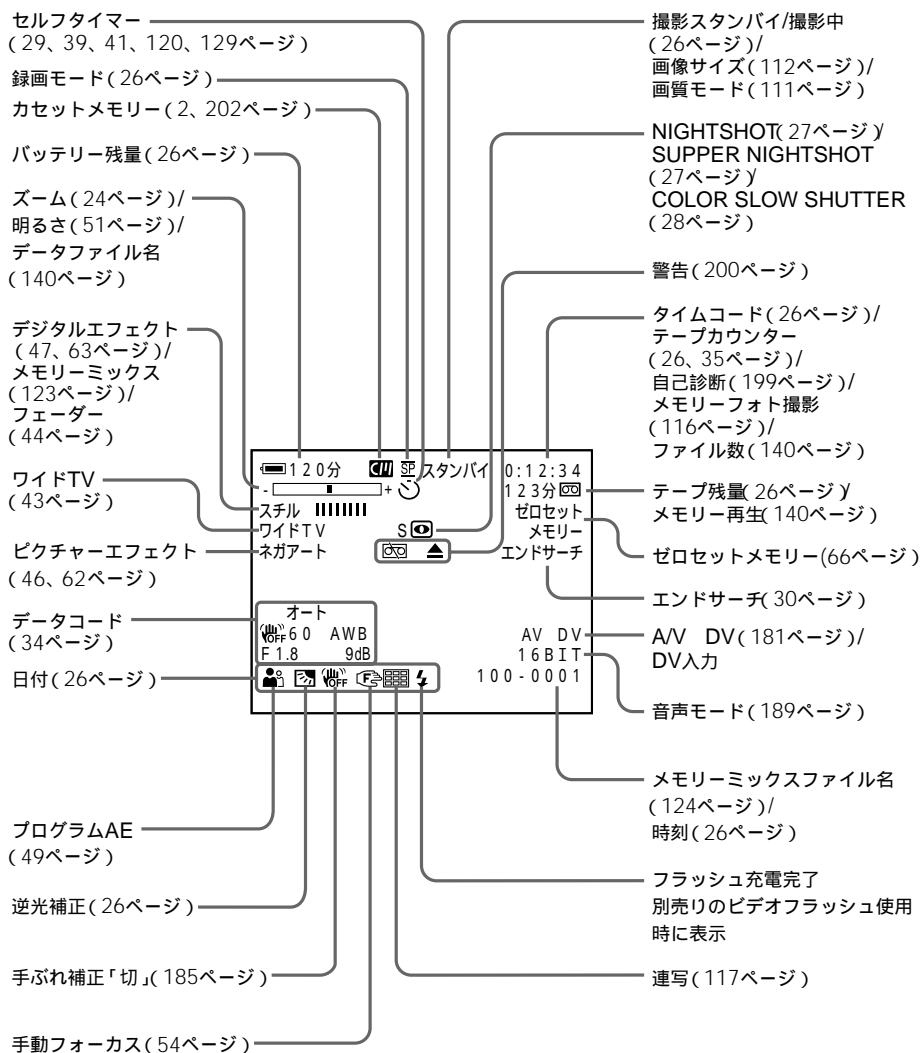
別売りの外部マイクを使う場合

MIC（PLUG IN POWER）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ 押しながらずらす。 ❷ 入れる。 ❸ 元に戻す。

リモコンについて
- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

ファインダーと液晶画面の表示

検索する

索引

ア行

アフレコ 94
インサート編集 92
インターバル録画 56
インデックス表示 140
インテリジェント
アクセサリーシュー
.... 94、214
“インフォリチウム”
バッテリー .... 12、204
エディットサーチ 31
エンドサーチ 30
オートシャッター 184
オートフォトコピー 137
オーバーラップ 44
オールドムービー 47
おしらせブザー 190
お知らせメッセージ 200
音声多重テープ 203
音声ミックス 185
音声モード 189

カ行

カセットメモリー .... 2、202
カセットラベル 104
画質 111
画像サイズ 112
カメラ明るさ 51
カメラクロマキー 123
画面表示 34
カラーテレビ方式 206
逆方向再生 36
逆光補正 26
キャリブレーション 209
グリップベルト 215
警告表示 200
結露 207
広角 24
高速アクセス 36
誤消去防止スイッチ 107
誤消去防止ツマミ 17
コマ撮り 59

サ行

再生時間 13
撮影時間 13
サブ（音声） 185
自己診断表示 199
時差補正 190
視度調節 23
充電 11
充電式ボタン電池 208
主音声 203
ズーム 24
スチル 47
ステレオ音声テープ 203
スポットフォーカス 55
スライドショー 147
スローシャッター 47
赤外線送信 27
セルフタイマー撮影
... 29、39、41、120、129
ゼロセットメモリー 66

タ行

タイトル 98
タイトルサーチ 67
タイムコード 26
対面撮影 25
タッチパネル 18
つなぎ撮り 20
データコード 34
テープカウンター 26
テープ再生ズーム 64
テープ残量表示 26
テープフォト撮影 40
デジタルエフェクト .... 47、63
デジタルプログラム
エディット .... 75、132
デジタル変換機能 181
手ぶれ補正 185
デモンストレーション 189
ドットフェーダー 44
トレイル 47

ナ行

二重音声放送テープ 203
ノーマルフェーダー 44

ハ行

倍速再生 36
バイリンガル 185
バウンド 44
バッテリー 10
バッテリー残量表示 26
ピクチャーエフェクト ... 46、62
ピクチャーサーチ 36
日付サーチ 68
日付・時刻合わせ 15
日付・時刻表示 26
ピント合わせ 54
フェーダー 44
フェードイン・
フェードアウト 44
フォーカス 54
フォーマット .... 107、187
フォトサーチ 70
フォトスキャン 72
副音声 203
ブラケット撮影 117
フラッシュモーション 47
プリントマーク 154
フレキシブルスポット測光 ... 53
プログラムAE 49
プロテクト 149
ヘッド 207
ヘッドホン端子 213
ヘッド汚れ表示 207
望遠 24
ホールドグリップ 215
ホワイトバランス 42

マ行

マルチ画面連写 117
満充電 11
メイン（音声） 185
メニュー 182
メモリーオーバーラップ .. 123
メモリークロマキー 123
メモリー再生ズーム 145
メモリー残量表示 128
“メモリースティック” 107
“メモリースティック”の
記録枚数 115
メモリーフォト撮影 116
メモリーミックス 123
メモリールミキー 123
モザイクフェーダー 44
モノトーンフェーダー 44

ラ行

リモコン受光部 214
ルミナンスキー 47
レックレビュー 31
連写 117

ワ行

ワイドTVモード 43
ワイプ 44
ワイヤレスリモコン 216

アルファベット順

ACパワーアダプター
.... 11、14
AV接続ケーブル .... 37、73、
88、95、122、131、181
COLOR SLOW
SHUTTER 28
ID-1方式 43
ID-2方式 43
i.LINK 205
i.LINKケーブル .... 74、90、
122、131、181
JPEG 107
LANC端子 215
MPEG 107
MPEGムービー撮影 128
NIGHTSHOT 27
NTSC方式 206
PTP 189
RESET（リセット）ボタン
.... 197、215
S1映像端子 .... 37、73、88、
122、131、181
SUPER NIGHTSHOT 27
USBストリーミング 160
USB端子 157

カスタマーご登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「デジタルイメージング カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■カスタマーご登録およびご登録内容の変更はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/di-regi/

■カスタマーご登録に関するお問い合わせは
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： 03-5977-7255
受付時間： **月～金曜日　午前10時～午後6時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。
また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。
電話： 0564-62-4979
受付時間： **月～金曜日　午前9時～午後5時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話される前にあらかじめ以下の内容をご用意いただきますとより迅速な対応が可能になります。
①**お客様のデジタルイメージングカスタマー**ID
（既にカスタマーご登録されたお客様にはカスタマーIDが発行されています）
②**本機の型名**（DCR-PC101）**および製造番号**
（保証書などに記載されています）

■ ハンディカムスクエア
ハンディカムの活用法やアクセサリー情報、パソコンへの画像取りこみ方法を掲載しています。
http://www.sony.co.jp/cam/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Japan